算ノ範圍内ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

○朝鮮事業公債法

●法律第十八號　明治四十四年三月二十三日

改正　大正五年第三五號、六年第一二號、七年第一〇號、八年第一六號、九年第四四號、一〇年第二七號、一一年第一二號、一二年第一四號

朝鮮ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ五十五年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ發行シ又ハ三年以内ノ期限ヲ以テ借入金ヲ爲スコトヲ得

朝鮮ニ於ケル煙草專賣制度ノ實施ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ公債ヲ發行スルコトヲ得

前二項ノ公債及借入金ノ額ハ通シテ三億九千三百七十萬圓以内トス

附　則

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣事業公債法

●法律第十三號　大正十一年三月二十八日

明治三四年第二一號、三六年第八號、三七年第一五號、四一年第一四號、大正八年第三號

改正　大正一二年第一五號

第一條　臺灣ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支辨シ且酒專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買收ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ一億三千三百八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年三月十九日前募集シタル臺灣事業公債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○關東州事業公債法

●法律第十五號　大正十一年三月二十八日

第一條　關東州ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ三百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太事業公債法

●法律第二十一號　大正七年三月三十日

改正　大正九年第四六號、一〇年第二九號、一二年第一四號、一三年第一六號

第一條　樺太ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ三千三百五十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臨時國庫證券法

●法律第七號　大正六年七月二十一日

改正　大正七年第一號、八年第一八號、一〇年第四五號

第一條　政府ハ輸出爲替資金ノ疏通ヲ圖リ又ハ【聯合國】ニ對スル輸出軍需品代金ノ決濟ヲ便ニシ其ノ他【聯合國】ノ財政ヲ援助スル爲運用資金ノ必要アリト認ムルトキハ五年内ノ期限ヲ以テ臨時國庫證券ヲ發行スルコトヲ得其ノ借換ノ爲必要アルトキ亦同シ

第二條　臨時國庫證券ノ最高發行額ハ八億圓トス但シ借換ノ爲發行スルモノハ此ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

第三條　（削除）

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　（大正十年四月八日法律第四十五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年三月十三日勅令第三十二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

○簡易生命保險積立金運用規則

●勅令第六十八號　大正六年七月十七日

改正　大正九年勅第四六九號

第一條　簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ遞信大臣之ヲ管理スヘシ

第二條　積立金ハ簡易生命保險法第二十六條ノ規定ニ依リ保險契約者ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外簡易生命保險積立金運用委員會ニ諮問シ公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

第三條　所管大臣ハ毎年度積立金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ簡易生命保險積立金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ豫定ノ計畫ヲ變更スルトキ亦同シ

第四條　積立金ニシテ放資ニ至ラサルモノハ一時之ヲ大藏省預金部又ハ銀行ニ預入シ其ノ他有利且確實ナル有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

第五條　所管大臣ハ部下ノ官吏ニ命シテ積立金ノ出納ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條　積立金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第七條　簡易生命保險積立金運用委員會ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ會長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條　會長ハ遞信大臣ヲ以テ之ニ充ツ

會長ハ會務ヲ總理ス

委員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第九條　簡易生命保險積立金運用委員會ニ幹事ヲ置ク遞信大臣ノ奏請ニ依リ遞信部內ノ高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　簡易生命保險積立金運用委員會ニ書記ヲ置ク遞信部內ノ判任官ノ中ヨリ遞信大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○貨幣法

●法律第十六號　明治三十年三月二十九日

改正　明治三九年第二六號、四〇年第六號、六正五年第八號、七年第四二號、九年第五號、一一年第七三號

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條　純金ノ量目二分ヲ以テ價額ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

白銅貨幣

十錢

五錢

靑銅貨幣

一錢

五厘

第四條　貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用ヰ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條　貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一　金貨幣　純金九百分參和銅一百分

二　銀貨幣　純銀七百二十分參和銅二百八十分

三　白銅貨幣「ニツケル」二百五十分參和銅七百五十分

四　靑銅貨幣　銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條　貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一　二十圓金貨幣　四匁四分四厘四毛四

二　十圓金貨幣　二匁二分二厘二毛二

三　五圓金貨幣　一匁一分一厘一毛一

四　五十錢銀貨幣　一匁三分二厘

五　二十錢銀貨幣　五分二厘八毛

六　十錢白銅貨幣　一匁

七　五錢白銅貨幣　七分

八　一錢靑銅貨幣　一匁

九　五厘靑銅貨幣　五分六厘

第七條　金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣ハ五圓マテ靑銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條　貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條　金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

一　金貨幣二十圓ハ每片八毛六四一千枚每ニ八分三厘十圓ハ每片六毛零五一千枚每ニ六分二厘五圓ハ每片四毛三二一千枚每ニ四分一厘トス

二　銀貨幣五十錢ハ每片一厘七毛一一千枚每ニ一匁零分六厘六毛六二十錢ハ每片一厘零毛七一千枚每ニ五分三厘三毛三トス

第十一條　金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二厘十圓金貨幣二匁二分一厘五圓金貨幣一匁一分零厘五毛トス

第十二條　金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ靑銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條　貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條　金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

附　則

第十五條　從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條　【從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ】

【前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條　從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通リ通用スヘシ

第十八條　此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　此ノ法律ニ牴觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條　此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

（中略）

附　則（大正十一年四月二十八日法律第七十三號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○小額紙幣發行ニ關スル件

（參照　本件ハ憲法第八條ニ依リタルモノニシテ大正七年三月帝國議會承諾濟）

●勅令第二百二號　大正六年十月三十日

第一條　政府ハ補助銀貨ニ代用スル爲臨時必要ニ隨ヒ五十錢、【二十錢及十錢】ノ小額紙幣ヲ發行スルコトヲ得

第二條　政府ハ小額紙幣發行高ニ對シ同額ノ通貨ヲ以テ其ノ引換準備ニ充テ日本銀行ヲシテ之ヲ保管セシム

第三條　小額紙幣ハ十圓迄ヲ限リ法貨トシテ通用ス

第四條　小額紙幣ハ通貨ヲ以テ之ヲ引換フ

小額紙幣ハ日本銀行本支店ニ於テ之ヲ引換フヘシ但シ五圓ニ滿タサル端數ハ引換通貨ノ到達スヘキ時間引換ヲ延期スルコトヲ得

第五條　小額紙幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　小額紙幣ノ發行、銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

朝鮮（大正七年四月一日勅令第六十號ヲ以テ公布ノ日ヨリ施行）

參照　臺灣（明治四十四年四月一日勅令第六十四號ヲ以テ公布ノ日ヨリ施行）

樺太（明治四十四年四月一日勅令第六十五號ヲ以テ公布ノ日ヨリ施行）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

小額紙幣ハ講和條約調印ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セス

○小額紙幣發行期限ニ關スル法律

●法律第六號　大正九年七月二十七日

大正六年勅令第二百二號ニ依ル小額紙幣ハ當分ノ內之ヲ發行スルコトヲ得但シ二十錢及十錢ノ小額紙幣ハ損傷紙幣引換ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外大正十年四月一日以後之ヲ發行セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○金貨幣又ハ金地金輸出許可方

●大藏省令第二十八號　大正六年九月十二日

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者金貨幣百圓未滿ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二章　參考諸法規

前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

地金トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ金貨幣ヲ蒐集、鑄潰又ハ毀傷シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○銀貨幣又ハ銀地金輸出許可方

●大藏省令第二十六號　大正六年九月六日

銀貨幣又ハ銀地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者銀貨幣五十圓未滿ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

地金トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ銀貨幣ヲ蒐集、鑄潰又ハ毀傷シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○産業組合中央金庫法

●法律第四十二號　大正十二年四月六日

第一章　總　則

第一條　産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トス

第二條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

産業組合聯合會ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第三條　産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第四條　産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

産業組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ增加スルコトヲ得

第五條　政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

産業組合聯合會及産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後每年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條　産業組合中央金庫ニハ所得稅及《營業稅》ヲ課セス

登錄稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第二章　役　員

第九條　産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人理事、監事各三人以上ヲ置ク

第十條　理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條　理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

第十二條　産業組合中央金庫ニ評議員二十名以內ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半數以上ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮問ニ應スルモノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第三章　業　務

第十三條　産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以內ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

二　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

三　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト

四　産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

第十四條　産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條　産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一　國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト

二　産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條　産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章　産業債券

第十七條　産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第十八條　産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十九條　産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十七條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以內ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産

業債券ヲ償還スヘシ

第二十條　産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　産業債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

第二十二條　産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第五章　計　算

第二十三條　産業組合中央金庫ノ事業年度ハ一箇年トス

第二十四條　産業組合中央金庫ハ每事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第六章　監督及補助

第二十五條　主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス

第二十六條　産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クル二非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十九條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十條　産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ每事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度內ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十一條　主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十二條　産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十三條　産業組合中央金庫ハ創立初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章　罰　則

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ科料ニ處ス

一　本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二　主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三　第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四　第十六條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五　第十七條第一項及第十九條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

第三十五條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第三十六條　主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十七條　設立委員ハ定款ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集ス

第三十八條　設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十九條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

第四十條　産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●日本興業銀行外二銀行ノ對支借款關係債務ノ整理ニ關スル法律

●法律第四十一號　大正十五年三月三十日

第一條　政府ハ日本興業銀行、臺灣銀行及朝鮮銀行（以下三銀行ト稱ス）ヲシテ左ノ各號ノ借款、前貸及借款ニ關シ其ノ負擔スル債務ノ整理ヲ爲サシムル爲三銀行ニ對シ本法ノ定ムル所ニ依リ國債證券及現金ヲ交付ス

一　三銀行ノ中華民國政府ニ對スル大正七年六月十八日契約ノ吉會鐵道借款前貸一千萬圓、大正七年九月二十八日契約ノ滿蒙四鐵道借款前貸二千萬圓及山東二鐵道借款前貸二千萬圓

二　中華匯業銀行ノ中華民國政府ニ對スル大正七年四月三十日契約ノ有線電信借款二千萬圓及大正七年八月二日契約ノ黑吉兩省金鑛森林借款三千萬圓ノ資金調達ノ爲ニ爲シタル三銀行ノ同行ニ對スル借款

第二條　本法ニ依リ三銀行ノ整理スヘキ債務及其ノ金額ハ左ノ各號ニ定ムルモノトス

一　第三回政府保證興業債券二千萬圓、第四回政府保證興業債券三千萬圓、第五回政府保證興業債券米貨二千二百萬弗及第八十一回興業債券四百六十七萬圓ノ元利支拂ニ必要ナル金額

二　前號ノ外第一條ノ借款前貸及借款ニ關シ三銀行ノ負擔シタル金額四千萬二千五百三十五圓

第三條　政府ハ三銀行カ第四回政府保證興業債券及第八十一回興業債券ヲ直ニ買入償還スル爲必要ナル金額ニ相當スル價格ノ五分利附國債證券ヲ三銀行ニ對シ其ノ負擔額ニ應シ交付ス

第四條　政府ハ三銀行カ第三回及第五回政府保證興業債券ヲ其ノ償還期ニ於テ償還スル爲必要ナル金額ニ相當スル價額ノ五分利附國債證券ヲ三銀行ニ對シ其ノ負擔額ニ應シ交付ス

前項ノ規定ニ依リ國債證券ヲ交付スル迄政府ハ前項ノ興業債券ノ利子支拂ニ必要ナル金額ヲ其ノ支拂期ニ於テ三銀行ニ對シ其ノ負擔額ニ應シ現金ヲ以テ交付ス

第五條　政府ハ三銀行カ第二條第二號ニ規定スル債務ヲ直ニ整理スル爲必要ナル價額ノ五分利附國債證券ヲ三銀行ニ對シ其ノ負擔額ニ應シ交付ス

第六條　政府ハ本法ニ依リ三銀行ニ交付スル爲一億四千四百萬圓ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得

第七條　本法施行後三銀行カ中華民國政府又ハ中華匯業銀行ヨリ第一條ノ借款前貸及借款竝左ノ各號ノ借款ニ關シ元利金ノ支拂ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ政府ニ納付スヘシ

一　第一條ノ借款前貸ニ關シ三銀行ト中華民國政府トノ間ニ成立シタル大正十二年六月二十八日ノ利拂借款七百九十九萬七千八十一圓八十錢、大正十三年九月十三日ノ利拂借款五百二十八萬六千八百二十圓五十一錢及大正十四年七月十五日ノ利拂借款五百三十萬圓

二　第一條ノ借款ニ關シ三銀行ト中華匯業銀行トノ間ニ成立シタル大正十一年一月十五日ノ利拂借款百十萬二千五百圓、大正十二年十月二十四日ノ利拂借款五百五萬三千九百九十五圓九十八錢、大正十三年九月十三日ノ利拂借款六百六十八萬二千九百十六圓七十一錢及大正十四年四月十六日ノ利拂借款二百十八萬四千九百五十五圓二十九錢

三　第一條ノ借款前貸及借款竝前二號ノ借款ニ關シ本法施行後成立スルコトアルヘキ借款

政府ハ必要アリト認ムルトキハ三銀行ヲシテ前項ノ元利金ノ納付ニ代ヘ借款前貸又ハ借款ニ關スル權利ヲ無償ニテ政府ニ讓渡セシムルコトヲ得

第八條　三銀行ハ第一條各號及前條各號ノ借款前貸及借款ニ關スル一切ノ事項ニ付政府ノ指揮命令ヲ受クヘシ

第九條　本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件

（參照　本件ハ憲法第八條ニ依リタルモノニシテ大正九年七月帝國議會承認濟）

●勅令第四十八號　大正九年三月二十五日

第一條　政府ハ獨逸國、墺地利洪牙利國若ハ土耳古國ニ屬シ又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ヲ管理スルコトヲ得

第二條　政府ハ前條ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ其ノ財産ノ所在、種類、數量、價額、權利狀態其ノ他管理ニ必要ナル事項ノ申告ヲ命スルコトヲ得

第三條　當該官吏又ハ吏員ハ第一條ノ財産ニ關シ調査ノ爲必要ナル場所ニ立入リ若ハ檢査ヲ爲シ又ハ其ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ供述ヲ求ムルコトヲ得

第四條　第一條ノ財産ノ管理ハ當該官廳ノ管理命令ヲ以テ之ヲ開始ス

管理命令ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第五條　當該官廳ハ管理財産ニシテ登記又ハ登錄ノ規定アルモノニ付テハ管理財産タル旨ノ登記又ハ登錄ヲ關係ノ官廳其ノ他ニ囑託又ハ請求スヘシ

當該官廳ハ管理財産權ナルトキハ管理財産タル旨ヲ債務者ニ通知スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スヘキ財産ノ管理ハ登記若ハ登錄又ハ通知アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六條　前二條ノ規定ハ財産ノ管理ヲ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　當該官廳ハ管理財産ノ所有者又ハ保管者ニ對シ其ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第八條　管理ニハ財産ノ換價其ノ他ノ處分ヲ包含ス

政府カ擔保權ノ目的タル管理財産ヲ換價シタルトキハ擔保權ハ代金ノ上ニ存在ス此ノ場合ニ於テハ其ノ代金ハ別ニ之ヲ保管スヘシ

第九條　第一條ノ國、國人又ハ法人ハ其ノ者ニ屬スル管理財産ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　管理財産ハ管理ニ依リテ生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ强制執行又競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　財産ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル管理財産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第十二條　財産ノ管理ヲ免ルルノ目的ヲ以テ財産ノ隱匿、處分、毀棄ヲ爲シ若ハ爲サムトスル行爲アリタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ處分ヲ受諾シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ依リ命セラレタル申告ヲ爲サス又ハ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者

二　第三條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虚僞ノ調査資料ヲ提供シ又ハ供述ヲ拒ミ若ハ虚僞ノ供述ヲ爲シタル者

三　第七條ノ規定ニ依ル引渡ノ命令ニ應セサル者

附　則

本令ハ大正八年勅令第三百四號（獨逸國等ニ屬スル財產管理ノ件）失效ノ日（大正九年勅令第四十七號ニ依リ同年三月二十五日）ヨリ之ヲ施行ス

○特殊財產管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件

●内務省令第三號　大正九年三月二十五日

改正　大正九年第三九號、一〇年第二三號

第一條　財產ノ管理、管理ノ解除、換價其ノ他必要ナル處分ハ地方長官之ヲ爲ス

第二條　財產ノ所有者、保管者、其ノ他關係者ハ本令施行ノ際ニ於ケル財產ニ付テハ本令施行後十日内ニ本令施行後シタル財產ニ付テハ其ノ都度地方長官ニ別記樣式ニ依リ財產ニ關スル申告ヲ爲スヘシ但シ獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財產ニシテ大正九年一月十一日以後墺地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財產ニシテ大正九年十月十五日以後洪牙利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財產ニシテ大正十年七月二十七日以後ニ生シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　管理財產ノ所有者及保管者ハ管理財產ニ付キ滅失毀損若ハ變更アリタルトキ又ハ修理ヲ要スト認ムルトキハ其旨直ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條　當該官吏又ハ吏員其ノ職務ヲ執行セムトスルトキハ證票ヲ携帶スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正八年内務省令第三號（獨逸國等ニ屬スル財產管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件）ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別ニ規定スル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

（樣式略ス）

（參照）

大正九年勅令第四十八號ニ依ル管理財產タル國債ニ關スル取扱手續

大正九年三月二十七日

大藏省令第十一號

○同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財產處理ニ關スル件

●勅令第百七十一號　大正九年五月二十七日

第一條　獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財產ヲ以テ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約二百九十七條ニ規定スル支拂ニ充ツルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　前條ノ政府管理財產ノ上ニ存スル抵當權、質權其ノ他ノ擔保權ヲ實行セムトスルトキハ其ノ擔保權者ハ第三條乃至第六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第三條　前條ノ擔保權者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ其ノ擔保權ヲ特殊財產管理局ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ニハ擔保權ノ性質及原因竝債權ノ額ヲ表示シ且證據書類又ハ其ノ謄本ヲ提出スヘシ

第四條　前條ニ規定スル期間ヲ經過シタル後届出ヲ爲シタル擔保權者ハ擔保權ノ目的タリシ財產ノ殘餘價額ノ限度ニ於テノミ政府管理財產ニ付擔保權ヲ實行スルコトヲ得

第五條　第二條ノ擔保權ハ辨濟期ニ至ラサル債權、條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ニ付テモ之ヲ實行スルコトヲ得

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ニ付テハ擔保權ノ實行ハ特殊權利審査會ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價額ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第六條　特殊財產管理局ハ届出アリタル擔保權ノ目的タル管理財產ノ賣却代金ノ中ヨリ管理ノ費用ヲ控除シ其ノ殘金ヲ以テ其ノ擔保權者及之ニ優先スル權利ヲ有スル者ニ民法其ノ他ノ法令ノ規定ニ依ル順位ニ從ヒテ支拂ヲ爲スヘシ

第七條　第一條ニ規定スル支拂ヲ受ケムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ其ノ權利ニ付特殊權利審査會ニ審査ヲ請求スヘシ

特殊權利審査會ハ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル期間滿了後ニ於テモ仍審査ノ請求ヲ受理スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ラサル審査ノ請求ハ前二項ノ規定ニ依ル請求者ニ對シ支拂ヲ爲シ仍政府管理財產ニ殘餘アリト認ムル場合ニ限リ支拂ヲ爲スコトヲ條件トシテ之ヲ受理スルコトヲ得

特殊權利審査會前三項ノ規定ニ依リ審査ノ請求ヲ受理シタルトキハ其ノ請求ハ之ヲ特殊財產管理局ニ對スル支拂ノ請求ト看做ス

第八條　賠償請求ノ目的ヲ財產回收ニ依リ達セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ五月内ニ其ノ希望ヲ表示シ其ノ權利ニ付特殊權利審査會ニ審査ヲ請求スヘシ

第九條　第七條ニ規定スル審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第十條　特殊權利審査會審査ノ爲必要ト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得
前項ノ證據調ハ裁判所其ノ他ノ官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得
前二項ノ證據調ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　特殊權利審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　特殊權利審査會ハ賠償請求ニ關スル審査ノ請求ヲ理由ナシト認ムル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依リ事件ヲ管轄スル機關ニ其ノ事件ヲ送付スヘシ

第十三條　第八條ノ規定ニ依ル財産回收ノ希望ノ表示アリタル場合ニ於テハ前條ニ規定スル手續ハ其ノ回收行ハレタルトキ、回收不能ト認メタルトキ又ハ一部ニ付回收行ハレ他ノ部分ニ付回收不能ト認メタルトキ之ヲ爲スヘシ

第十四條　特殊權利審査會カ金錢債權ニ關スル審査ノ請求ニ付爲シタル決定ニ不服アル者ハ其ノ決定告知ノ日ヨリ起算シ三月內ニ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十五條　內地ニ住居ヲ有セサル者ニ對スル前條ノ訴ハ政府管理財産ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ政府管理財産ノ所在地ハ東京市トス

第十六條　朝鮮、臺灣、樺太、關東州及從前ノ占領地ニ存スル政府管理財産ハ特殊財産管理局之ヲ管理ス

第十七條　第一條ニ規定スル支拂ハ本令ニ規定スル手續ニ從ヒ確定シタル金額ニ依リ特殊財産管理局之ヲ爲ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約ニ依ル財産管理ニ關スル件
大正九年十一月十八日
勅令第五百三十四號

同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約ニ依ル財産管理ニ關スル件
大正十年八月九日
勅令第三百七十六號

第十三章　震災ニ關スル法令

第十三章　震災ニ關スル法令

○高等諸學校震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ニ關スル法律

●法律第十號　大正十三年七月二十二日

改正　一五年第四八號

大正十二年九月ノ震災ニ基ク復舊諸費ニシテ東京帝國大學、東京商科大學及千葉醫科大學ニ關スルモノハ大學特別會計法第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ一般會計ノ所屬トス

帝國大學特別會計ノ資金中東京帝國大學農學部及航空研究所ノ用ニ供スル土地及建造物、官立大學特別會計ノ資金中東京商科大學ノ用ニ供スル土地及建造物竝學校及圖書館特別會計ノ資金中東京女子高等師範學校、東京高等蠶糸學校及東京外國語學校ノ用ニ供スル土地及建造物ニシテ此等諸學校ノ震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ノ結果不用ニ歸スヘキモノハ當該資金ヨリ之ヲ拂出スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設クル件

●勅令第四百六號　大正十二年九月七日

震災ニ基ク特別ノ事情ニ因リ必要アル場合ニ於テハ大藏大臣ハ會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災救護ノ爲ノ恩賜金及寄附金等ノ取扱ニ關スル件

●勅令第四百二十二號　大正十二年九月二十二日

第一條　震災救護ノ爲ノ恩賜金及震災救護ノ目的ヲ以テスル寄附ニ係ル現金、有價證券其ノ他ノ物件ハ本令ニ依リ臨時震災救護事務局ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第二條　有價證券及直接救護ノ用ニ適セサル物件ハ之ヲ換價スルコトヲ得

第三條　預入ニ係ル現金ニ對シテハ大藏省預金部ハ通常預

金利子ヲ附スヘシ

現金ニ關スル出納官吏ノ取扱手續ニ付テハ資金前渡官吏現金取扱ノ例ニ準スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年九月二日ヨリ之ヲ適用ス

○震災救護義捐金出納事務規程

●大藏省令第十八號　大正十二年九月二十六日

第一節　總　則

第一條　震災救護ノ目的ヲ以テ寄附ニ係ル現金、有價證券及有價證券其ノ他ノ物件ノ換價代金竝利子ハ本令ニ依リ之カ取扱ヲ爲スヘシ

前項ノ現金ハ之ヲ義捐金ト稱ス

第二條　臨時震災救護事務局義捐部專任委員ヲ主任出納官吏トシ北海道廳長官及府縣知事ヲ分任出納官吏トス

前項ニ揭クル者ノ外必要アルトキハ臨時震災救護事務局總裁ニ於テ分任出納官吏ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ出納官吏タル者ハ當然義捐金取扱主任官及有價證券取扱主任官タル職務ヲ兼掌スルモノトス

第三條　震災救護ノ爲ノ恩賜金ハ本令ニ準シ取扱フヘシ

第二節　義捐金ノ保管出納

第四條　主任出納官吏又ハ臨時震災救護事務局總裁ノ特ニ指定シタル分任出納官吏ニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　出納官吏義捐金ヲ領收シタルトキハ適宜ノ領收證書ヲ交付スヘシ

第六條　義捐金取扱主任官ハ義捐金ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第七條　義捐金取扱主任官ハ其ノ任地所在ノ日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ

第八條　義捐金取扱主任官義捐金ヲ預入レムトスルトキハ其ノ資格氏名及印鑑ヲ日本銀行ニ届出ツヘシ

第九條　義捐金取扱主任官預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

義捐金取扱主任官ニシテ支拂ヲ爲ス出納官吏ナル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ小切手用紙及預金部預金帳ノ交付ヲ受クヘシ

第十條　分任出納官吏ハ主任出納官吏ニ對シ毎土曜日ニ義捐金收支ノ現況ヲ報告スヘシ

第十一條　義捐金取扱主任官預金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求シ送金濟通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第十二條　義捐金取扱主任官現金ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ出納官吏事務規程第三十一條及第三十四條ノ規定ニ準シ預金額ヲ限度トシテ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出シ支拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　本節ニ定ムルモノヲ除クノ外義捐金ノ保管出納ハ出納官吏事務規程第一章、第三章、第六章及第七章ノ例ニ依ル

第三節　有價證券ノ受拂保管

第十四條　有價證券取扱主任官ハ有價證券ヲ其ノ任地所在ノ日本銀行ニ寄託スヘシ

第十五條　有價證券取扱主任官有價證券ヲ寄託セムトスルトキハ適宜ノ寄託書ヲ添ヘ日本銀行ニ送付シ受託證書ノ交付ヲ受クヘシ

第十六條　有價證券取扱主任官ハ每土曜日ニ有價證券受拂ノ現況ヲ臨時震災救護事務局ニ報告スヘシ

第十七條　臨時震災救護事務局總裁有價證券ヲ換價セムトスル時ハ有價證券取扱主任官ニ命シ時價ヲ以テ日本銀行ヲシテ之ヲ賣拂ハシムヘシ

義捐金取扱主任官日本銀行ヨリ有價證券賣拂代金ヲ預金額ニ振替整理濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ關係帳簿ノ整理ヲ爲スヘシ

第十八條　第五條、第七條及第八條ノ規定ハ有價證券ノ受拂ニ付之ヲ準用ス

第十九條　本節ニ定ムルモノヲ除クノ外有價證券ノ受拂保管ハ政府保管有價證券取扱規程ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ大正十二年九月二日ヨリ之ヲ適用ス

○震災被害者ニ對スル租稅ノ減免等ニ關スル件

（參照　本件ハ憲法第八條ニ依リタルモノニシテ大正十二年十二月帝國議會承諾濟）

●勅令第四百十號　大正十二年九月十二日

第一條　政府ハ震災被害者ノ納付スヘキ大正十二年分ノ第三種所得稅及營業稅ニ付各納稅者ノ被害ノ狀況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條　政府ハ震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

一　地　租
二　所得稅
三　營業稅
四　相續稅

第三條　第一條ノ震災被害者及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災被害者ニ對スル租稅ノ減免等ニ關スル件ノ施行ニ關スル件

●勅令第四百三十三號　大正十二年九月三十日

第一條　大正十二年勅令第四百十號第三條ノ規定ニ依リ震災地及震災被害者ヲ左ノ如ク定ム

一　震災地

東京府（西多摩郡及小笠原島ヲ除ク）

神奈川縣

埼玉縣（秩父郡、兒玉郡及大里郡ヲ除ク）

千葉縣　千葉市　千葉郡　市原郡　東葛飾郡　君津郡　安房郡

山梨縣　中巨摩郡花輪村　東八代郡富士見村　南巨摩郡鰍澤町　南都留郡　明見村　中野村　忍野村

靜岡縣　沼津市　田方郡　駿東郡　加茂郡

二　震災被害者

大正十二年九月一日ノ震災（之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム以下同シ）ニ因リ損害ヲ受ケタル者

第二條　震災被害者中政府ノ決定シタル所得金額一萬圓以下（同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト雖モ合算額ニ依ル）ノ者ニシテ自己（同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム）ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財ノ過半カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルモノニ付テハ大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス

第三條　震災被害者ニシテ前條ニ該當セサルモノノ大正十二年分第三種ノ所得ニ付テハ政府ノ決定シタル所得金額中ヨリ左ノ金額ヲ控除シ其ノ殘所得金額ニ付所得稅法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

一　所得稅法第十四條第一項第六號ノ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具、商品、原料品等カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害見積金額

二　自己（同居ノ戶主又ハ家族ヲ含ム）ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財カ震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ノ金額

甲　住宅又ハ家財ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額（同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト雖モ合算額ニ依ル以下同シ）ノ全部

同　一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ八割

同　二萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ六割

同　五萬圓ヲ超エ十萬圓以下ノ金額ノ四割

同　十萬圓ヲ超ユル金額ノ二割

乙　住宅又ハ家財ノ損害甲ノ程度ニ達セサルモ其ノ損害著シキトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額（同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト雖モ合算額ニ依ル以下同シ）ノ五割

同　一萬圓ヲ超エ二萬圓以下ノ金額ノ三割

同　二萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ二割

同　五萬圓ヲ超ユル金額ノ一割

丙　住宅又ハ家財ノ損害乙ノ程度ニ達セサルトキ

所得金額中一萬圓以下ノ金額（同居ノ戶主又ハ家族ノ分ト雖モ合算額ニ依ル以下同シ）ノ二割

同　一萬圓ヲ超エ五萬圓以下ノ金額ノ一割

三　第一號又ハ前號ノ規定ノ適用ヲ受クル者所得稅法第十四條第一項第一號又ハ第六號ノ所得ニ付震災ノ影響ニ依リ收入ノ全部又ハ大部分ヲ得ルコト能ハサルニ至リタルトキハ當該所得ノ三分ノ一ニ相當スル金額

前項第二號ノ場合ニ於テ同居者一人毎ノ控除金額ハ各其ノ所得金額ニ案分シテ之ヲ計算ス

震災被害者カ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋ニ住居スル場合ニ於テハ其ノ選擇ニ依リ第一項第一號又ハ第二號ノ規定ヲ適用ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第四條　所得稅法第六十四條第一項ノ請求ヲ爲ス者ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第五條　第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シ殘所得金額八百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ免除ス

所得稅法第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　震災ニ因リ所得稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分第三種ノ所得金額ノ不明ト爲リタルモノニ付テハ政府ハ所得調査委員會ニ諮問シテ其ノ所得金額ヲ確定スヘシ

第七條　震災被害者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ大正十二年分營業稅第二期分ハ之ヲ免除ス

一　營業ノ用ニ供スル家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等ノ全部又ハ大部分カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

二　商品及原料品ノ全部又ハ大部分カ震災ニ因リ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタルトキ

前項ノ規定ハ各營業場毎ニ之ヲ適用ス但シ營業稅法第十五條第二項ノ規定ニ依リ合算シテ營業稅ヲ課シタルモノニ付テハ各營業場ヲ通シテ之ヲ適用ス

第八條　前條ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケタル者ニ付テハ第一期分ニ相當スル稅額ヲ以テ營業稅法第二十九條ノ其ノ年分營業稅額ト看做ス

第九條　震災被害者ノ大正十二年分營業稅ニ付營業稅法第二十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ營業ノ用ニ供スル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等カ

震災ニ因リ滅失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ヲ營業稅法施行規則第五十五條ノ經費ト看做ス

第十條　震災ニ因リ營業稅法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ決定シタル大正十二年分營業稅課稅標準ノ不明ト爲リタルモノニ付テハ政府ハ營業稅調査委員會ニ諮問シテ其ノ課稅標準ヲ確定スヘシ

第十一條　第二條、第三條又ハ第七條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ被害ノ狀況及損害見積金額ヲ記載シタル申請書ヲ大正十三年一月三十一日迄ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

震災當時ニ於テ納稅地カ震災地ニ在リタル納稅者ニシテ被害ノ事實顯著ナルモノニ付テハ前項ノ申請ナキ場合ト雖政府ノ認ムル所ニ依リ所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ第三條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタルトキハ其ノ殘所得金額ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十三條　本令ニ依ル所得稅又ハ營業稅ノ免除又ハ輕減ニ關スル處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十四條　震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅（第二種所得稅ヲ除ク）、營業稅及相續稅ニシテ納付未濟ニ係ルモノ及大正十二年十月三十一日迄ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十二年十一月一日以後ニ於テ大藏大臣其ノ納期限ヲ定ム

震災地ニ於テ納付スヘキ地租、所得稅（第二種所得稅ヲ除ク）、營業稅及相續稅ニシテ大正十二年十一月一日以後ニ納期限ノ到來スルモノニ付テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ地租、所得稅、營業稅及相續稅ノ徵收猶豫方

●大藏省令第二十六號　大正十二年十月三十一日

第一條　大正十二年勅令第四百三十三號第十四條第一項ノ規定ニ依リ徵收ヲ猶豫シタル租稅ノ納期限ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大正十二年分ノ第三種所得稅第一期分ニ在リテハ大正十三年五月三十一日限其ノ他ノ租稅ニ在リテハ大正十二年十二月二十日限トス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ノ大正十二年分地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年六月一日ヨリ同年十二月十五日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ第三號ノ宅地ノ地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ

徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

一　震災ニ因リ自己ノ住宅ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタル者ノ所有スル土地

二　荒地又ハ收穫皆無地トナラサルモ震災ニ因リ著シク收穫ノ減損スルニ至リタル田畑

三　震災ニ因ル被害激甚ニシテ別ニ指定スル市區町村內ノ宅地

第三條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村ノ大正十二年分地租ニ付テハ地租名寄帳改調後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第四條　大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　震災被害者ノ所得稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年五月一日ヨリ大正十四年二月二十八日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ所得稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テハ納稅義務者ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄稅務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

二　震災ニ因リ所得金額ノ不明トナリタルモノニ付テハ大正十三年十月一日ヨリ大正十四年七月三十一日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第五條　大正十二年分營業稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依ル

一　震災被害者ノ營業稅ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　震災被害者ノ所得稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年五月一日ヨリ大正十四年二月二十八日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ所得稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テハ納稅義務者ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄稅務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

二　震災ニ因リ所得金額ノ不明トナリタルモノニ付テハ大正十三年十月一日ヨリ大正十四年七月三十一日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第五條　大正十二年分營業稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　震災被害者ノ營業稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年三月三十一日限之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ營業稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年五月一日ヨリ大正十四年二月二十八日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

二　震災ニ因リ自己ノ住宅ノ過半カ滅失シ又ハ其ノ用ヲ爲ササルニ至リタル者ノ所有スル土地

二　荒地又ハ收穫皆無地トナラサルモ震災ニ因リ著シク收穫ノ減損スルニ至リタル田畑

三　震災ニ因ル被害激甚ニシテ別ニ指定スル市區町村內ノ宅地

第三條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村ノ大正十二年分地租ニ付テハ地租名寄帳改調後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第四條　大正十二年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　震災被害者ノ所得稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年五月一日ヨリ大正十四年二月二十八日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス但シ被害ノ事實顯著ニシテ所得稅ノ減免ヲ受クヘキコト明カナルモノニ付テハ納稅義務者ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄稅務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

二　震災ニ因リ所得金額ノ不明トナリタルモノニ付テハ大正十三年十月一日ヨリ大正十四年七月三十一日迄ノ間ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第五條　大正十二年分營業稅ノ徵收猶豫ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　震災被害者ノ營業稅ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依

三　田租ニ付テハ大正十二年十二月十五日限

四　宅地租第二期分ニ付テハ大正十二年十二月二十八日限

五　其ノ他ノ諸稅ニ付テハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以內

市町村ニ於テ徵收スヘキ租稅ニ付テハ前項ノ申請書ハ納稅地ノ市區町村ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第八條　前條ノ申請書ニハ納稅義務者ノ住所又ハ居所、氏名、稅目、納期區分及左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　地租ニ在リテハ大字、字、地番、地目、段別、地價及被害狀況但シ第二條第一項第一號ノ場合ニ於テハ各大字地目每ノ筆數、段別及地價ノ合計ヲ記載スルヲ以テ足ル

二　其ノ他ノ租稅ニ在リテハ其ノ課稅標準額、稅額、被害狀況及震災當時ニ於ケル納稅地

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災被害者ノ營業稅課稅標準算定ノ特例等ニ關スル件

（參照　本令ハ憲法第八條ニ依リタルモノニシテ大正十三年七月帝國議會承諾濟）

●勅令第二十一號　大正十三年二月二十三日

第一條　營業稅ノ課稅標準ヲ前年ノ實績ニ依リ計算スヘキ場合ニ於テ大正十二年九月一日ノ震災（之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム）ニ因リ營業ノ狀況激變シ課稅標準中著シク減損スヘシト認メラルルモノアルトキハ大正十三年分營業稅ニ限リ豫算ヲ以テ其ノ課稅標準ヲ算定ス

前項ニ該當スル營業者ハ速ニ當該課稅標準ノ豫算ヲ政府ニ申告スヘシ

第二條　政府ハ大正十二年勅令第四百十號第二條ノ震災地ニ於テ大正十三年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

一　地租

二　第一種所得稅

三　相續稅

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ依リ震災地ニ於テ納付スヘキ地租、第一種所得稅及相續稅ノ徵收猶豫方ノ件

●大藏省令第五號　大正十三年三月十四日

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫シ大正十三年十二月一日ヨリ同月十五日限之ヲ徵收ス但シ第二號ノ地租ニ付テハ納稅義務者ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

一　荒地又ハ收穫皆無地トナラサルモ震災ニ因リ著シク收穫ノ減損スルニ至リタル田ノ大正十二年分田租第四期

二　大正十二年大藏省令第二十六號第二條第三號ノ規定ニ依リ指定シタル市區町村內ノ宅地ノ大正十三年分宅地租第一期

第二條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村ノ大正十二年第四期分田租及大正十三年第一期分宅地租ニ付テハ地租名寄帳改調後一年以內ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徵收ス

第三條　震災被害者ノ大正十三年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ニ納付スヘキ左ノ租稅（大正十二年勅令第四百十號第二條ノ規定ニ基キ徵收ヲ猶豫セラレタルモノヲ除ク）ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ狀況ニ應シ五年以內ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

一　大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅

二　大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅（延納年賦金ノ年割額ヲ含ム）

第四條　第一條及第三條ノ規定ニ依リ徵收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ左ノ期限迄ニ所轄稅務署長ニ申請書ヲ提出スヘシ

一　田租ニ付テハ大正十三年四月十五日限

二　宅地租ニ付テハ大正十三年六月十五日限

三　第一種所得稅及相續稅ニ付テハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以內

田租及宅地租ニ付テハ前項ノ申請書ハ納稅地ノ市區町村ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

第五條　前條ノ申請書ニハ納稅義務者ノ住所、氏名、稅目、被害狀況及左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　田租及宅地租ニ在リテハ大字、字、地番、地目、段別及地價

二　第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額

三　相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律

●法律第四號　大正十三年七月十八日

第一條　大正十二年九月一日ノ震災（之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム）ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地ニシテ地租條例第二十條ノ規定ノ適用ナキモノニ付テハ其ノ實況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ大正十二年ヨリ五年以内其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得但シ大正十二年宅地租第一期分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　政府ハ大正十二年勅令第四百十號第二條ノ震災地ニ於テ大正十三年九月一日以後ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

一　地租
二　第一種所得稅
三　相續稅

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災被害地ノ地租免除等ニ關スル施行方ノ件

●大藏省令第二十號　大正十三年八月二日

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ實況ニ應シ宅地ニ在リテハ大正十二年ヨリ三年以内、其ノ他ノ土地ニ在リテハ大正十二年ヨリ五年以内地租ヲ免除ス但シ大正十二年宅地租第一期分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　水路若ハ溜池ノ破壞又ハ井戸ノ湧水涸渇等ニ因リ灌漑又ハ排水ノ便ヲ失シ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
二　地下ノ變動等ニ因リ水持ヲ害シ又ハ濕地ト爲リ收穫ヲ減損スルニ至リタル田畑
三　建物ノ過半カ滅失又ハ倒壞シタル宅地
四　地盤ノ變動又ハ交通ノ障碍等ニ因リ營業ノ狀況容易ニ回復シ難キ地方ノ宅地
五　其ノ他震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ケラレタル土地

第二條　前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ大正十三年九月十五日迄ニ納稅義務者ノ住所、氏名、被害地ノ大字、字、地番、地目、段別、地價及被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

第三條　左ノ市町村内ノ宅地ニシテ震災ニ因リ建物ノ過半カ燒失シタルモノニ付テハ前條ノ申請ナキ場合ニ於テモ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得

東京府　東京市　北豐島郡　南千住町　日暮里町　三河島町
神奈川縣　橫濱市　橫須賀市　鎌倉郡　腰越津村　鎌倉町　中郡　秦野町
足柄下郡　小田原町　眞鶴村
愛甲郡　厚木町
千葉縣　安房郡　船形町

第四條　第二條ノ申請アリタル土地ニ付テハ被害調查中地租ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條　震災ニ因リ地租名寄帳ノ滅失シタル市區町村内ノ地租ニシテ地租名寄帳改調迄ニ納期ノ到來スルモノニ付テハ其ノ改調後一年以内ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル時期ニ之ヲ徴收ス

第六條　震災被害者ノ納付スヘキ左ノ租稅（大正十二年勅令第四百十號第二條又ハ大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ基キ徴收ヲ猶豫セラレタルモノヲ除ク）ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ被害ノ實況ニ應シ五年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ大正十八年八月三十一日ヲ過クルコトヲ得ス

一　大正十二年八月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ノ第一種所得稅
二　大正十二年八月三十一日迄ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅（延納年賦金ノ年割額ヲ含ム）

第七條　前條ノ規定ニ依リ徴收猶豫ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ納稅告知書ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ納稅義務者ノ住所、氏名、稅目、被害ノ狀況及左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

一　第一種所得稅ニ在リテハ當該事業年度ノ期間及稅額
二　相續稅ニ在リテハ相續開始ノ日、被相續人ノ氏名及稅額

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災ニ因リ租稅ヲ減免セラレタル者ノ法令上ノ納稅資格要件ニ關スル法律

●法律第五十四號　大正十二年十二月二十四日

大正十二年勅令第四百十號ニ依リ免除又ハ輕減セラルル所得稅及營業稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除又ハ輕減セラレサルモノト看做ス

前項ノ規定ハ前項ノ所得稅及營業稅ノ附加稅タル市町村稅、大正十二年九月ノ震災ニ因リ免除又ハ輕減セラルル直接府縣稅ノ附加稅タル市町村稅及其ノ他ノ直接市町村稅ニシテ同震災ニ因リ免除又ハ輕減セラルルモノニ付之ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災ニ因リ地租ヲ免除セラルル者ノ法令上ノ納稅資格要件ニ關スル法律

●法律第五號　大正十三年七月十八日

大正十二年九月ノ震災ニ因リ免除セラルル地租ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除セラレサルモノト看做ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災善後公債法

●法律第五十六號　大正十二年十二月二十四日

改正　大正一三年第一三號

第一條　震災ニ伴フ復興事業其ノ他震災善後ノ爲ニ要スル經費支辨ノ爲政府ハ十億七千三百萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件

（參照　本令ハ憲法第七十條ニ依リタルモノニシテ大正十三年七月帝國議會承諾濟）

●勅令第四十六號　大正十三年三月一日

震災善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ二千四百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律

●法律第五十五號　大正十二年十二月二十四日

第一條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ復興事業ノ施行ニ伴ヒ土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ヲ五分利附國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第二條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ總額ハ震災善後公債法ニ依リ發行スル公債又ハ借入金ト通シテ同法ノ規定スル制限額ヲ超ユルコトヲ得ス

震災善後公債法第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○復興事業ノ施行ニ伴ヒ交付スヘキ國債證券ニ關スル件

●勅令第百三十七號　大正十三年六月二日

第一條　復興事業ノ施行ニ伴ヒ政府カ土地所有者其ノ他ノ利害關係人ニ對シ支拂フヘキ補償金其ノ他ノ金額ハ左ニ揭クル場合ニ於テハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ國債ノ最小額面ノ交付價格ニ滿タサル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　特別都市計畫法第八條第一項ノ規定ニ依リ交付スヘキ補償金ヲ支拂フトキ

二　直接自己ノ用ニ供セサル土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ收用又ハ買收シタル場合ニ於テ其ノ所有者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

三　直接自己ノ用ニ供セサル借地又ハ其ノ上ニ存スル借地權ヲ收用又ハ買收シタル場合ニ於テ其ノ借地權者ニ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

四　收用又ハ買收シタル土地ノ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供シ得ル場合ニ於テ當該土地ノ所有者又ハ借地權者ニ對シ補償金又ハ對價ヲ支拂フトキ

五　現金ヲ以テ補償金又ハ對價ヲ交付スヘキ場合ト雖之ヲ受クヘキ者カ同意シタルトキ

第二條　左ニ揭クル場合ニ於テ支拂フヘキ補償金又ハ對價ハ之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

一　前條第一號ノ場合ニ於テ直接自己ノ用ニ供スル土地ニ付其ノ所有者又ハ借地權者カ換地ノ交付ヲ受ケサリシトキ又ハ換地ノ交付ヲ受ケ若ハ換地ノ交付ト共ニ借地權ニ付換地ノ指定ヲ受ケタルモ之ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキ

二　前條第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ對價ノ目的タル土地又ハ借地權カ對價ヲ受クヘキ者ノ債務ノ擔保タルトキ但シ當該債務ノ元利支拂ニ要スル金額ヲ限度トス

第三條　第一條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ支拂フヘキ

補償金又ハ對價ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル金額ノ外之ヲ受クヘキ者ノ請求ニ因リ一人ニ付五千圓ヲ限リ現金ヲ以テ之ヲ交付ス

第四條　本令ニ於テ借地權トハ地上權、永小作權、賃借權及國有財産法第二十四條ノ規定ニ依リ土地ノ貸付ヲ受クル者ノ權利ヲ謂フ

第五條　國債ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○米貨公債及英貨公債ノ發行ニ關スル件

●勅令第十七號　大正十三年二月十三日

第一條　政府ハ震災善後公債法第一條及國債整理基金特別會計法第五條ノ規定ニ依リ北米合衆國紐育ニ於テ米貨公債一億五千萬弗及英國倫敦ニ於テ英貨公債二千五百萬磅ヲ發行ス

第二條　前條ノ公債ノ元利金ノ償還及支拂ハ將來特種ノ歲入又ハ資産ヲ擔保トスル公債ヲ發行スル場合ニ於テハ該歲入又ハ資産ヲ以テ之ト同順位ニ擔保セラルルモノトス

第三條　第一條ノ公債ノ發行ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○震災ニ因ル喪失無記名國債證券ニ關スル法律

●法律第十四號　大正十三年七月二十二日

第一條　大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失又ハ紛失シタル無記名國債證券ニ對シテハ本法ニ依リ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第二條　震災ノ當時前條ノ證券ヲ所有シ又ハ占有シタル者ハ本法施行後三月內ニ限リ喪失國債證券審査會ニ其ノ所有シ又ハ占有シタル證券ノ滅失又ハ紛失ニ付査定ヲ求ムルコトヲ得但シ證券ノ名稱不明ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

本法施行ノ際外國ニ居住スル者ニ付テハ前項ノ期間ハ之ヲ六月トス

第三條　證券滅失ノ査定ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ滅失ヲ査定シタル證券ニ相當スル新證券ヲ交付スルコトヲ得

證券紛失ノ査定ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ニ因リテ生スルコトアルヘキ損失ヲ塡補スル爲確實ナル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシメ紛失ヲ査定シタル證券ニ相當スル新證券ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ擔保及保證人ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一項及第二項ノ場合ニ於テ證券ノ記號不明ナルモノニ付テハ同一名稱ノ證券中適宜ノ記號ノモノヲ交付スルコトヲ得

第四條　前條ノ規定ニ依リ新證券ノ交付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ滅失又ハ紛失シタル證券ノ償還期到來シタルトキハ政府ハ新證券ノ交付ニ代ヘ元利金ノ支拂ヲ爲ス

第五條　紛失ノ査定ヲ受ケタル證券ノ記號又ハ番號不明ナル場合ニ於テ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタルトキハ同一名稱ノ新證券ノ交付ヲ受ケ又ハ之ニ代ヘ元利金ノ支拂ヲ受ケタル者ニシテ記號又ハ番號不明ナル舊證券ニ付紛失ノ査定ヲ受ケタルモノ新證券ノ額面金額又ハ元金額ニ按分シテ其ノ損失ヲ負擔ス

第六條　滅失又ハ紛失シタル同一證券ニ付第二條ノ規定ニ依ル査定ノ請求ニ以上アリタル場合ニ於テハ新證券ノ交付ハ請求者中震災ノ當時舊證券ヲ占有スヘキ權利アリタル者ニ之ヲ爲ス

滅失又ハ紛失シタル證券ニ付存シタル權利ハ新證券ニ付亦之ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ハ第四條ノ元利金ニ付之ヲ準用ス

第七條　喪失國債證券審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

第八條　喪失國債證券審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル上當事者ヲ訊問スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ受クル前喪失國債證券審査會ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九條　喪失國債證券審査會ハ第七條及前條第一項ノ規定ニ依ル證據調ヲ裁判所其ノ他ノ官廳ニ囑託スルコトヲ得

第十條　喪失國債證券審査會ノ組織及證據調其ノ他審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　第一條ノ證券ニシテ震災ノ當時政府ノ保管シタルモノニ付テハ第二條乃至前條ノ規定ニ拘ラス勅令ノ定ムル所ニ依リ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十三年九月十三日勅令第二百八號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行）

○日本銀行ノ手形ノ割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル財政上必要處分ノ件

（參照　本件ハ憲法第七十條ニ依リタルモノニシテ大正十二年十二月帝國議會承諾濟）

●勅令第四百二十四號　大正十二年九月二十七日

政府ハ日本銀行カ左ノ各號ノ一ニ該當スル手形ニシテ大正十四年九月三十日以前ノ滿期日ヲ有スルモノノ割引ヲ爲シ之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ壹億圓ヲ限リ同行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ規定スル手形ノ割引ハ大正十三年三月三十一日迄ニ爲シタルモノニ限ル

一　震災地（東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣及靜岡縣ヲ謂フ以下同シ）ヲ支拂地トスル手形又ハ震災地ニ震災ノ當時營業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ

二　前號ニ規定スル手形ノ書換ノ爲ニ振出シタル手形

三　前二號ニ規定スル手形又ハ震災地ニ營業所ヲ有スル銀行カ他ノ銀行ニ對シ大正十二年九月一日以前ニ發行シタル預金證書若ハ「コールローン」ノ證書ヲ擔保トシテ銀行ノ振出シタル手形

四　前三號ニ規定スル手形ニシテ日本銀行ノ割引シタルモノノ書換ノ爲ニ振出シタル手形

日本銀行ハ本令ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル法律

●法律第三十五號　大正十四年三月三十一日

改正　一五年第三三號

政府ハ日本銀行カ大正十二年勅令第四百二十四號第一項第四號ニ該當スル手形ニシテ大正十四年十月一日ヨリ大正十六年九月三十日迄ノ間ニ於ケル滿期日ヲ有スルモノノ割引ヲ爲シ之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ同行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項補償金額ハ大正十二年勅令第四百二十四號ニ依ル補償金額ト合シテ一億圓ヲ超ユルコトヲ得ス

日本銀行ハ本法ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受クヘシ

附

錄

○會計檢査院恒例報告書類提出期限要覽

件名	期限	備考
檢査事務豫定表	十月末日限	（行務監督規程二） 部長ヲ經テ院長ニ提出
檢査事務分掌表	同	（同 二） 同上
每月末檢査濟否報告表	翌月五日限	（同 四） 同上
審査報告書	其ノ都度	（檢査事務規程一）各計算書ニ對スルモノ但シ部長ニ提出
檢査報告揭載事項	其ノ都度但シ翌年度十月十日限	（同二、三） 部會議又ハ總會議ヲ經テ報告委員ニ提出但シ會議ヲ經サルモノハ部長ヲ經テ院長ニ提出
檢査成績書揭載事項	其ノ都度但シ翌年度十一月十日限	（同二、三） 同上
統計材料	翌年度八月末日限	（同 三） 部長ヲ經テ院長ニ提出
檢了報告書	一箇年度分檢了ノ都度	（同 四、一三、一四、一六）歲入徵收額及支出計算書、國債增減計算書、國有財產增減計算書、國庫金運用計算書ニ對スルモノ但シ部長ニ提出
檢査未完了表、未檢了報告書	翌年度十月十日限	（同 四）九月末日迄ニ前年度計算書ノ一部又ハ全部未檢了ノ場合（前者ハ檢了報告書ニ添附）部長ニ提出
檢査完了金額追報告表	檢査完了ノ都度	（同 四）更ニ檢了報告書ヲ作リ添附部長ニ提出
日本銀行證明ト對照	各課ハ受領ノ都度送付、國庫主管課ハ十五日以內ニ對照シ報告委員ニ送付	（同五、六）各課ハ年度開始前支出計算書、最終徵收額計算書、總括支出計算書ヲ國庫主管課ニ送付、報告委員ハ十五日以內ニ決算內譯表ニ記入
右對照後ノ異動處理	準前項	（同 七）
歲入檢定及確定報告書揭載事項	翌年度十月五日限	（同 一〇）歲入擔當課ハ會議ヲ經テ租稅主管課ニ送付
檢定及確定報告書	翌年度十月十五日限	（同 一〇、一三）租稅主管課ハ歲入決算明細書、各課ハ各省決算報告書及各特別會計決定計算書、國債計算書ニ對スルモノ但シ會議ヲ經テ國庫主管課ニ送付

同	同
檢定報告書	翌年度十月末日限
確定報告書	翌年度十月末日限
既往年度未確定金額ニ對スル確定金額追報告表	準前各項
右確定金額ナキ場合ノ報告	翌年度十月十五日限
決算確定上生シタル事項處理	翌年度十月末日限
判決報告書	一管理期又ハ一箇年度分完了ノ都度
同	其ノ都度
再審開始報告書	其ノ都度
決定報告書	其ノ都度
翌年度十月末日迄ニ判決又ハ決定報告書ヲ提出シ得サル場合ノ處理	翌年度十一月十日限
右完了ニ至ル迄狀況報告	隨時
委託檢查成績報告書調查書	其ノ都度
統計編成	翌年度十月末日限
檢查報告書案	翌年度十一月十日限
檢查成績書案	翌年度十二月十五日限

（同　一四）國有財產增減及同現在額報告書ニ對スルモノ但シ會議ヲ經テ大藏省主管課ニ送付

（同　一六）國庫金運用計算書ニ對スルモノ但シ會議ヲ經テ報告委員ニ送付

（同　一一、一五）國庫主管課ハ總決算及各特別會計決算、大藏省主管課ハ國有財產增減及同現在額總計算書ニ對スルモノ但シ會議ヲ經テ檢定及確定報告書ト共ニ報告委員ニ送付

（同　一二）

（同　一二）

（同　三）

（同　一七）出納官吏ノ計算書ニ對スルモノ但シ部會議又ハ總會議ニ提出

（同　一七）特別ノ必要又ハ會計法第三十六條ノ證明アル場合部會議又ハ總會議ニ提出

（同　二二）部會議又ハ總會議ニ提出

（同　二四）日本銀行、補助又ハ特約保證團體等ノ收支計算書ニ對スルモノ但シ部會議又ハ總會議ニ提出

（同　二五）部長ニ提出

（同　二五）同上

（同　二九）部長ヲ經テ院長ニ提出

（檢查報告及檢查成績書取調規程八）報告委員ヨリ院長ニ提出

（同　七）報告委員ヨリ總會議ニ提出

（同　七）同上

○會計檢查院用字例

上段ノ如ク用例ヲ定ム

あ	い	う
アル	新ニ	新タニ
充ツル	豫メ	豫
新ニ	當ル	當タル
豫メ	預ラス	預カラス
當ル	改メサル	改タメサル
預ラス	非サレハ（出席スルニ非サレハ）	云フ
改メサル	在ラス（此ノ限ニ在ラス）	雖モ
非サレハ（出席スルニ非サレハ）	在リテハ（官吏ニ在リテハ府縣ニ於テハ）	違背、違犯
在ラス（此ノ限ニ在ラス）	至リ	
在リテハ（官吏ニ在リテハ府縣ニ於テハ）	謂フ	
至リ	雖	
謂フ	違反	
雖	以上、以下、二圓以上ハ共ニ二圓ヲ含ム	
違反	受クル	
以上、以下、二圓以上ハ共ニ二圓ヲ含ム		
受クル		

上段ノ如ク用例ヲ定ム

お	か
承クル	關ル
內	係ル
賣拂フ	被リ
惟フニ	揭クル
置ク	
終リ（名詞ノトキハ終）	
及	
及ホサス	
各	
同ク	
遲クトモ	
於テハ（府縣ニ於テハ官吏ニ在リテハ）……ノ場合ニ於テハ……及（又ハ）―	
〔大體上ノ用例〕―及―竝―及―	

お	か
承ル	
內チ	
終ハリ	
及ヒ	
及サス	
各ミ（々）	
同シク	
遲クモ	
……ニ在テハ	
―――及（又ハ）	
―竝―及―竝―	

か

買入ルル　且　代ル　代フル　兼ネシム　拘ラス　限リ（名詞ハ限）　限ニ在ラス　箇　三箇月　三箇年　三年二箇月　汽關　行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得　訴訟及訴願ヲ提起シタル場合ニ於テハ　關　檢　毎ニ　應ヘ　請ヒ　構

且ツ　代ハル　兼子シム　兼シム　拘ハラス　關ハラス　限リニアラス……ニ非ス　ケ、个　三月　三年　三箇年二箇月　瀛關　行政訴訟ヲ提起ス　行政訴訟ヲ爲スコトヲ得　欠　檢　構

き

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

此ノ　之ヲ　超エサル　異リタル　コト（……スルコト）　定ムル　避クル　妨ケス　先チ　爲ササル　差出スヘシ　先ニスヘシ　出願　屢　据置ク　乃チ　少クトモ　凡テ　總テ　選擇　其ノ　具フル　備置キ　但シ　直ニ

此　之レヲ　超ヘサル　異ナリタル　……スル事（コ）　先タチ　爲サヽル　願出　屢ゝ（々）　總テ、都テ　撰擇　其　少クモ　直チニ

つ

と

な

ね

の

立會ハシム　爲ニ　爲　……スル爲　……補フ爲　ツツ　付テハ　付……スルニ付　就キ……本人ニ就キ　閉ツル　停ムル　倶ニ　共ニ　トキ、トモ　居出ツヘシ　居出テスシテ　ナリ　ナシ　爲ス　仍　尚　竝　願出テサルトキハ　述フル　ノ〳〵

爲メニ　爲メ　……スルカ爲メ　……補フカ爲メ　宛　付キテハ　片　阡　居出ヘシ　居出スシテ　無シ　ナス　仍ホ　尚ホ　竝ニ、並ニ、幷ニ　願出サルトキハ　ノ、

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

延ハス　……スルノ權利　……スルノ必要　……ヲ除クノ外　初　始ニ　始リ（始名詞ノトキハ）　均シク　久シキ　引續キ　再ヒ　何分ノ一　附寄附　理由ヲ附ス　交付　付議ニ付ス　ヘシ　「ヘシ」ヲ主トス　本法、本令　儘　迄　亦　益

延ス　……スル權利　……スル必要　……ヲ除ク外　初メ　始メニ　始マリ　均ク、等シク　久キ　引續　再タヒ　何分一　寄付　理由ヲ付ス　交附　議ニ附ス　可シ　スヘシ　スルコトヲ要ス（要件タル場合）　此ノ法律、此ノ勅令　マヽ　マテ、迄　モ亦、亦タ　益ゝ

ま	免ルル	免ル
み	認メラル	自カラ
	自ラ	見做ス
	看做ス	……セントスルトキ
む	……セムトスルトキ	
	以テ	
も	戻入ルル	
	求ムル	
	求ニ	
	モノ	最モ
	者	
	申立ツル	
	最	用ユ
	用ヰ	基ツキ
	用ウ	基ツケル
	基キ	若シ
	基ケル	若クハ
	若	
	若ハ	
	「又ハ」ヲ以テ連續シタルモノノ內譯ヲ要スルトキハ「若ハ」ヲ用ウ	
や	已ム	
	譲渡シ	
ゆ	譲受ケ	

よ	譲渡スル	
	依リ	
	由リ	
	因リ	因テ
	因リテ	
	入ルル	入ル、
	分チテ	分チ
る		
わ	金錢以外ノ數字ハ一、二、三、十	
	金錢ニ關スル數字ハ壹、貳、參、拾	壹、貳、參、拾、万、円
	(參照)	
	法制局用字左ノ如シ一、二、三、十、萬、圓	

○度量衡換算表

第一表(尺貫法標準)

日本	メートル法
毛 尺ノ一萬分ノ一	ミリメートル 〇、〇三〇三〇
厘 尺ノ千分ノ一	ミリメートル 〇、三〇三〇三
分 尺ノ百分ノ一	ミリメートル 三、〇三〇三〇
寸 尺ノ十分ノ一	センチメートル 三、〇三〇三〇
尺 メートルノ三十三分ノ十	デシメートル 三、〇三〇三〇 メートル 〇、三三〇三三
丈 十尺	メートル 三、〇三〇三〇
間 六尺	メートル 一、八一八一八
町 三百六十尺	メートル 一〇九、〇九〇九一
里 一萬二千九百六十尺	メートル 三九二七、二七二七三 キロメートル 三、九二七、二七二七

度 地積		メートル法
勺	步ノ百分ノ一	アール 〇、〇〇〇三三
合	步ノ十分ノ一	アール 〇、〇〇三三一
步又ハ坪	三十六平方尺	アール 〇、〇三三〇六
畝	三十步	アール 〇、九九一七四

量		メートル法
勺	升ノ百分ノ一	ミリリットル 一八〇、三九〇七
合	升ノ十分ノ一	デシリットル 一、八〇三九一
升	リットルノ千三百三十一分ノ二千四百一	リットル 一、八〇三九一
斗	十升	リットル 一八、〇三九〇七
石	百升	リットル 一八〇、三九〇六八 ヘクトリットル 一、八〇三九一

衡		メートル法
毛	貫ノ百萬分ノ一	ミリグラム 三、七五〇〇〇
厘	貫ノ十萬分ノ一	ミリグラム 三七、五〇〇〇
分	貫ノ一萬分ノ一	ミリグラム 三七五、〇〇〇〇
匁	貫ノ千分ノ一	グラム 三、七五〇〇〇
貫	キログラムノ四分ノ十五	キログラム 三、七五〇〇〇
斤	百六十匁	キログラム 〇、六〇〇〇

第二表(メートル法標準)

メートル法　日本

第三表（日本ヤードポンド法標準）

度		メートル法	日本
積	ヘクタール　百アール	ミリメートル　粍　メートルノ千分ノ一	一厘　三、三〇〇〇〇
地	アール　歩ノ四分ノ百二十一	センチメートル　糎　メートルノ百分ノ一	一分　三、三〇〇〇〇
キロメートル　千メートル		デシメートル　粉　メートルノ十分ノ一	一寸　三、三〇〇〇〇
メートル　米			一尺　三、三〇〇〇〇
キロメートル　千メートル			一間　五五、〇〇〇〇
地	アール　歩ノ四分ノ百二十一		一町　九、一〇、〇〇〇
積	ヘクタール　百アール		一歩　三、〇二五〇〇
			一畝　一〇、二五〇〇
			一町　一、〇〇八三
			一歩　一二五、〇〇〇

度		日本採用「ヤード、ポンド」法	日本
インチ　吋　ヤードノ三十六分ノ一			一寸　〇、八三八二〇
フート　呎　ヤードノ三分ノ一			一尺　一〇〇五八四
ヤード　碼　メートルノ千二百五十分ノ千二百四十三			一尺　三、〇一七五二
チエーン　鎖　二十二ヤード			六六尺　六六、三八五四四
			一間尺　一一、〇〇三八五四四
マイル　哩　千七百六十ヤード			五二一〇八三五町間尺　一四四五、〇八三五里　〇、四〇九七九

衡		日本採用「ヤード、ポンド」法	日本
量	ガロン　リツトルノ六千六百五十五萬分ノ二億五千百九十二萬		一升　二、〇九八四六
	ゲレーン　ポンドノ七千分ノ一		一粍　一七、二八〇〇
	オンス　ポンドノ十六分ノ一		一匁　七、五六〇〇〇
	ポンド　封度　キログラムノ千二百五十分ノ五百六十七		一匁　一二〇、九六〇一五
	トン　噸（英トン）二千二百四十ポンド		一貫　二七〇、九五〇六二

衡		メートル法	日本
量	ミリリツトル　竰　リツトルノ千分ノ一		一勺　〇、〇五六四四
	デシリツトル　勺　リツトルノ十分ノ一		一合　〇、五六四三五
	リツトル　立　升ノ二千四百〇一分ノ千三百三十一		一升　〇、五六四三五
	ヘクトリツトル　百リツトル		一石　〇、五六四三五
	ミリグラム　氂　キログラムノ百萬分ノ一		一毛　〇、二六六六七
	グラム　瓦　キログラムノ千分ノ一		一分　二、六六六六七
	キログラム　瓩　貫ノ十五分ノ四		一貫　〇、二六六六七

○各會計名及收支整理期間一覽　（大正十五年七月一日現在）

所管別	會計名	法令	小切手振出	日本銀行取扱	備考
			支出	國庫内移換支出	定額戻入	受入	歲出金支拂	
	一般會計	大正一〇、四、八法律 四二	翌年度四月三十日限	翌年度五月三十一日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度五月三十一日限	
	特別會計							
外務省所管	對支文化事業	大正一二、三、三一法律 三六						
内務省所管	健康保險	大正一五、三、二九法律 二六						
	造幣局（資金部）	大正四、六、二一法律 九	當該年度三月三十一日限	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	
	印刷局	明治三三、三、一八法律 一七	當該年度三月三十一日限	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	
	專賣局	明治三三、三、一八法律 一七	當該年度三月三十一日限	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	
	大藏省預金部	大正一四、三、三〇法律 一三						
	教育基金	明治三三、三、三〇法律 八〇						
	國債整理基金	明治三九、三、二法律 六						
	公債金	大正八、三、二五法律 一五						
	賠償金	大正九、八、三法律 二五						
大藏省所管	國有財產整理資金	大正一一、三、二八法律 六六						
	教育改善及農村振興基金	大正一四、三、三〇法律 一四						
	朝鮮總督府	明治四三、九、三〇勅令 四〇六						本會計法ハ大正十六年一月一日ヨリ施行 明治三三、三、二一法律第三〇號ヲ以テ新設

	朝鮮鐵道用品資金	大正一四、三、三〇法律一八	當該年度三月三十一日限			當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		
	臺灣總督府	明治三〇、二、二六法律二				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
	臺灣官設鐵道用品資金	明治三五、三、八法律一三	當該年度三月三十一日限			當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		
	關東廳	明治四〇、三、二〇法律一七				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
	樺太廳	明治四〇、三、二〇法律一八				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
	南洋廳	大正一一、三、三一法律二五				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
陸軍省所管	陸軍造兵廠	明治二三、三、一八法律一八	當該年度三月三十一日限		翌年度四月三十日迄	當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		大正一二、三、一七、法律第七號ヲ以テ東京大阪砲兵工廠ヲ陸軍造兵廠ニ改ム
	千住製絨所	明治二三、三、一八法律一八	當該年度三月三十一日限		翌年度四月三十日迄	當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		
海軍省所管	海軍工廠資金	明治三八、二、一六法律一五				當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		
	海軍火藥廠	明治二三、三、一八法律一七	當該年度三月三十一日限		翌年度四月三十日迄	當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		大正八、三、二五、法律第八號ヲ以テ新設
	海軍燃料廠	明治二三、三、一八法律一七	當該年度三月三十一日限		翌年度四月三十日迄	當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		明治三九、三、二三、法律第一一號ヲ以テ海軍採炭所ヲ置キ大正一〇、三、三〇、法律第八號ヲ以テ海軍燃料廠ト改ム
文部省所管	帝國大學（資金部）	大正一〇、三、三〇法律一一				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
	官立大學	大正一〇、三、三〇法律一一				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
	學校及圖書館（資金部）	明治四〇、三、二七法律二三				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
農林省所管	米穀需給調節	大正一〇、四、四法律三七	當該年度三月三十一日限	翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄	當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		
商工省所管	製鐵所	明治二三、三、一八法律一七	當該年度三月三十一日限		翌年度四月三十日迄	當該年度三月三十一日限	當該年度三月三十一日限		明治三三、二、八、法律第一二號ヲ以テ新設シ大正一五、三、三一、法律第四六號ヲ以テ製鐵所特別會計法ヲ公布シ大正一六年度ヨリ施行
遞信省所管	簡易生命保險	大正五、七、一〇法律四三				翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		
	郵便年金	大正一五、三、三〇法律四〇							本會計法ハ施行期日未公布
鐵道省所管	帝國鐵道（資本勘定 用品勘定 收益勘定）	明治四二、三、二二法律六	翌年度四月三十日限			翌年度四月三十日迄	翌年度四月三十日迄		

一 特別會計ニシテ整理期間ノ記載ナキモノハ一般會計ニ準據ス

一 作業益金及資金ノ過剰金ニ關シテハ大正十一年三月大藏大臣達藏第三五五〇號國庫內移換手續ニ依リ小切手ヲ振出サス移換請求書ヲ日本銀行ニ送付スル取扱アリ

一 出納官吏及出納員ノ歳入金收納ハ翌年度四月三十日限

一 出納官吏ノ支拂ハ翌年度四月三十日限

一 帝國鐵道會計歳入歳出金出納ニシテ左記ノ場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ出納ヲ爲スコトヲ得

一 出納官吏ノ領收シタル歳入金ヲ日本銀行ニ拂込ムトキ

二 繰替拂ヲ爲シタル金額ニ對シ小切手ヲ振出ストキ

三 鐵道益金若ハ用品勘定過剰金ヲ資本勘定ニ繰入ルルトキ又ハ用品資金補足金ヲ用品勘定ニ繰入ルルトキ

一 日本銀行受入ニシテ左記ノ場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歳入金ノ拂込アリタルトキ

二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歳入金ノ送付アリタルトキ

三 國庫內ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲ストキ

○廢止規程件名一覽

舊會計檢查法規所揭ノモノニシテ大正十二年一月一日以降廢止ニ係ルモノヲ揭ク

○太政官布告

一 預金規則（明治十八年五月三十日太政官布告第十三號）
大正十四年三月三十日法律第二十五號（預金部預金法）附則ヲ以テ大正十四年四月一日ヨリ廢止

○法律

一 【預金局】預金、郵便貯金、郵便爲替金、郵便取立金特別會計（明治二十三年三月十八日法律第二十一號）
大正十四年三月三十日法律第十三號（大藏省預金部特別會計法）附則ヲ以テ大正十四年度ヨリ廢止

一 官吏恩給法（明治二十三年六月二十一日法律第四十三號）

一 官吏遺族扶助法（明治二十三年六月二十一日法律第四十四號）

一 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則（明治二十九年三月十日法律第三十六號）
大正十二年四月十四日法律第四十八號（恩給法）附則ヲ以テ大正十二年四月十四日法律第四十八號（恩給法）附則ヲ以テ大正十二年十月一日ヨリ廢止

一 陸軍營繕費補充資金特別會計法（明治四十一年三月三十一日法律第四十號）
大正十四年三月三十日法律第十六號ヲ以テ大正十三年度限リ廢止

一 朝鮮醫院及濟生院特別會計法（明治四十五年三月二十八日法律第六號）
大正十四年三月三十日法律第十九號ヲ以テ大正十三年度限リ廢止

一 臨時國庫證券收入金特別會計法（大正六年七月二十一日法律第八號）
大正十四年三月三十日法律第十五號ヲ以テ大正十三年度限リ廢止

一 東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律（大正八年三月二十五日法律第十二號）
大正十四年三月三十日法律第十七號（大學特別會計法中改正ノ件）附則ヲ以テ大正十四年度ヨリ廢止

○勅令

一 文官判任以上ノ者退官賜金ノ件（明治二十三年六月二十一日勅令第九十八號）
大正十二年十月一日ヨリ廢止

一 官吏遺族扶助法納金收入規則（明治二十三年七月十四日勅令第百二十五號）
大正十二年十月九日勅令第四百三十九號（恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則）附則ヲ以テ大正十二年十月九日

ヨリ廢止

一　臘虎及膃肭獸ノ獸皮賣却隨意契約ノ件（大正二年九月二十二日勅令第二百八十號）

大正十二年六月七日勅令第二百九十九號（政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件）附則ヲ以テ大正十二年六月七日ヨリ廢止

一　種緬羊ノ賣買及貸渡隨意契約竝無償付與ノ件（大正六年十月勅令第二百三十三號）

大正十四年一月十二日勅令第一號（種牡牛、種牡馬及種緬羊竝種緬羊ノ果實讓與ノ件）附則ヲ以テ大正十四年一月十二日ヨリ廢止

一　特殊財產管理局ノ管理財產中現金ノ取扱ニ關スル件（大正九年七月十五日勅令第二百十四號）

大正十二年八月二十九日勅令第三百八十九號（特殊財產ノ現金ニ對シ利子ヲ附スルノ件）附則ヲ以テ大正十二年八月二十九日ヨリ廢止

一　非常徵發令（大正十二年九月二日勅令第三百九十六號）

大正十三年七月十八日法律第七號ヲ以テ大正十三年七月十八日ヨリ廢止

一　臨時震災救護事務局官制（大正十二年九月二日勅令第三百九十七號）

大正十三年三月二十九日勅令第五十五號ヲ以テ大正十三年三月三十一日限リ廢止

一　帝都復興審議會官制（大正十二年九月十九日勅令第四百十八號）

大正十三年二月二十五日勅令第二十四號ヲ以テ大正十三年二月二十五日ヨリ廢止

一　臨時物資供給令（大正十二年九月二十二日勅令第四百二十號）

一　臨時物資供給特別會計令（大正十二年九月二十二日勅令第四百二十一號）

大正十二年十二月二十四日勅令第五百九號勅令第五百十號ヲ以テ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ

一　帝都復興院官制（大正十二年九月二十七日勅令第四百二十五號）

大正十三年二月二十五日勅令第二十五號ヲ以テ大正十三年二月二十五日ヨリ廢止

一　臨時營繕局官制（大正十二年十月一日勅令第四百三十四號）

大正十四年四月一日勅令第六十八號ヲ以テ大正十四年四月一日ヨリ廢止

○閣令

一　臨時物資供給令第一條第二項ノ規定ニ依ル物資ノ品目指定ノ件（大正十二年十一月七日閣令第九號）

大正十二年十二月二十四日閣令第十一號ヲ以テ臨時物資供給令失效ノ日限リ之ヲ廢止

○省令

一　臨時物資供給令ノ規定ニ依ル物資ノ品目指定ノ件（大正十二年九月二十二日農商務省令臨第二號）

大正十二年十一月七日閣令第九號（臨時物資供給令第一條第二項ノ規定ニ依ル物資品目指定ノ件）附則ヲ以テ大正十二年十一月七日ヨリ廢止

一　大正十二年勅令第四百六號ニ依リ會計規則ニ對スル特例（契約方法、契約書作成及代價部分拂ニ關シ會計規則ノ規定ニ對スル特例）（大正十二年十月二十日大藏省令第二十四號）

大正十三年十月二日大藏省令第二十三號ヲ以テ大正十三年十月十五日ヨリ廢止

○會計檢查院內達

一　物價取調規程（明治三十三年六月十八日院內達第十二號）

大正十三年七月二十五日院內達第七號（院長官房事務分掌規程）附則ヲ以テ大正十三年八月一日ヨリ廢止

○會計檢查院長決裁

一　證憑書類廢棄手續（明治三十三年五月八日院長決裁）

大正十三年七月二十五日院內達第六號（文書取扱規程）附則ヲ以テ大正十三年八月一日ヨリ廢止

會計檢查法規集加除篇

第壹號

貴族院
函
号
冊

院族責
函
号
冊

昭和　年　月　日

寄贈

加除篇番号	内容現在	整理摘要
第一号	昭和二年七月一日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	

加除篇番号	内容現在	整理摘要
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	
第　号	昭和　年　月　日	

○本紙ハ會計檢査法規集ノ首ニ置キ各事項ヲ記入シテ參考ニ資スルコト

加除篇番號	內容現在整理摘要	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	

加除篇番號	內容現在整理摘要	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	
第　號	昭和　年　月　日	

凡例

一本書ハ會計檢査法規集ノ追錄トシテ大正十五年七月二日ヨリ昭和二年七月一日迄ニ公布セラレタル新法又ハ改廢ニ係ルモノ及其ノ他ヲ追加補正スル爲ニ發行セリ

一加除ハ左記整理表ニ依リ差替ヲ爲スモノトス

昭和二年七月

會計檢査院長官房調査掛

加除整理表

章別	除頁	枚數	加頁	枚數	備考
目次	自一 至一八	九	自一 至二〇	一〇	
第二章	一五、一六	一	一五、一六	一	
同	三五、三六	一	三五、三六	一	
同	四一、四二	一	自四〇ノ二 至四二	四	
同	六三、六四	一	六三、六四	一	
同	（除ク頁ハナシ）		六六ノ二	一	
第三章	自九三 至九六	二	自九三 至九六	二六	

章別	除頁	枚數	加頁	枚數	備考
第三章	一〇一、一〇二	一	一〇一、一〇二	一	
同	自一〇五至一〇八	二	自一〇五至一〇八	三	
同	一一一、一一二	一	一一一、一一二	一	
同	自一一五至一一八	二	自一一五至一一八	三	
同	自一二一至一二四	二	自一二一至一二四	二	
同	一四三、一四四	一	自一四二ノ二至一四四	三	
同	一四七、一四八	一	自一四六ノ二至一四八	二	
同	自一五一至一五四	二	一五一、一五二（一五三缺一五四）	一、	除キタル頁自一五一ヲ五至一五四ヲ五四三（新）頁廢止規程目次ノ順序ニ綴替
第四章	一五五、一五六	一	自一五五至一五六ノ三	二	
第五章	一六一、一六二	一	一六一、一六二	一	
				一五	
				二	
				一	
				一	

正誤

自一九〇ノ二　自一九〇ノ二

至一九〇ノ五　至一九二ノ五

同	二二一、二二二	一	二二一、二二二	一	
同	自二三三至二四〇	四	自二三三至二四〇	五	
第七章	自二九一至三〇六	八	自二九一至三〇六	一三	除キタル頁三〇一、三〇二頁ヲ五四三（新）頁廢止規程目次ノ順序ニ綴替
同	自三〇九至三一六	四	自三〇九至三一六ノ三	八	
同	自三一九至三二八	五	自三一八ノ二至三二八ノ八	一九	
第九章	三三七、三三八	一	三三七、三三八	一	
同	自三四三至三四六	二	自三四三至三四六	二	
同	三五三、三五四	一	三五三、三五四	一	
同	三五九	一	三五九	一	
同	三七七、三七八	一	自三七六ノ二至三七八	二	
同	三八三、三八四	一	自三八二ノ二至三八四	二	
同	自四〇五至四一〇	三	自四〇五至四一〇	六	
同	自四一五至四一八	二	自四一五至四一八ノ一三	八	
同	四二一、四二二	一	四二一、四二二	一	
第十章	自四三七至四四〇	二	自四三六ノ二至四四〇	七	

章別	除頁	枚數	加頁	枚數	備考
第三章	一〇一、一〇二	一	一〇一、一〇二	一	
同	自一〇五 至一〇八	二	自一〇五 至一〇八	三	
同	一一一、一一二	一	一一一、一一二	一	
同	自一一五 至一一八	二	自一一五 至一一八	三	
同	自一二一 至一二四	二	自一二一 至一二四	二	
同	一四三、一四四	一	自一四二ノ二 至一四四	三	
同	一四七、一四八	一	自一四六ノ二 至一四八	二	
同	自一五一 至一五四	二	一五一、一五二（一五三 一五四 缺）	一、	（除キタル頁自一五一至一五四ヲ五四三（新）頁廢止規程目次ノ順序ニ綴替）
第四章	一五五、一五六	一	自一五五 至一五六ノ三	二	
第五章	一六一、一六二	一	一六一、一六二	一	
同	自一六五 至一六八	二	自一六五 至一六八	一五	
同	（除ク頁ハナシ）		自一九〇ノ二 至一九二ノ五	二	
第六章	二一一、二一二	一	二一一、二一二	一	
同	二一七、二一八	一	二一七、二一八	一	
同	二二一、二二二	一	二二一、二二二	一	
同	自二三三 至二四〇	四	自二三三 至二四〇	五	
第七章	自二九一 至三〇六	八	自二九一 至三〇六	一三	（除キタル頁三〇一、三〇二頁ヲ五四三（新）頁廢止規程目次ノ順序ニ綴替）
同	自三〇九 至三一六	四	自三〇九 至三一六ノ三	八	
同	自三一九 至三二八	五	自三一八ノ二 至三二八ノ八	一九	
第九章	三三七、三三八	一	三三七、三三八	一	
同	自三四三 至三四六	二	自三四三 至三四六	二	
同	三五三、三五四	一	三五三、三五四	一	
同	三五九	一	三五九	一	
同	三七七、三七八	一	自三七六ノ二 至三七八	二	
同	三八三、三八四	一	自三八二ノ二 至三八四	二	
同	自四〇五 至四一〇	三	自四〇五 至四一〇	六	
同	自四一五 至四一八	二	自四一五 至四一八ノ一三	八	
同	四二一、四二二	一	四二一、四二二	一	
第十章	自四三七 至四四〇	二	自四三六ノ二 至四四〇	七	

章別	除頁	除枚數	加頁	加枚數	備考
第十章	自四五一 至四五四	二	自四五一 至四五四ノ三	八	
同	四五七、四五八	一	自四五六ノ二 至四五八	三	
同	四六一、四六二	一	自四六一 至四六二ノ六	四	
第十一章	四六五、四六六	一	自四六五 至四六六ノ四	三	
同	四七一、四七二	一	自四七〇ノ二 至四七二	五	
第十二章	四八五、四八六	一	四八五、四八六	一	
同	自四九九 至五〇二	二	自四九八ノ二 至五〇二	五	
同	五一一、五一二	一	自五一〇ノ二 至五一二ノ三	四	
第十三章	五二五、五二六	一	自五二五 至五二六ノ五	三	
同	（除ク頁ハナシ）		五三〇ノ二、五三〇ノ三	一	
附錄	五三九、五四〇	一	五三九、五四〇	一	
同	自五四三 至五四五	二	五四三	一	

除キタル頁 自一五一至一五四、三〇一、三〇二頁ヲ本目次ノ次ヘ綴替

會計檢查法規集

目次

大日本帝國憲法（明治二二）……一
皇室典範（明治二二）……八

第一章　憲法及皇室典範

第二章　會計檢查院諸法規

會計檢查院法（明治二二、法律一五）……一五
會計檢查院事務章程（明治三二、勅令四五七）……一七
會計檢查院事務章程第三十三條ニ依ル亡失、辨償、私訴ニ關シ報告方各省大臣ヘ要求ノ件（明治三三、送三七八通牒）……二〇
經費仕拂上被詐取ノ事實發見ノトキ報告方各省大臣ヘ照會ノ件（明治三五、送六二四照會）……二〇
會計檢查院各部課管理事務（大正一〇、院内達五）……二一
國有財產整理資金各部課管理事務（大正一一、院長決裁）……二一
院長官房事務分掌規程（大正一三、院内達七）……二一
檢查報告及檢查成績書取調規程（大正一一、院内達五）……二二

檢査事務規程(大正一一、院内達四)……二一三
委託檢査取扱順序(明治三五、送二六四通牒)……三六
檢査事務規程第十七條ニ依ル朝鮮臺灣關東州及樺太等ニ於ケル出納官吏計算書ノ判決報告書中所管廳ノ記載方ニ關スル件(大正一三、第三部長決裁)……四〇ノ二
檢査事務規程第二十四條ニ依ル通牒書案ノ處理方ニ關スル件(大正一四、院長決裁)……四〇ノ三
檢査事務規程第二十四條中所管大臣解釋ノ件(大正一四、院長決裁)……四〇ノ三
檢査事務規程第二十九條ニ依ル委託檢査成績報告書ニ對スル調査報告書ニ關スル件(大正一三、院長決裁)……四〇ノ三
震火災ノ爲認可狀交付未濟ノ場合ニ於ケル處理ニ關スル件(大正一三、院長決裁)……四〇ノ三
震火災ノ爲計算證明ヲ爲スコト能ハサル出納官吏ニ對スル檢査及判決據置報告書ニ關スル件(大正一三、院長決裁)……四〇ノ四
震火災ノ爲計算證明ヲ爲スコト能ハサル出納官吏ノ檢査及判決據置ニ伴フ通牒書ニ關スル件(大正一三、院長決裁)……四〇ノ五
判決報告書中改元ニ基ク會計年度ノ記載方ノ件(昭和二、院長決裁)……四〇ノ六
昭和二年勅令第十五號出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル取扱方ノ件(昭和二、略總二)……四〇ノ六
昭和二年勅令第十五號恩赦ニ依ル判決報告書取扱方ノ件(昭和二、院長決裁)……四一
部會議議決事項(大正一一、院内達七)……四二
議事細則(大正一一、院内達八)……四二
行務監督規程(大正一一、院内達六)……四四
支書取扱規程(大正一三、院内達六)……五五
會計檢査院勅任檢査官及書記定員ノ件(明治四三、勅令一一三)……六三
會計檢査官任用資格ノ件(明治二二、勅令八〇)……六三
會計檢査官退官ニ關スル法律(明治二九、法律九一)……六三
會計檢査官懲戒法(明治三三、法律二一)……六四
職員休暇規程(大正一三、院内達五)……六六ノ二

第三章　會計法及會計規則

第一節　一般會計

會計法(大正一〇、法律四二)……六七
會計規則(大正一一、勅令一)……七一
國産奬勵ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關スル法律(昭和二、法律四一)……九四
大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件(大正一二、勅令三〇五)……九四
會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式(大正一一、大藏省令一〇)……九四
會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件(大正一一、大藏省令四三)……九五
歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續(大正一一、大藏省令三八)……九五
入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件(明治四三、勅令三四〇)……九六
政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件(明治四一、勅令二八七)……九七
國庫出納金端數計算法(大正五、法律二)……九七
國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件(大正五、勅令五六)……九八
國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定(大正五、大藏省令二)……九八
政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合會計上ノ規程(明治二六、勅令二六一)……九八

第二節　特別會計

第一款　通則

作業會計法(明治二三、法律一七)……一〇一
作業會計規則(大正一一、勅令三四)……一〇二
特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件(明治三〇、勅令一一八)……一〇五

第二款　外務省所管

對支文化事業特別會計法(大正一二、法律三六)……一〇五

第三款　內務省所管

健康保險特別會計法(大正一五、法律二六)……一〇六
健康保險特別會計規則(昭和元、勅令四)……一〇六ノ二

第四款　大藏省所管

造幣局特別會計法(大正四、法律九)……一〇七
造幣局特別會計規則(大正五、勅令七五)……一〇八
造幣局据置運轉資本增加及設備擴張費ニ關スル法律(大正八、法律九)……一〇九
專賣局作業會計規則(明治三三、勅令二〇)……一一〇
專賣局据置運轉資本補足ニ關スル法律(明治三八、法律一七)……一一二
大藏省預金部特別會計法(大正一四、法律一三)……一一三
大藏省預金部特別會計規則(大正一四、勅令五四)……一一三
教育基金特別會計法(明治三二、法律八〇)……一一四

國債整理基金特別會計法(明治三九、法律六)……一一五
公債金特別會計法(大正八、法律一五)……一一六
賠償金特別會計法(大正九、法律二五)……一一六ノ二
賠償金特別會計規則(大正九、勅令二五四)……一一六ノ三
國有財產整理資金特別會計法(大正一一、法律六)……一一六ノ三
國有財產整理資金特別會計法ノ特例ニ關スル法律(昭和二、法律一五)……一一七
教育改善及農村振興基金特別會計法(大正一四、法律一四)……一一八
朝鮮總督府特別會計ニ關スル件(明治四三、勅令四〇六)……一一九
朝鮮總督府特別會計規則(明治四三、勅令四〇七)……一一九
朝鮮鐵道用品資金會計法(大正一四、法律一八)……一二一
朝鮮鐵道用品資金會計規則(大正一四、勅令四八)……一二一
臺灣總督府特別會計法(明治三〇、法律二)……一二三
臺灣總督府特別會計規則(明治三〇、勅令二七)……一二三
臺灣官設鐵道用品資金會計法(明治三五、法律一三)……一二四
臺灣官設鐵道用品資金會計規則(明治三五、勅令一四〇)……一二五
關東廳特別會計法(明治四〇、法律一七)……一二六
樺太廳特別會計法(明治四〇、法律一八)……一二六
關東廳及樺太廳特別會計規則(明治四〇、勅令八七)……一二七
南洋廳特別會計法(大正一一、法律二五)……一二八
南洋廳特別會計規則(大正一一、勅令一三一)……一二八

第五款　陸軍省所管

陸軍作業會計法(明治二三、法律一八)……一三〇

一　東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ各特別會計合併ニ關スル法律(大正一二、法律七)……一三〇
一　東京大阪兩砲兵工廠ノ据置運轉資本增加ニ關スル法律(大正五、法律一三)……一三一
一　千住製絨所据置運轉資本增加ニ關スル法律(明治三〇、法律四)……一三一
一　千住製絨所据置運轉資本增加ニ關スル法律(明治四〇、法律一六)……一三一

第六款　海軍省所管

一　海軍工廠資金會計法(明治三八、法律一五)……一三一
一　海軍工廠資金會計規則(明治三八、勅令五一)……一三一

第七款　文部省所管

一　大學特別會計法(大正一〇、法律一一)……一三三
一　大學特別會計規則(大正一〇、勅令八一)……一三五
一　學校及圖書館特別會計法(明治四〇、法律一三)……一三七
一　學校及圖書館特別會計規則(明治四〇、勅令六〇)……一三八

第八款　農林省所管

一　米穀需給調節特別會計法(大正一〇、法律三七)……一四〇
一　米穀需給調節特別會計規則(大正一〇、勅令二二四)……一四一

第九款　商工省所管

一　製鐵所特別會計法(大正一五、法律四六)……一四二
一　製鐵所特別會計規則(大正一五、勅令三五一)……一四二ノ三

第十款　遞信省所管

一　簡易生命保險特別會計法(大正五、法律四三)……一四四
一　簡易生命保險特別會計規則(大正五、勅令二〇八)……一四五
一　簡易生命保險特別會計ニ於ケル土地建物ノ買入又ハ建物ノ建設ニ關スル法律(大正一二、法律一二)……一四六
一　郵便年金特別會計法(大正一五、法律四〇)……一四六
一　郵便年金特別會計規則(大正一五、勅令二八二)……一四六ノ二

第十一款　鐵道省所管

一　帝國鐵道會計法(明治四二、法律六)……一四七
一　帝國鐵道會計規則(大正一一、勅令三八)……一四九
（一五三缺）
（一五四缺）

第四章　物品會計

一　物品會計規則(明治二二、勅令八四)……一五五
一　物品會計規則第一條第二項ニ依ル各省大臣ノ指定物品(明治二四、大藏大臣達一四〇五甲外各省達)……一五六ノ二
一　陸軍兵備品會計規則(明治二四、勅令二二)……一五六ノ三
一　海軍兵備品會計規則(明治二三、勅令六四)……一五七
一　陸海軍出師準備ニ屬スル物品檢查ノ件(明治二三、法律七〇)……一五八

第五章　國有財産

國有財産法（大正一〇、法律四三）……一五九
國有財産法施行令（大正一一、勅令一五）……一六二
國有財産法施行規則（大正一一、大藏省令一四）……一六六ノ三
外國官廳ノ用地トシテ貸付スル國有財産ニ關スル法律（昭和二、法律一）……一六七
大藏省所管國有財産取扱規程（大正一一、大藏省訓令一八）……一六八
雜種財産取扱規程（大正一五、大藏省訓令一二）……一八七
官舍貸渡規則（明治九、太政官達五三）……一九〇
官舍貸渡內規（明治二一、內閣達）……一九〇ノ二
朝鮮官有財産管理規則（明治四四、勅令二〇〇）……一九一
臺灣官有財産管理規則（明治三五、勅令三九）……一九三
樺太官有財産管理規則（明治四四、勅令二八九）……一九五
南洋廳所轄ノ國有財産ノ管理ニ關スル件（大正一一、南洋廳令一四）……一九八
北海道國有未開地處分法（明治四一、法律五七）……一九八
樺太國有未開地特別處分令（明治四四、勅令二九〇）……二〇〇
樺太ニ於ケル土地及森林原野ノ產物ノ無償貸付又ハ讓與ニ關スル件（大正四、勅令八六）……二〇二
國有林野法（明治三二、法律八五）……二〇二
北海道國有林野及產物處分令（明治四一、勅令二八六）……二〇五
沖繩縣國有林野特別處分ニ關スル件（明治三九、勅令一九一）……二〇六
朝鮮國有森林未墾地及森林產物特別處分令（大正元、勅令六）……二〇七
臺灣官有森林原野及產物特別處分令（明治二九、勅令三一一）……二〇八
樺太國有森林原野產物特別處分令（明治四四、勅令二九七）……二〇九

第六章　計算證明規程

計算證明規程（大正一一、會計檢查院達一）……二一一
大正十二年勅令第四百二十四號ニ依ル日本銀行手形割引ニ關スル計算書樣式（大正一二、逓八三九照會）……二八一

第七章　收入、支出及出納官吏

第一節　收入

國稅徵收法（明治三〇、法律二二）……二八三
國稅徵收法施行規則（明治三五、勅令一三五）……二八七
歲入徵收官ノ歲入金月計突合表證明ニ關スル件（大正一五、大藏省令五）……二九一
諸收入收納取扱規程（明治三三、大藏省訓令二七）……二九一
租稅外諸收入金整理ニ關スル法律（明治四四、法律五八）……二九二ノ四
明治四十四年法律第五十八號施行規則（明治四四、勅令一一一）……二九二ノ四
證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律（大正五、法律一〇）……二九二ノ五
歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル件（大正五、勅令二五六）……二九二ノ五
歲入納付ニ使用スル證券ノ納付ニ關スル制限（大正五、大藏省令三〇）……二九四
證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則（大正五、大藏省令三二）……二九五
印紙ヲ以テスル歲入金納付ニ關スル件（大正九、勅令一九〇）……二九八
貸付金取扱規程（明治四四、大藏省令一七）……二九九
政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件（大正一〇、勅令三七四）……三〇〇ノ五

一 北海道國有林野及未開地竝其ノ產物賣拂代金延納ノ件(大正一〇、內務省令二四)……三〇一
一 帝國大學資金所屬森林ノ產物又ハ製品賣拂代金延納ニ關スル件(大正一〇、文部省令四三)……三〇一
一 傳染病研究所ニ於テ製造販賣スル痘苗血精類ノ賣拂代金延納ノ件(大正一一、文部省令三一)……三〇一
一 國有林野產物及製品賣拂代金延納ニ關スル件(大正一〇、農商務省令二八)……三〇一
一 森林收入未納金延納許可方(明治三八、農商務省令第二八號)……三〇一
一 製鐵所製品賣拂代金延納ニ關スル件(大正一一、農商務省令二)……三〇二
一 物件賣拂代金延納規則(大正一一、朝鮮總督府令一五五)……三〇二
一 物件賣拂代金延納ニ關スル件(大正一〇、臺灣總督府令一五)……三〇三
一 樺太廳ニ屬スル生產物賣拂代金延納ニ關スル件(大正一〇、樺太廳令四五)……三〇四
一 物件賣拂代金延納規則(大正一二、南洋廳令一〇)……三〇四
一 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則(大正一二、勅令四三九)……三〇五
一 政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタル場合ニ於ケル歲入徵收官ノ事務取扱方(大正一一、大藏省訓令一五)……三〇七

第二節 支出

一 支出官事務規程(大正一一、大藏省令一)……三〇九
一 公共團體ニ對スル工事補助費繰越使用ニ關スル法律(明治四四、法律二)……三一三
一 特別都市計畫事業ニ伴フ建物其ノ他ノ工作物ノ移轉ニ因リ支拂フヘキ補償金等ヲ前金拂ト爲スノ件(大正一三、勅令三〇二)……三一三
一 北海道拓殖鐵道建設費利子支出ニ關スル法律(大正六、法律一〇)……三一三
一 陸軍給與ニ關スル委任經理ノ法律(明治二三、法律二七)……三一四
一 帝國學士院學術研究奬勵金委任經理ニ關スル法律(大正四、法律一三)……三一四
一 帝國美術院美術研究奬勵金委任經理ニ關スル法律(大正一四、法律四〇)……三一五
一 大學竝直轄諸學校ニ於ケル奬學寄附金委任經理規程(明治四〇、文部省訓令四)……三一五
一 郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件(大正四、勅令六)……三一六ノ三
一 郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程(大正四、大藏省令一)……三一六ノ三
一 郵便官署ニ於ケル各廳歲入金及歲出金取扱規則(大正四、遞信省令八)……三一九

第三節 出納官吏

一 出納官吏事務規程(大正一一、大藏省令二)……三二一
一 出納官吏等ノ辨償責任ノ免除ニ關スル件(昭和二、勅令一五)……三二八ノ八

第八章 契約

第一節 一般競爭契約

一 會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、大藏省令三三)……三一九
一 朝鮮ニ於テ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、朝鮮總督府令九〇)……三三〇
一 臺灣ニ於テ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、臺灣總督府令九九)……三三一
一 關東州ニ於テ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、關東廳令三五)……三三一
一 樺太ニ於テ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一一、樺太廳告示六四)……三三二
一 南洋群島ニ於テ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件(大正一二、南洋廳令二六)……三三三

第二節　隨意契約

一　政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件（大正一二、勅令二九九）……三三五
一　賠償金特別會計所屬廻航船舶ノ貸付ニ關スル件（大正九、勅令五六一）……三三五
一　陸軍ニ於ケル豫備馬ノ無償貸渡及無償付與ノ件（大正一〇、勅令四一五）……三三五
一　種牡牛、種牡馬及種緬羊竝種緬羊ノ果實讓與ノ件（大正一四、勅令一）……三三五
一　各省大臣ニ於テ一般競爭ヲ不利ト認メ指名競爭又ハ隨意契約ニ依リタル場合會計檢査院ニ對スル通知事項ニ關スル件（大正一一、送七三二照會）……三三六

第九章　俸給及諸給與

第一節　俸給

一　高等官等俸給令（明治四三、勅令一三四）……三三七
一　判任官俸給令（明治四三、勅令一三五）……三四四
一　文官俸給支給細則（明治二五、大藏省令一一）……三四七
一　文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給ニ關スル件（明治三七、勅令二〇六）……三四七
一　陸海軍准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給支給方（明治三三、勅令一三二、明治三三、大藏省令一九）……三四八
一　道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件（大正一二、勅令四三〇）……三四八

第二節　諸給

一　傭員俸給及傭員其他ニ給スル諸手當支給方（明治二六、勅令七）……三四九
一　年額又ハ月額ノ手當金支給方（明治二二、大藏省令一）……三四九
一　傭人扶助令（大正七、勅令三八二）……三四九
一　官吏療治料給與ノ件（明治二五、勅令八〇）……三五一
一　各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當內規（明治一二、太政官達四）……三五二
一　勤勉手當給與令（大正九、勅令五四五）……三五三
一　交通至難ノ場所ニ在勤スル職員ニ手當給與ノ件（大正九、勅令四〇五）……三五五
一　貴族院及衆議院ノ議事速記ニ從事スル職員ニ特別手當ヲ給スルコトヲ得ルノ件（大正一二、勅令六一）……三五六

第三節　行政及軍備整理ニ依ル賜金

一　行政整理又ハ軍備ノ制限整理ニ關スル公債發行ニ關スル法律（大正一二、法律一七）……三五七
一　行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律（大正一四、法律一四）……三五七
一　行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ支給スル特別ノ賜金又ハ手當ニ關スル件（大正一四、勅令一一五）……三五七
一　行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債ノ發行交付ニ關スル規程（大正一四、大藏省令九）……三五八

第四節　旅費

一　內國旅費規則（明治四三、勅令二七四）……三六一
一　內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方指定ノ件（大正一三、大藏省令二八）……三六五
一　內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃及船賃（大正九、大藏省令一六）……三六五
一　大藏省所管旅費支給規則（明治四三、大藏省令三三）……三六六
一　大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮臺灣及樺太內旅費支給規則（明治四三、大藏省令三五）……三六九

外國旅費規則（大正一〇、勅令四〇一）……三七一
外國旅費規則施行細則（大正一〇、大藏省令三一）……三七六ノ二
南洋群島關東州南滿洲旅費規則（大正一〇、勅令四〇二）……三七七
南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則（大正一〇、大藏省令三二）……三八二ノ二
在外研究員規程（大正一一、勅令六）……三八三

第五節　恩給及救助

恩給法（大正一二、法律四八）……三八七
恩給法施行令（大正一二、勅令三六七）……四〇七
現業員ノ共濟組合ニ對スル政府給與金ニ關スル件（大正九、勅令八〇）……四一八ノ一二
現業員ノ共濟組合ニ對スル政府給與金ノ增額ニ關スル件（昭和元、勅令五）……四一八ノ一二
鐵道部內ノ現業員ノ共濟組合ニ關スル件（明治四〇、勅令一二七）……四一八ノ一三
警部補巡查消防手共濟組合ニ關スル件（大正九、勅令四四）……四一九
印刷局現業員ノ共濟組合ニ關スル件（明治四二、勅令二二）……四一九
內務省直轄土木事業ニ從事スル現業員ノ共濟組合ニ關スル件（大正一二、勅令三三）……四一九
專賣局現業員ノ共濟組合ニ關スル件（明治四一、勅令一五七）……四一九
造幣局現業員ノ共濟組合ニ關スル件（大正一二、勅令一九）……四二〇
陸軍作業廳現業員ノ共濟組合ニ關スル件（大正八、勅令八〇）……四二〇
海軍作業廳所屬雇員以下現業員ノ共濟組合ニ關スル件（大正一一、勅令六〇）……四二〇
林野現業員共濟組合令（大正八、勅令三〇六）……四二一
製鐵所現業員共濟組合ニ關スル件（大正一一、勅令四九五）……四二一
遞信部內ノ現業員共濟組合ニ關スル件（明治四二、勅令一五一）……四二一
朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合ニ關スル件（大正一〇、勅令二三六）……四二二

朝鮮總督府遞信官署現業員共濟組合ニ關スル件（大正九、勅令五七四）……四二二
朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件（大正一四、勅令一一六）……四二二
臺灣總督府專賣局共濟組合ニ關スル件（大正一四、勅令二一四）……四二二
臺灣總督府遞信局及臺灣總督府郵便局現業員共濟組合ニ關スル件（大正二、勅令二七九）……四二三
臺灣總督府鐵道部現業員ノ共濟組合ニ關スル件（明治四二、勅令四九）……四二三
關東廳遞信官署現業員ノ共濟組合ニ關スル件（大正九、勅令五一〇）……四二三
樺太廳鐵道事務所及樺太廳郵便局現業員ノ共濟組合ニ關スル件（大正八、勅令三六一）……四二四
露國政變及西比利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律（大正一一、法律三九）……四二四
西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律（大正一二、法律三九）……四二五
大正九年ニ於ケル尼港事變及「オコーツク」事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律（大正一五、法律四四）……四二五
大正十五年法律第四十四號ニ依ル救恤金ノ交付ニ關スル件（大正一五、勅令六六）……四二六
罹災救助基金法（明治三二、法律七七）……四二七
罹災救助基金法施行手續（大正七、大藏省令八）……四二九

第十章　預金及有價證券

第一節　預金

預金部預金法（大正一四、法律二五）……四三一
預金部資金運用規則（大正一四、勅令五五）……四三一
大藏省預金部ニ預入ルル資金ニ關スル件（大正一四、勅令一一八）……四三三
預金部預金取扱規程（大正一一、大藏省令六）……四三三
日本銀行國庫金取扱規程（大正一一、大藏省令一〇）……四三八

第二節　有價證券

政府所有有價證券取扱規程（大正一一、大藏省令七）……四五三
政府保管有價證券取扱規程（大正一一、大藏省令八）……四五四ノ三
日本銀行政府有價證券取扱規程（大正一一、大藏省令一一）……四五七

第十一章　保管及供託

第一節　保管

保管金規則（明治二三、法律一）……四六三
救恤又ハ學藝技術奬勵寄附金ノ保管出納ニ關スル件（明治三三、勅令三二九）……四六三
保管金取扱規程（大正一一、大藏省令五）……四六三

第二節　供託

供託法（明治三二、法律一五）……四六七
供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル場合ニ關スル件（大正一一、勅令七五）……四六八
供託物取扱規則（大正一一、司法省令二）……四六九
供託有價證券取扱規程（大正一一、大藏省令九）……四七一
供託金受入ヲ東京供託局ニテ取扱フ件（大正一二、司法省告示九）……四七一
供託法第三條ニ依ル供託金ノ利息（大正一一、司法省令三）……四七二

第十二章　參考諸法規

法令形式ノ改善ニ關スル件（大正一五、內閣訓令號外）……四七三
法例抄錄（明治三二、法律一〇）……四七四
朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律（明治四四、法律三〇）……四七四
臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律（大正一〇、法律三）……四七五
樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律（明治四〇、法律二五）……四七五
關東州ニ於ケル諸般ノ成規ニ關スル件（明治三九、勅令二〇三）……四七六
公式令抄錄（明治四〇、勅令六）……四七六
文官任用令（大正一二、勅令二六一）……四七六
文官分限令（明治三二、勅令六二）……四七八
文官懲戒令（明治三三、勅令六三）……四七九
官吏服務紀律（明治二〇、勅令三九）……四八二
官廳ノ執務時間ニ關スル件（大正一一、閣令一六）……四八三
歲入歲出豫算概定順序（明治二二、閣令一二）……四八四
豫定經費算出概則（明治二二、閣令一九）……四八五
市町村義務教育費國庫負擔法（大正一二、法律一〇）……四八六
教育基金令（大正三、勅令二五九）……四八六
地所名稱區別（明治七、太政官布告一二〇）……四八六
土地收用法（明治三三、法律二九）……四八七
特別都市計畫法（大正一二、法律五三）……四八八
電信事業公債法（大正九、法律四二）……四九七
電話事業公債法（大正六、法律一一）……四九九

道路公債法(大正九、法律五九)……四九九
朝鮮事業公債法(昭和二、法律一一)……四九九
臺灣事業公債法(大正一一、法律一三)……五〇〇
關東州事業公債法(大正一一、法律一五)……五〇〇
樺太事業公債法(大正七、法律一二)……五〇〇
臨時國庫證券法(大正六、法律七)……五〇〇ノ二
米穀法(大正一〇、法律三六)……五〇〇ノ二
米穀證券發行規程(大正一〇、大藏省令一七)……五〇〇ノ三
簡易生命保險積立金運用規則(大正六、勅令六八)……五〇〇ノ四
簡易生命保險積立金貸付規則(大正八、遞信省令七四)……五〇〇ノ五
貨幣法(明治三〇、法律一六)……五〇二
小額紙幣發行ニ關スル件(大正六、勅令二〇二)……五〇四
小額紙幣發行期限ニ關スル法律(大正九、法律六)……五〇五
金貨幣又ハ金地金輸出許可方(大正六、大藏省令二八)……五〇五
銀貨幣又ハ銀地金輸出許可方(大正六、大藏省令二八)……五〇六
產業組合中央金庫法(大正一二、法律四二)……五〇九
日本興業銀行外二銀行ノ對支借款關係債務ノ整理ニ關スル法律(大正一五、法律四一)……五一〇ノ二
日本銀行特別融通及損失補償法(昭和二、法律五五)……五一〇ノ二
日本銀行特別融通及損失補償法第一條ニ依ル特別融通ニ關スル規程(昭和二、大藏省令一二)……五一〇ノ二
臺灣ノ金融機關ニ對スル資金融通ニ關スル法律(昭和二、法律五六)……五一〇ノ四
海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律(大正一五、法律五一)……五一〇ノ四
獨逸國等ニ屬スル財產管理ノ件(大正九、勅令四八)……五一〇ノ五
特殊財產管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件(大正九、內務省令三)……五一一
同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財產處理ニ關スル件(大正九、勅令一七一)……五一三

第十三章　震災ニ關スル法令

高等諸學校震災復舊諸費ニ屬スル豫算ノ施行ニ關スル法律(大正一三、法律一〇)……五一五
會計規則其ノ他ノ收入支出ニ關スル命令ノ規定ニ對シ特例ヲ設クル件(大正一二、勅令四〇六)……五一五
震災救護ノ爲ノ恩賜金及寄附金等ノ取扱ニ關スル件(大正一二、勅令四一二)……五一五
震災救護義捐金出納事務規程(大正一二、大藏省令一八)……五一六
震災被害者ニ對スル租稅ノ減免等ニ關スル件(大正一二、勅令四一〇)……五一七
震災被害者ニ對スル租稅ノ減免等ニ關スル件ノ施行ニ關スル件(大正一二、勅令四三三)……五一八
震災地ニ於テ大正十二年度ニ納付スヘキ地租、所得稅、營業稅及相續稅ノ徵收猶豫方(大正一二、大藏省令二六)……五二〇
震災被害者ノ營業稅課稅標準算定ノ特例等ニ關スル件(大正一三、勅令二一)……五二二
大正十三年勅令第二十一號第二條ノ規定ニ依リ震災地ニ於テ納付スヘキ地租、第一種所得稅及相續稅ノ徵收猶豫方ノ件(大正一三、大藏省令五)……五二二
震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律(大正一三、法律四)……五二三
震災被害地ノ地租免除等ニ關スル施行方ノ件(大正一三、大藏省令二〇)……五二四
震災ニ因リ租稅ヲ減免セラレタル者ノ法令上ノ納稅資格要件ニ關スル法律(大正一二、法律五四)……五二五
震災ニ因リ地租ヲ免除セラルル者ノ法令上ノ納稅資格要件ニ關スル法律(大正一三、法律五)……五二六
震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律(昭和二、法律一七)……五二六
昭和二年法律第十七號(震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル件)施行方(昭和二、大藏省令六)……五二六ノ二
震災善後公債法(大正一二、法律五六)……五二六ノ四
震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件(大正一三、勅令四六)……五二六ノ四
復興事業ノ施行ニ伴ヒ支拂フヘキ金額ヲ國債證券ヲ以テ交付スル等ニ關スル法律(大正一二、法律五五)……五二六ノ五
復興事業ノ施行ニ伴ヒ交付スヘキ國債證券ニ關スル件(大正一三、勅令一三七)……五二七
米貨公債及英貨公債ノ發行ニ關スル件(大正一三、勅令一七)……五二八

震災ニ因ル喪失無記名國債證券ニ關スル法律（大正一三、法律一四）……五二八
日本銀行ノ手形ノ割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル財政上必要處分ノ件（大正一二、勅令四二四）……五三〇
日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル法律（大正一四、法律三五）……五三〇
震災手形損失補償公債法（昭和二、法律一九）……五三〇ノ二
震災手形善後處理法（昭和二、法律二〇）……五三〇ノ二

附錄

會計檢査院恒例報告書類提出期限要覽……五三一
會計檢査院用字例……五三三
度量衡換算表……五三七
各會計名及收支整理期間一覽……五三九
廢止規程目次……五四三

第二章　會計檢査院諸法規

○會計檢査院法

●法律第十五號　明治二十二年五月十日

改正　明治三三年第八一號、四三年第三一號、四四年第二三號、大正二年第一一號、五年第三六號、八年第四號、一〇年第五三號、一四年第四三號、昭和二年第二六號

第一章　組織

第一條　會計檢査院ハ天皇ニ直隷シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條　會計檢査院ハ院長一員部長三員檢査官十二員ヲ置キ之ヲ會計檢査官トシ別ニ書記官專任一員副檢査官專任二十員及書記ヲ置ク（昭和二年三月第二六號ヲ以テ改正）

第三條　院長ハ親任、部長ハ勅任、檢査官ハ勅任又ハ奏任、書記官及副檢査官ハ奏任、書記ハ判任トス

勅任檢査官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條　會計檢査院ニ三部ヲ設ケ各部部長一員檢査官四員ヲ以テ檢査ノ事務ヲ分掌ス

第六條　會計檢査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計檢査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ休職ヲ命セラルヽコトナシ

會計檢査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　父子兄弟ハ同時ニ會計檢査官トナルコトヲ得ス

第八條　會計檢査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條　會計檢査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス

總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一　第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二　第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三　第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四　檢査事務ノ規程計算證明ノ樣式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五　其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條　計算檢査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計檢査院長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　會計檢査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ檢査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一　總決算

二　各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三　日本銀行ノ政府ノ爲取扱フ現金及有價證券ノ出納ニ關ル決算

四　政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

五　法律勅令ニ依リ特ニ會計檢査院ノ檢査ニ屬セラレタル決算

第十四條　會計檢査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ檢査確定スルト同時ニ左ノ事項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一　總決算及各省決算報告書ノ金額ト日本銀行ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二　歲入ノ賦課徵收歲出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各〻其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三　豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條　會計檢査院ハ各年度ノ會計檢査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條　會計檢査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ檢査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ檢査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計檢査院ニ報告セシムヘシ前項ノ委託ニ拘ラス會計檢査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第四號ノ團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　現金物品ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計檢査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計檢査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條　會計檢査院ハ計算書及計算證明ノ樣式竝ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條　會計檢査院ハ各官廳ヲシテ檢査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計檢査院長ハ檢査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地檢査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ檢査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

前二項ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル各官廳以外ノモノニ付之ヲ準用ス

第二十條　會計檢査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ檢

候條此段及通牒候也

決定書

何廳職
官氏名

右證明何省所管何年度何々（科目又ハ證明事項）ニ係ル何年何月何日本院判決（又ハ認可）ニ對シ本人ヨリ再審ノ請求アリタルヲ以テ審査ヲ遂ケ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件再審ノ請求ハ之ヲ受理セス

理由

本人請求ノ要旨ハ何々（請求ノ要領ヲ掲ク）ト謂フニ在ルモ何々（決定ノ要領ヲ掲ク）ニ付主文ノ如ク決定ス

年月日　會計檢査院

第八號書式甲（通牒書）

年月日　院長

本屬長官宛

何職官某ノ請求ニ依リ何省所管何年度（科目又ハ證明事項）ニ對シ再審開始候條此段及通牒候也

第八號書式乙（通牒書）

何廳職
官氏名

會計檢査院ハ右證明何省所管何年度（科目又ハ證明事項）再審ヲ開始ス

年月日　院長

○委託檢査取扱順序

明治二四年總第六二號　改正　二六年略總第四一號、大正一二年略總第三號

●總第十二號　明治三十五年二月二十五日（明治三十五年二月二十七日各省大臣等宛送第二百六十四號）

第一號書式

認可狀

何廳職官氏名

一大正何年度自大正何年何月日至同何年何月日（證明事項）

會計檢査院ノ委託ニ依リ前記證明計算ノ檢査ヲ遂ケ茲ニ其責任ヲ解除ス

年　月　日

受託廳長官氏名

一　計算書ニ對シ全部正當ト判決シタルトキ又ハ辨償責任アリト判決シ其辨償ヲ了シタルトキハ出納官吏ニ對シ第一號書式ニ依リ認可狀ヲ交付スヘキコト

二　檢査ノ成績ハ第二號書式ニ依リ年度經過後六ケ月以内ニ會計檢査院ニ報告スヘシ若シ期限ニ至リ檢査未完了ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ報告シ爾後結了ニ隨ヒ其成績ヲ報告スヘキコト

三　會計檢査院法第二十四條ニ依リ再審事項アルトキハ其事實ヲ詳記シタル申報書ニ關係書類ヲ添付シ直ニ會計檢査院ニ提出スヘキコト

四　物品會計規則第十八條ノ二ニ依リ帳簿ヲ以テ證明セシメタル場合ニ於テハ檢査官吏該帳簿ノ末尾ニ檢査濟ノ旨及其年月日ヲ記入シ署名捺印スヘキコト

通知案

會計檢査院法第十六條委託檢査ニ係ル計算ノ檢査及責任解除ニ關シ其檢査取扱順序別紙ノ通改定候條明治三十四年度分ヨリ施行相成度此段及通知候也

年　月　日　院長

委託廳長官宛

遞信大臣ヘハ左ノ追書ヲ加フ

追テ郵便爲替貯金ニ關スル成績報告書式ハ從前ノ通ト御承知相成度此段申添候也

○檢査事務規程第十七條ニ依ル朝鮮臺灣關東州及樺太等ニ於ケル出納官吏計算書ノ判決報告書中所管廳ノ記載方ニ關スル件

●第三部長決裁　大正十三年七月二十日

一　出納官吏（朝鮮臺灣關東州及樺太等各特別會計所屬ノ）ニ對スル判決報告書ノ所管廳ノ欄ニハ省名即チ大藏省名ヲ記入スルコト（認可狀ニモ大藏省所管何年度ト記スルコト一般ノ例ニ同シ）

但シ認可狀ハ直接ニ所管地ノ長官ヲ經由スルコトヲ表示スル爲判決報告書ノ所管廳ノ欄省名ノ下ニ經由官廳名ヲ括弧内ニ併記スルコト「例示大藏省（朝鮮總督府）」

二　省略

○檢査事務規程第二十四條ニ依ル通牒書案ノ處理方ニ關スルノ件

●院長決裁　大正十二年十一月十七日

一　改正檢査事務規程第二十四條ニ依ル通牒書案ハ決定報告書ニ添附スヘキモノナルモ檢査ノ結果總テ正當ト決定シ他ニ何等ノ事故ナク單ニ正當ノ旨ヲ通知スル場合ノ通牒書案ハ便宜決定報告書ニ「要通牒書發遣」ノ旨ヲ記載シテ通牒書案ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

二　前項ノ通牒書案ノ樣式ハ別紙ノ如ク定メ決定報告書ニ通牒書案ノ添附ヲ省略セル場合ニ於テハ院長官房文書掛ニ於テ別紙樣式ニ依ル通牒書ヲ調製スヘシ

三　決定報告書ニ通牒書案ノ添附ヲ省略スルト否トニ拘ラス通牒書發送ヲ要スヘキ決定報告書ニハ「要通牒書發遣」ノ旨記載スヘシ

（別紙）

年　月　日　院長

所管大臣宛

何職官某ノ證明ニ係ル何年度何計算書ノ檢査ヲ遂ケ正當ト決定候條此段及通牒候也

○檢査事務規程第二十四條中所管大臣解釋ノ件

●院長決裁　大正十四年九月二十九日

一　檢査事務規程第二十四條中所管大臣トアルハ朝鮮關東州臺灣樺太及南洋ノ各地ニ本店ヲ有シ直接ニ其ノ地長官ノ監督ヲ受クル補助團體ノ場合ニ在リテハ其ノ地ノ長官トス

二　檢査事務規程第二十四條中所管大臣トアルハ內地ニ本店ヲ有シ直接ニ內閣總理大臣ノ監督ヲ受クル補助團體ノ場合ニ在リテハ內閣總理大臣トス

三　前二項ノ場合ニ於ケル決定報告書所管廳ノ欄ニハ該監督官廳ヲ揭クルモノトス

四　前各項ニ對シ特異ノ取扱ヲ爲スノ要アルトキハ其ノ都度之ヲ定ム

注　意

朝鮮銀行ノ如キ補助團體ヲ檢査スル場合ニ於テハ監督ノ根原タル地位ニ在ル大藏大臣ヲ所管大臣トス

○檢査事務規程第二十九條ニ依ル委託檢査成績報告書ニ對スル調査報告書ニ關スル件

●院長決裁　大正十三年七月七日

改正檢査事務規程第二十九條ニ依ル委託檢査成績報告書ニ對スル調査報告書ハ別ニ樣式ノ限定ナキヲ以テ調査ノ結果ヲ記載シタル文書ヲ作成ノ上提出スルコト尙大正十一年度以降ノ分ニ對スル調査報告書ハ舊樣式ニ依リ提出スルノ要ナキモノトス

○震火災ノ爲認可狀交付未濟ノ場合ニ於ケル處理ニ關スル件

●院長決裁　大正十三年一月十四日

客年九月震災當時既ニ判決濟無責任ト決定シタルモノニシテ當該出納官吏ニ對シ認可狀ノ發送ヲ了セス或ハ認可狀發送後不著ト爲レルモノニ對シテハ右該當ノ事實判明セルモノニ限リ主任課ニ於テ別紙樣式ノ文案ヲ作製シ主管部長ヲ經由シテ院長ニ提出シ決裁ノ上文書掛ニ於テ認可狀交付ノ手續ヲ採ルコトニ決定ス

（別紙）

大正何年何月何日

書記　副檢査官

第　部第　課長

院長

何廳何々出納官吏何官何某ノ取扱ニ係ル何省所管大正何年度（自何年何月何日至何年何月何日）證明計算ニ對シテハ大正十二年九月震災當時既ニ判決濟ナルモ尙認可狀交付未濟ニ付認可狀交付相成度此段及報告候也

注　意

一　本報告書ヲ以テ認可狀交付ヲ要スルモノハ別ニ計算書ノ添附ヲ要セサルモ認可狀記載事項ヲ明記シ完備セサル點ハ其ノ旨及事由ヲ明示スルコト

二　本報告ニ依ルハ判決濟ノモノニ限リ單ニ檢査濟ニシテ判決未濟ニ係ルモノニ對シテハ判決報告案ヲ提出スルコト

○震火災ノ爲計算證明ヲ爲スコト能ハサル出納官吏ニ對スル檢査及判決據置報告書ニ關スル件

●院長決裁　大正十三年十月八日

大正十二年九月ノ震火災ニ因リ出納官吏其ノ管掌スル帳簿書類ヲ滅失シ計算ノ證明ヲ爲スコト能ハサルモノニ對シテハ別紙據置報告書ヲ調製處理スルコトニ決定ス

尙大正十三年總第四號決議第三項ノ場合ニ關シテハ判決報告書中管理期ノ欄ニ檢査判決ヲ爲ササル期間ヲ明ニスルカ爲「但シ自　年　月　日至　年　月　日分ヲ除ク」ト記載シ（認可狀ノ書式モ之ニ準ス）該檢査判決ヲ爲ササル期間ニ對スル處理ハ本文記載ノ據置報告書ニ依ル

（別紙樣式）

大正　年　月　日	副檢査官　書記 第　部第　課長
院長	
議長	
議員	
部長	
檢査及判決據置報告書	
所管廳	
所屬廳	
會計年度	
管理期	
計算ノ種別	
要證明者	

右ハ大正十二年九月ノ震火災ニ因リ其ノ管掌スル帳簿

書類ヲ滅失シ計算ノ證明ヲ爲スコト能ハサルモノナルヲ以テ大正十三年總第四號決議ニ基キ檢査判決ヲ爲サス其ノ儘據置カムトス依テ關係書類相添ヘ茲ニ之ヲ部會議ニ提出ス

（參照）出納官吏ノ帳簿書類滅燼シ證明不能トナリタル場合ノ處理方ニ關スル件

●總第四號　大正十三年九月十八日

一、二省略

三　出納官吏ノ管理期カ震災ノ前後ニ跨リ災害前ノ取扱高ハ帳簿書類燒燼ノ爲之ヲ證明シ能ハサルモノニ就テハ災害後ノ取扱高ノミヲ證明セシムルコト事實已ムヲ得サルモ認可狀ニハ全管理期ヲ揭ケ內震災後ノ取扱額ノミニ付其ノ責任ヲ解除スル旨ヲ明ニスルコト

○震災ノ爲計算證明ヲ爲スコト能ハサル出納官吏ノ檢査及判決據置ニ伴フ通牒書ニ關スル件

●院長決裁　大正十三年十月二十八日

大正十二年九月ノ震火災ニ因リ出納官吏其ノ管掌スル帳簿書類ヲ滅失シ之カ責任解除ノ判決ヲ爲スノ途無キヲ以テ其ノ儘據置クコトニ決定候條此段及通牒候也

右檢査及判決ヲ據置カレタル出納官吏ニ關シテハ之ヲ其ノ本屬長官ニ通知スルコトトシ爾今檢査及判決據置報告書ニハ要通牒書發遣ノ旨表記ス

追テ該通牒書ハ別表樣式ニ依リ官房ニ於テ調製スルモ事ノ異例ニ屬スルモノハ適宜通牒書案ヲ據置報告書ニ添附ノコト

尙既ニ據置報告書提出濟ノモノハ便宜之ヲ一括シ省別ニ整理ノ上要通牒書發遣ノ旨報告ノコト

（別紙）

年　月　日

院長

本屬長官宛

所屬廳	出納官吏種別	官氏名	所管省	年度	管理期

○判決報告書中改元ニ基ク會計年度ノ記載方ノ件

●院長決裁　昭和二年四月一日

大正十五年四月一日ヨリ昭和二年三月三十一日ニ亙ル會計年度ヲ取扱年度トスル場合ニ於テハ判決報告書中會計年度ノ欄ハ「大正十五年度」ト記載スルコトニ決定ス

追而證明上ノ記載如何ト又管理期ノ改元前後タルトヲ問ハス總テ會計年度ハ本文決定ノ通リ記載スヘキモノトス

○昭和二年勅令第十五號出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル取扱方ノ件

●略總第二號　昭和二年三月二十三日

本月七日勅令第十五號ヲ以テ出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務免除ノ件公布ニ付先例ニ依リ本院內取扱方ハ大正元年協第一號ニ準據シ唯其ノ第三項ノ場合ニハ關係者ヲシテ辨償責任カ本勅令ニ依リ免除セラレタルモノナルヲ知ラシムルコト穩當ナリト認ムルヲ以テ認可狀ノ添附書ニ其旨ヲ附記スル樣取扱方ヲ一定セムトス而シテ計算ノ檢査判決委託廳ニ對シテハ大正十三年二月十九日送第二號各省大臣ニ對シテハ送第三號ノ趣旨ニ依リ左案ノ通牒又ハ照會ヲ發セムトス

檢査委託廳ヘ通牒（昭和二年三月二十五日　普第八號）

今般勅令第十五號ヲ以テ出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務免除ノ件發布相成候ニ付貴省ヘ委託ニ係ル計算ノ檢査判決ニ關シテハ左記ニ準シ御取扱相成度此段及通牒候也

年　月　日

院　長

各省大臣宛

追テ貴省所管內各檢査委託廳ニ對シテハ本文ノ趣可然御傳達相煩度御依賴致候

（大藏大臣ニ對シテハ追書「委託廳」ノ下ニ（各植民地分トモ）ト括弧書ノコト）

左　記

一　檢査判決ノ結果既往ニ於テ債務ヲ有スルモノニシテ本勅令第十五號ニ依リ今回債務免除トナリタルモノニ對シテハ認可狀ヲ交付セス

二　將來計算檢査上本勅令ノ免除ニ該當スルモノアルトキハ其ノ事實ヲ判定シ之ヲ關係書類ニ記載シ置クニ止メ直ニ認可狀ヲ交付スルモノトス

但シ本院ヘノ委託檢査成績報告書及認可狀ノ添附書類ニ本勅令ニ依ル免除ノ旨ヲ附記スルコト

會計規則第百三十四條（舊會計規則第八十八條）ニ依リ本勅令發布前辨償ヲ命セラレ既ニ辨償（一部ナルト全部ナルトヲ問ハス）ヲ了シタルモ出納官吏免責ノ理由

アリトシ本院ノ判決ヲ求メタル事項ハ本勅令ノ免除ニ該當スルモノト雖之ニ對シ判決ヲ爲シ本屬長官ニ通牒スヘキモノトス

但シ其ノ有責任ノ場合ニ於テハ辨償判決ノ金額ハ既納辨償額ヲ限度トス

四　昭和元年十二月二十五日前ヨリ其ノ以後ニ渉リ繼續セル事由ニ因リ債務ヲ負フヘキ場合ニ於テハ其ノ前後ヲ區分シ同日前ノ事由ニ因ルコト明ナルモノヲ除キ其ノ以後ニ屬スルモノニ對シテノミ判決スルモノトス

各省大臣ヘ照會（昭和二年三月二十五日　第九號）

今般勅令第十五號ヲ以テ出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務免除ノ件發布相成候ニ就テハ貴省所管内ニ於テ該勅令ニ依リ此際債務ヲ免除セラレタルモノノ官氏名、判決金額、債務免除金額等別紙書式ニ依リ又債務免除ニ該當スルモノナキトキハ其旨御通牒相成度此段及照會候也

年　月　日　　院　長

各省大臣宛

追テ定期貸又ハ据置貸ニ編入ノ上大藏省ニ引繼濟ノモノハ其旨御通牒相成度候

（大藏大臣ニ對シテハ左ノ追書）

追テ各省ニ於テ定期貸又ハ据置貸ニ編入ノ上貴省ヘ引繼濟ニ係ルモノニ對シ貴省ニ於テ免除處分ヲ執行シタルモノハ元所屬省別ニ區分シ御通牒相成度候

（別紙）　出納官吏債務免除金額取調表

年度	所屬部局名	職名	官氏名	判決金額 辨償濟	免除	計	判決年月日	備考

（參照）

勅令第四十一號實施ニ伴フ取扱方一定ノ議

●協第一號　大正元年十一月八日

一　出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル勅令ヲ發布セラレタルニ依リ此際會計檢査院ハ各個ノ事件ヲ指示シテ辨償未了ノ分ヲ免除スヘキコトヲ通知スヘキヤ否ノ問題ニ關シ本院ハ處分ヲ要求シアルヲ以テ其要求ヲ取消スノ意味ニ於テ通知ヲ要スルモノナリト云フ說アレトモ本院ハ敢テ此際何等通知ヲ爲スノ要ナシ總テ本屬長官ニ一任シ置クヲ至當トス但本屬長官ヲシテ此際免除ノ處分ヲ爲シタルモノニ對シテハ照會ノ上本院ニ通知セシメントス

二　前項債務ヲ免除セラレタルモノニ對シ辨償ヲ完了シタルモノト見做シ之ニ認可狀ヲ交付スヘシトノ論アルモ辨償完了ト債務免除トハ同一ニ見做スヘキモノニアラス唯勅令ノ効力ニ依リ負擔ノ義務ヲ免レタルニ過キサルヲ以テ之ニ對シ認可狀ヲ交付セス

三　本院ニ於テ將來計算書檢査上本勅令ノ免除ニ該當スルモノアルトキハ之ニ對シ判決ヲ爲スヘキヤ又ハ直ニ認可狀ヲ交付スヘキヤノ問題ニ關シテハ本院ハ判決報告ニ於テ事實ヲ記載シ置クニ止メ直ニ認可狀ヲ交付スヘキモノトス

四　再審事項ニシテ本勅令ノ免除ニ該當スルモノニ就テハ再審ヲ開始セサルハ勿論既ニ之ヲ開始シタルモノアレハ其進行ヲ停止シ本屬長官ニ向ヒ又ハ本屬長官ヲ經由シテ當該官吏ニ向テ再審取消ノ通牒ヲ發スルモノトス

五　出納官吏本院ノ判決ニ基キ本勅令發布前辨償（一部ナルト全部ナルトヲ問ハス）ヲ了シタル件ニ付再審ヲ要求シタルトキハ之ニ對シ判決ヲ爲シ本屬長官ニ通牒スヘキモノトス但有責任ノ場合ニ於テ判決金額ハ既納辨償額ヲ限度トス

六　會計規則第八十八條ニ據リ本勅令發布前辨償ヲ命セラレ既ニ辨償（一部ナルト全部ナルトヲ問ハス）ヲ了シタルモ出納官吏免責ノ理由アリトシ本院ノ判決ヲ求メタル事項ニシテ本勅令ノ免除ニ該當スルモノニ就テハ第五項ニ同シ

七　金庫出納役ハ出納官吏ノ一タルヲ以テ本勅令ノ範圍内ニ屬スルコト明ナルモ國債ノ元利仕拂ニ付現金前渡ヲ受ケタル日本銀行ニ就テハ多少ノ疑ナキニアラス日本銀行ハ官吏ニアラサルコト勿論ナルモ其責任ハ出納官吏ニ同シク會計法ニ依リ之ヲ負擔スルモノナルコトハ明ニ院議ノ認ムル所ナリ既ニ會計法ニ依リ責任ヲ負フ以上ハ之ヲ出納官吏ト同一ニ論スルニアラサレハ其結論ニ於テ矛盾ヲ來タスヘシ故ニ日本銀行モ亦本勅令ニ依リ責任ヲ免除セラルヽモノトス

八　七月三十日以前ヨリ其以後ニ渉リ繼續セル事由ニ因リ債務ヲ負フヘキ場合ニ於テハ之ヲ七月三十日前後ニ區分シ其以後ノ分ノミニ就テ債務ヲ負ハシムルコトヽスヘキヤ又ハ之ヲ不可分的ノモノト見做シ其全部ニ就キ責任ヲ負ハシムヘキヤノ問題アリ然レトモ出納官吏ノ責任ハ判決ニ依リテ發生スルニアラス亡失毀損等ノ事實ヲ生シタルトキハ其事實ヲ生スルト同時ニ法律ノ力ニ依リ出納官吏ハ之カ負擔ノ責ニ任スヘキモノナリ故ニ繼續ノ場合ト雖モ明ニ七月三十日以前ニ發生シタルコトノ明ナルモノハ之ヲ區分シ其以後ニ屬スルモノニ對シテノミ判決スルモノトス

九　出納官吏ノ辨償債務ハ既ニ据置貸ニ編入セラレタルモノト雖モ本勅令ノ範圍ニ屬スルモノトス

十　第二、三、六、八項ノ決議ノ旨趣ハ檢査委託廳ヘ通知ヲ要ス

一昭和二年二月七日勅令第十五號（第七章參看）

一大正十三年一月二十六日勅令第十二號

一大正四年十一月十日勅令第二百七號

一大正元年十一月五日勅令第四十一號

一出納官吏ノ辨償責任免除ニ關スル取扱方ノ件（大正十三年二月略總第四號、大正四年十二月略總第八號、大正元年十一月略總第七號）

○昭和二年勅令第十五號恩赦ニ依ル判決報告書取扱方ノ件

●院長決裁　昭和二年三月二十五日

一　昭和二年二月勅令第十五號ヲ適用シタル判決報告書ニハ本勅令ニ依リタルモノナル旨ヲ朱書スヘシ

二　昭和二年二月勅令第十五號ヲ適用シタル場合ニ認可狀ニ添附スヘキ通知書ハ別紙ノ樣式ニ依リ文書掛ニ於テ調製發遣スヘシ但シ特ニ他ノ文案ヲ必要トスルモノハ主任課ニ於テ之ヲ調製シ判決報告書ニ添附スヘシ

（別紙）

何廳職官氏名ハ其ノ證明ニ係ル何年度被令取金……圓（辨償未濟額）ニ對シ辨償ノ責ヲ免レサルモノナルモ昭和二年勅令第十五號ニ基キ別紙認可狀交付致候條御了知相成度候也

（亡失其他）

年　月　日　　院　長

各省大臣（本屬長官）宛

○部會議議決事項

明治三三年第八號　改正　三五年第一四號

●院内達第七號　大正十一年五月十日

部會議議決事項ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　檢定及確定報告書、判決報告書、決定報告書ニシテ其ノ揭載事項恆例ニ屬スルモノ

二　部長ノ名義ヲ以テ發送スル文書ニシテ事ノ重要ナルモノ

三　恆例ニ屬スル再審開否ノ理由ヲ具シタル報告書

四　會計檢査院法第十七條ニ依ル各省ノ通知書

五　其ノ他會議ノ議決ヲ要スル事項ニシテ恆例ニ屬スルモノ及部長ニ於テ部會議ノ議決ヲ要スト認メタルモノ

（參照）本改正ハ大正十一年五月十日ヨリ施行

○議事細則

明治二三年第八號　改正　明治二五年第一號

●院内達第八號　大正十一年五月十日

第一章　總會議

第一條　議事ハ議案（第一號書式）ヲ各議員ニ配付シタル日ノ翌日ヨリ少クトモ三日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ緊急ヲ要スル事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　議長ハ議場ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理ス

第三條　議事ヲ開クトキハ議長開會ヲ宣シ議案ヲ朗讀セシム但シ便宜之カ朗讀ヲ省略スルコトヲ得

第四條　議事ハ第一讀會乃至第三讀會ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ必要ニ應シ讀會ヲ省略スルコトヲ得

第一讀會ニ於テハ議案ノ大體ニ付討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決スヘシ

第二讀會ニ於テハ議案ノ内容ニ付審査議決スヘシ

第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ニ付議決スヘシ

第五條　議長ハ議題ノ順序ヲ變更シ又ハ數議題ヲ連ネ若ハ一議題ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員ニ於テ異議ヲ提出スルモノアルトキハ其ノ贊成者アルヲ待テ討論ヲ用ヒスシテ之ヲ採決スヘシ

第六條　議員發言セムト欲スルトキハ起立シテ議長ト呼ヒ其ノ許可ヲ求ムヘシ

議長ハ議員ニ對シ其ノ番號ヲ呼ヒ發言セシムヘシ

第七條　議員發言中ハ他ノ議員發言スルコトヲ得ス

議事中ハ各自靜肅ヲ旨トシ私語ヲ交フルコトヲ禁ス

第八條　議長ハ議員ノ發言中ト雖議事ヲ中止スルコトヲ得

議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得

第九條　議長ハ議案ノ種類ニ依リ各議員ノ意見ヲ徵スルノ必要アリト認ムルトキハ末席ノ議員ヨリ遞次之ヲ陳述セ

○會計檢査院勅任檢査官及書記定員ノ件

●勅令第百十三號　明治四十三年三月二十八日

改正　明治四四年第二二號、大正二年第一三三號、三年第二四六號、八年第九〇號、一〇年第三九六號、一二年第九八號、一四年第九二號、昭和二年第三七號

會計檢査院勅任檢査官及書記ノ定員左ノ通定ム

一　勅任檢査官　三人

二　書記　專任二百十六人（昭和二年三月第三七號ヲ以テ改正）

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○會計檢査官任用資格ノ件

●勅令第八十號　明治二十二年六月六日

改正　明治三〇年第二五一號

會計檢査院法第六條ニ依リ會計檢査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

第一　年齡滿三十歲以上ノ者

第二　五箇年以上高等行政官若クハ判事檢事【檢査官補】ノ職ニ在ル者及在リタル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

○會計檢査官退官ニ關スル法律

●法律第九十一號　明治二十九年五月二日

第一條　會計檢査官身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ退官ヲ命スルコトヲ得

第二條　退官ハ會計檢査官會議ノ決議ニ依リ之ヲ決定ス

第三條　會計檢査官會議ハ會計檢査院長ヲ以テ議長トス院長ニ對スル退官ノ申立アルトキハ會計檢査院部長中上席者ヲ以テ議長トス

議長事故アルトキハ會計檢査院部長中上席者之ヲ代理ス

第四條　會計檢査官會議ハ現員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

會計檢査官會議ノ決議ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五條　會計檢査院部長及檢査官ニ對スル退官申立ハ會計檢査院長之ヲ爲シ院長ニ對シテハ部長合議ノ上之ヲ爲ス

第六條　會計檢査官第一條ニ依リ退官ヲ命セラレタルトキハ【官吏恩給法】ニ於テ同法第二條ニ揭クル事項ニ該リタル者ト同視ス

○會計檢査官懲戒法

●法律第二十一號　明治三十三年三月一日

第一章　總　則

第一條　會計檢査官ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　懲戒ハ懲戒裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ行フ

第三條　懲戒ハ左ノ如シ

一　譴責

二　減俸

三　免官

第四條　減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以内ヲ減ス

第五條　免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ判決ノ日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

第六條　刑事裁判手續中ハ同一事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ス

懲戒裁判ノ言渡前同一事件ニ付被告ニ對シ刑事訴追ノ始リタルトキハ其ノ事件ノ判決確定ニ至ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

第二章　懲戒裁判所

第七條　懲戒裁判所ニ長官一人裁判官六人豫備裁判官六人ヲ置ク

長官ハ樞密顧問官ノ中ヨリ裁判官ノ中三人ハ大審院判事三人ハ會計檢査院長ヲ加ヘ會計檢査官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

豫備裁判官ハ前項ノ例ニ準シ之ニ補ス

第八條　長官裁判官及豫備裁判官ノ任期ハ三年トス但シ補闕ノ爲補職セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第九條　懲戒裁判所ハ長官及裁判官ヲ併セ七人ノ列席合議ヲ以テ裁判ス

第十條　懲戒裁判所ニ於テハ長官ヲ以テ裁判長トシ長官事故アルトキハ上席裁判官ヲ以テ裁判長トス

裁判官事故アルトキハ其ノ同一官廳ヨリ出テタル豫備裁判官ノ中ヨリ長官其ノ代理ヲ命ス

第十一條　懲戒裁判所ノ裁判ノ評議ニ關シテハ裁判所構成法ノ規定ヲ準用ス

第十二條　懲戒裁判所ニ檢察官一人及豫備檢察官一人ヲ置ク

檢察官及豫備檢察官ハ大審院勅任檢事ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

第十三條　懲戒裁判所ニ書記三人ヲ置ク

書記ハ判任官ノ中ヨリ長官之ヲ命ス

第三章　裁判手續

第十四條　會計檢査院長ハ會計檢査院部長及檢査官ニシテ懲戒ニ該ルヘキ所爲アリト認ムルトキハ懲戒裁判所檢察

○職員休暇規程

●院内達第五號　大正十三年六月二十六日

改正　大正一四年第四號

一　職員ハ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ二十日以内ノ休暇ヲ申請スルコトヲ得

二　四月一日以降六月三十日ノ間ニ採用セラレタル職員ハ十日以内ノ休暇ヲ申請スルコトヲ得

三　職員ニシテ休暇ヲ受ケムトスルトキハ其ノ期間ヲ明記シテ所屬部課長ノ承認ヲ受ケ更ニ院長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

四　休暇ハ所定日數ノ限度内ニ於テモ院長又ハ所屬部課長ニ於テ之ヲ短縮制限スルコトヲ得

五　休暇ヲ與ヘタル場合ニ於テモ事務ノ都合ニ依リ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトアルヘシ

六　職員ニシテ宿直ノ義務アルモノハ休暇ヲ受ケタルカ爲ニ之ヲ變更スルコトナキモノトス

附　則

本規程ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年七月院内達第十號（職員休暇ニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス

前項達ニ依リ既ニ休暇ヲ受ケタルモノハ本規程ニ依リ之ヲ受ケタルモノト看做ス

買入ニ關スル隨意契約ノ件）

大正八年勅令第三百六十二號（海軍ニ於テ石炭採掘ノ事業ニ要スル坑木ノ買入ニ關スル隨意契約ノ件）

大正九年勅令第百二十五號（製絨業指導奬勵ノタメ千住製絨所所屬ノ器具機械ヲ貸付ケ又ハ賣渡ス場合ハ隨意契約ニ依ルヲ得ルノ件）

大正九年勅令第百三十六號（種狐ノ賣買又ハ漁場調査若ハ漁撈試驗ニ從事スル船舶ノ獲得シタル水產物ノ賣拂ニ關スル隨意契約ノ件）

大正九年勅令第五百四十七號（印刷局ニ於テ三極ヲ購入スルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件）

大正十年勅令第百四十四號（航空事業保護奬勵ノタメ陸海軍軍用ノ航空機又ハ其部品屬品ヲ貸付ケ又ハ賣渡ス場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件）

大正十年勅令第四百二十八號（朝鮮咸鏡北道ニ於ケル陸軍軍用輕便鐵道ノ貸付ニ關スル隨意契約ノ件）

大正六年勅令第百三十二號（朝鮮國有鐵道建設及改良工事費概算渡ノ件）ハ當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス

第百六十八條　金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歲入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第百六十九條　仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第百七十條　大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歲出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第百七十一條　本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第百七十二條　大正十年度支出濟歲出額ハ同年度歲入歲出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歲出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歲出額ハ同年度歲入歲出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歲出額ニ併算スヘシ

第百七十三條　大正十年度分ニ限リ金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第百六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

第百七十四條　前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

○國產奬勵ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關スル法律

●法律第四十一號　昭和二年四月一日

國產奬勵ノ爲必要アル場合ニ於テハ政府ハ當分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ買入ルル物品ニ付國產品タルコトヲ指定シ又ハ其ノ請負ヲ爲サシムル工事若ハ製造ノ材料ノ全部若ハ一部ニ付國產品ヲ使用スヘキコトヲ指定シテ契約ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件

●勅令第三百五號　大正十二年六月十三日

左ノ名稱ノ費途ニハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

一　俸給
二　機密費
三　交際費
四　宴會費
五　接待費
六　渡切費
七　新營費
八　補助費

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式

●大藏省令第二十號　大正十一年三月二十九日

改正　大正一三年第九號、一四年第一〇號、一五年第三八號、昭和元年第六號、二年第四號、第二〇號

一支拂豫算書
一支拂豫算更定計算書
一年度開始前支出計算書
一徵收報告書
一徵收總報告書
一徵收簿
一歲入簿
一支出濟額報告書
一支出總報告書
一繰越計算書
一支出簿
一歲出簿
一現金領收證書
一現金出納簿
一國庫日記簿
一國庫原簿
一歲入主計簿
一歲出主計簿
一作業會計、海軍工廠資金會計、朝鮮鐵道用品資金會計及臺灣官設鐵道用品資金會計日記簿
一造幣局會計日記簿
一帝國鐵道會計日記簿
一健康保險會計日記簿
一簡易生命保險會計日記簿
一郵便年金會計日記簿
一大藏省預金部會計日記簿
一來穀需給調節會計日記簿
一製鐵所會計日記簿

別表第一號書式ニ依ル
別表第二號書式ニ依ル
別表第三號書式ニ依ル
別表第四號書式ニ依ル
別表第五號書式ニ依ル
別表第六號書式ニ依ル
別表第七號書式ニ依ル
別表第八號書式ニ依ル
別表第九號書式ニ依ル
別表第十號書式ニ依ル
別表第十一號書式ニ依ル
別表第十二號書式ニ依ル
別表第十三號書式ニ依ル
別表第十四號書式ニ依ル
別表第十五號書式ニ依ル
別表第十六號書式ニ依ル
別表第十七號書式ニ依ル
別表第十八號書式ニ依ル
別表第十九號書式ニ依ル
別表第二十號書式ニ依ル
別表第二十一號書式ニ依ル
別表第二十一號ノ二書式ニ依ル（大正一五年九月第三八號ヲ以テ追加）
別表第二十二號書式ニ依ル（大正一五年九月第三八號ヲ以テ改正）
別表第二十二號ノ二書式ニ依ル（昭和元年一二月第六號ヲ以テ追加）
別表第二十三號書式ニ依ル（昭和二年七月第二〇號ヲ以テ追加）
別表第二十三號ノ二書式ニ依ル（昭和二年七月第二〇號ヲ以テ追加）
別表第二十四號書式ニ依ル
別表第二十五號書式ニ依ル
別表第二十六號書式ニ依ル
別表第二十七號書式ニ依ル
別表第二十八號書式ニ依ル
別表第二十九號書式ニ依ル
別表第三十號書式ニ依ル
別表第三十一號書式ニ依ル
別表第三十二號書式ニ依ル
別表第三十三號書式ニ依ル（昭和元年一二月第六號ヲ以テ改正）

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

明治二十三年大藏省令第九號（作業及鐵道會計規則ニ要スル諸報告書諸表諸帳簿書式）

明治二十六年大藏省令第三十二號（會計規則ニ據ル諸計算書仕拂命令領收證及諸帳簿樣式）

明治三十年大藏省令第五號（臺灣總督府特別會計規則所

要ノ諸報告書仕拂命令傳收證及計算書等樣式）

明治四十年大藏省令第十七號（關東廳及樺太廳特別會計規則ニ要スル諸書類帳簿等樣式）

明治四十二年大藏省令第十六號（帝國鐵道會計規則ニ據ル諸書類帳簿等樣式）

明治四十三年大藏省令第四十五號（朝鮮總督府特別會計規則ニ據ル諸書類帳簿等ノ樣式）

明治四十五年大藏省令第九號（朝鮮醫院及濟生院特別會計ニ要スル諸書類帳簿等樣式）

大正五年大藏省令第三號（逓信局特別會計規則ニ依リ同會計ニ要スル諸書類帳簿ノ樣式）

大正五年大藏省令第二十一號（備荒救恤特別會計規則ニ依リ同會計ニ要スル諸書類帳簿ノ樣式）

大正十年大藏省令第十一號（大學特別會計規則竝學校及圖書館特別會計規則ニ據リ要スル諸書類帳簿ノ樣式）

大正十年大藏省令第十六號（米穀需給調節特別會計規則ニ依リ要スル諸書類帳簿ノ樣式）

本令施行ノ際現存スル帳簿及用紙ハ當分ノ內之ヲ取繕ヒ使用スルコトヲ得

（別表）

第一號書式

支拂豫算書

何省所管　某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）
支出官官氏名　　日本銀行何店

款	項	金額
何	何	圓 0
	何	0
	何	0
		0

年　月　日
支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名㊞
大藏大臣（會計檢查院長）宛

備考

一用紙ハ厚質摯砂引美濃紙トシ左方ヨリ約一寸ノ綴代ヲ設ケヘシ第二號乃至第五號、第八號乃至第十號書式亦同シ

二本書式中日本銀行何店トアルハ支出官ノ振出ス小切手ノ支拂店名ヲ謂フ第二號、第三號及第十四號書式亦同シ

三本書式ハ罫線其ノ他凡テ墨書スルモノトス第二號乃至第五號、第八號乃至第十號、第十三號、第十七號乃至第三十三號書式亦同シ

第三號書式

年度開始前支出計算書

何省所管　某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）
支出官官氏名　　日本銀行何店

款	項	金額
何	何	圓 0
	何	0
		0

年　月　日
年度開始前支出計算書ヲ調製スル官吏官氏名㊞
大藏大臣（會計檢查院長）宛

第二號書式

支拂豫算更定計算書

何省所管　某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）
支出官官氏名　　日本銀行何店

款	項	增	減
何	何	圓 0	圓
	何		0
		0	0

年　月　日
支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名㊞
大藏大臣（會計檢查院長）宛

第四號書式甲

某年度歳入（何々會計歳入）徴收報告書

何省所管　何廳　何年何月分

款	項	目	事由	調定濟額 本月分	調定濟額 本月迄累計	收入濟額 本月分	收入濟額 本月迄累計	不納缺損額 本月分	不納缺損額 本月迄累計	收入未濟額	現金拂込濟仕譯
				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
經何	常何	部何	調定外誤納額	0	0	0	0	0	0		
		〃何		0						0	
	何	何		0	0	0	0	0	0	0	前月迄拂込未濟　0
				0	0	0	0	0	0	0	本月中現金領收額　0
臨何	時何	部何								0	
		何		0	0	0	0	0	0	0	本月中現金拂込高　0
				0	0	0	0	0	0	0	翌月へ越高　0
				0	0	0	0	0	0	0	
				0	0	0	0	0	0	0	

年　月　日

歳入徴收官　官氏名㊞

備考

一本書ニハ日本銀行ノ月計突合表ヲ添附スルモノトス

二特別會計ニ於テ徴收報告書ヲ以テ徴收總報告書ニ充ツル場合ニ於テハ徴收總報告書ヲ調製スヘキ官吏第五號甲書式ノ例ニ依リ本書ニ年月日及官氏名ヲ奥書シ徴收總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

第四號書式乙

現金拂込濟仕譯書

某年度歳入（何々會計歳入）經常部（臨時部）

何省所管　何廳　何年何月分

摘要	金額	備考
	圓	
前月迄拂込未濟	0	
本月中現金拂込高	0	
翌月へ越高	0	

年　月　日

歳入徴收官　官氏名㊞

備考

歳入調定濟額、收入濟額及不納缺損額ニ異動ナク現金拂込高ノミニ異動アル月ニ於テハ徴收報告書ヲ要セス單ニ本書式ニ依リ現金拂込濟仕譯書ヲ調製シ之ニ日本銀行ノ月計突合表ヲ添ヘ徴收報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

第五號書式甲

某年度歲入(何々會計歲入)徵收總報告書

何省所管　　何年何月分

款	項	目	事由	調定濟額 本月分	調定濟額 本月迄累計	收入濟額 本月分	收入濟額 本月迄累計	不納缺損額 本月分	不納缺損額 本月迄累計	收入未濟額	現金拂込濟仕譯
				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
經	常	部									
何	何	〃		0	0	0	0	0	0		
			調定外誤納額	0						0	
	何	何		0	0	0	0	0	0	0	前月迄拂込未濟　0
				0	0	0	0	0	0	0	本月中現金領收額　0
臨	時	部									0
何	何	何		0	0	0	0	0	0	0	本月中現金拂込高　0
		何		0	0	0	0	0	0	0	翌月へ越高　0
				0	0	0	0	0	0	0	
				0	0	0	0	0	0	0	

年　月　日

徵收總報告書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

備考

一本書ニハ歲入徵收官ヨリ提出スル日本銀行ノ月計表合表ヲ添附スルモノトス

二大學特別會計規則第二十條ノ二ノ徵收集計報告書ハ此ノ書式ヲ準用ス

第五號書式乙

收入金拂込未濟內譯報告書

某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)

何省所管　　何年何月分

廳名	徵收報告書年月		拂込未濟額	事由
			圓	
何廳	何	何	0	
何廳		〃	0	
			0	

年　月　日

官廳　名㊞

備考

一本書ハ徵收總報告書現金拂込濟仕譯ノ欄內ニアル翌月へ越高ノ內譯トシテ徵收總報告書ニ添附スルモノトス

二拂込遲滯セルモノハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第五號書式丙

現金拂込濟總仕譯書

某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)

何省所管　　何年何月分

摘要	金額	備考
	圓	
前月迄拂込未濟	0	
本月中現金拂込高	0	
翌月へ越高	0	

年　月　日

徵收總報告書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

備考

各歲入徵收官トモ單ニ現金拂込濟仕譯書ノミヲ送付セシ月ニ於テハ徵收總報告書ヲ要セス本書式ニ依リ現金拂込濟總仕譯書ヲ調製シ之ニ收入金拂込未濟內譯報告書及月計表合表ヲ添ヘ徵收總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

第五號書式丁

徵收總報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額仕譯書

某年度歲入(何々會計歲入)

何省所管　　何年何月分

廳名	徵收報告書年月	差額 突合表ノ方超過	差額 突合表ノ方不足	事由
		圓	圓	
何廳	何何	0		何々
何廳	〃		0	何々
		0	0	

年　月　日

官廳名 印

備考

本書ハ徵收總報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額ノ內譯トシテ徵收總報告書ニ添附スルモノトス

第六號書式

「某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)徵收簿」

何々(款)　何々(項)何々(目)

年月日	摘要	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	收入未濟額
		圓	圓	圓	圓
何年					
何何		0	0	0	
〃	調定外誤納額	0			0

備考

一 歲入徵收官ノ備フヘキ徵收簿ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外此ノ書式ニ依ル

二 調定濟額ノ欄內ニハ收入スヘキ額ノ確定シタルモノ、收入濟額ノ欄內ニハ出納官吏又ハ日本銀行ヨリ收納濟ノ報告ヲ受ケタル額、不納缺損額ノ欄內ニハ其ノ缺損ナルコトノ確定シタル額ヲ記入スルモノトス

三 調定濟額ニ超過シタル誤納アリタルトキハ摘要欄內ニ調定外誤納額ト記載シ誤納額ニ相當スル額ヲ調定濟額ノ欄內ニ記入スルモノトス

四 徵收簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス

但シ便宜本簿中ニ統括又ハ款、項、目、節別ノ口座ヲ設クルコトヲ得第七號書式亦同シ

五 本書式中「　」內ハ朱書トシ欄格ヲ示ス罫線ハ之ヲ朱線トス第七號、第十一號、第十二號及第十四號乃至第二十六號書式亦同シ

第七號書式

「某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)歲入簿」

何々(款)　何々(項)何々(目)

年月日	摘要	徵收報告年月	廳名	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	收入未濟額	豫算額ト調定濟額トノ差
				圓	圓	圓	圓	圓	圓
何年									
何何				0					0
何何		何何	何廳		0	0	0		
何〃	調定外誤納額	〃〃	〃		0			0	0

備考

一 歲入簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス

二 大學特別會計規則第二十九條ノ歲入支簿ハ此ノ書式ヲ準用ス

第八號書式

支出濟額報告書

某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)

何省所管　　何年何月分

款	項	支出濟額 本月分	支出濟額 前月迄累計	支出濟額 合計	備考
		圓	圓	圓	
何	何	0	0	0	定額戾入0、更正減額何々0、
	何	0	0	0	
		0	0	0	

年　月　日

支出官　官氏名 印

備考

一 定額戾入及更正減額ハ金額事由トモ朱書スルモノトス

第九號、第十一號、第十二號及第二十六號書式亦同シ

二 特別會計ニ於テ支出濟額報告書ヲ以テ支出總報告書ニ充ツル場合ニ於テハ支出總報告書ヲ調製スヘキ官吏第九號書式ノ例ニ依リ本書ニ年月日及官氏名ヲ奥書シ支出總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

三 本報告書ハ所管大臣必要アリト認ムル場合ニ於テハ目迄ヲ記載セシムルコトヲ得

第九號書式

支出總報告書

某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)

何省所管　　何年何月分

款	項	支出濟額 本月分	支出濟額 前月迄累計	支出濟額 合計	備考
		圓	圓	圓	
何	何	0	0	0	定額戻入0、更正減額何々0、
	何	0	0	0	
		0	0	0	

備考	年	月	日	
支出總報告書ヲ調製スル官吏				官氏名㊞
大學特別會計規則第二十條ノ四ノ支出濟額集計報告書ハ此ノ書式ヲ準用ス				

第十號書式

繰越計算書

某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)

款	項	豫算定額	小切手振出濟額及小出切手振出濟額ヲ爲リ手スヘキ額	豫算定額不用額	翌年度ヘ繰越額 繰越承認濟額	翌年度ヘ繰越額 要繰越額	事由
		圓	圓	圓	圓	圓	
何	何	0	0	0	0	0	何々ノ事由ニ依リ會計法第何條(何々會計規則第何條)ニ依リ繰越ヲ要ス
	何	0	0	0	0	0	何々
		0	0	0	0	0	

備考	年	月	日	
		所管大臣氏名㊞		
一小切手振出濟額及小切手ヲ振出スヘキ額ノ欄内ニハ既ニ支出濟ト爲リタル金額及當該會計ノ整理期限迄ニ支出スヘキ額ヲ揭クルモノトス				
二特別會計ニ於テ支出未濟トシテ繰越スヘキ金額ハ本書小切手振出濟額及小切手ヲ振出スヘキ額欄ノ次ニ支出未濟トシテ翌年度ヘ繰越スヘキ額ノ欄ヲ設ケ之ヲ記入スルモノトス				

第十一號書式

「某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)支出簿」

何々(款)　　何々(項)

年月日		摘要	支拂豫算額	支出濟額	支拂豫算殘額
			圓	圓	圓
何	年				
何	何		0		0
	何			0	
	〃	定額戻入		0	
	〃	更正減額何々		0	0

備考	
支出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス	
但シ便宜本簿中ニ統括又ハ款、項、目、節別ノ口座ヲ設クルコトヲ得第十二號書式亦同シ	

第十二號書式

「某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)歲出簿」

何々(款)　　何々(項)

年月日		摘要	豫算額	豫算決定後增加額	支出濟額	翌年度ヘ繰越額	豫算殘額
			圓	圓	圓	圓	圓
何	年						
何	何		0				0
	何				0		0
	何	前年度ヨリ越		0			
	〃	定額戻入			0		
	〃	更正減額何々			0		0
	何	豫備費ヨリ補充		0			0
	何	翌年度ヘ越				0	0

備考	
一歲出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス	
二大學特別會計規則第三十二條ノ歲出支簿ハ此ノ書式ヲ準用ス	

第十三號書式

「現金領收證書」

（原符）	報告書	領收證書
第何號　某年度（某年度何々會計）	第何號　某年度（某年度何々會計）	第何號　某年度（某年度何々會計）
何郡市町村何番地　何某納	何郡市町村何番地　何某納	何郡市町村何番地　何某納
經常（臨時）　何々（款）	經常（臨時）　何々（款）	經常（臨時）　何々（款）
何々（項）　何々（目）	何々（項）　何々（目）	何々（項）　何々（目）
金	金	金
年月日領收（收入官吏之印）	上記ノ金額領收濟ニ付報告候也 年月日 何廳主任收入官吏 官氏名㊞ 又ハ何廳主任收入官吏官氏名所屬 何廳分任收入官吏 官氏名㊞ 歲入徵收官官氏名宛	上記ノ金額領收候也 年月日 何廳主任收入官吏 官氏名㊞ 又ハ何廳主任收入官吏官氏名所屬 何廳分任收入官吏 官氏名㊞

備考

一用紙寸法縱五寸三分横三寸八分輪廓寸法縱四寸五分横三寸三分ノモノ三枚接續

二會計規則第三十三條ノ規定ニ依リ交付スヘキ領收證書ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外此ノ書式ニ依ル

三官廳間ノ收入金ニシテ歲出金支拂通知書ニ領收ヲ證シ收納ヲ了シタルトキハ此ノ領收證書ヲ送付セス

四領收證書郵送ノ必要アル場合ニ於テハ式ノ如ク記入シタル郵便葉書ヲ使用スルコトヲ得

五歲入徵收官ト同一官廳内ニ在ル收入官吏ノ收納濟報告書ハ原符ヲ以テ代用シ報告書ヲ省略スルコトヲ得

第十四號書式

「現金出納簿」

年月日	摘要	受 現金	受 預金	受 計	拂 現金	拂 預金	拂 計	殘 現金	殘 預金	殘 計
		圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
何年										
何何	何々金何某ヨリ收入（又ハ受入）	0								
〃〃	日本銀行何店へ拂込				0			0		0
何何	何々金支出官何某ヨリ受入	0								
〃〃	日本銀行何店へ預託		0	0	0					
〃〃	何々金何某へ拂渡				0					
〃〃	何々金何某へ切拂渡ノ爲小手振出					0	0	0	0	0
何何	何々金何店ヨリ日本銀行預金通知ヲ受ケ何部ノ預金ヲ以テ支拂ノ爲メ振出		0	0				0	0	0
何何	何々金何某へ切拂渡ノ爲小手振出					0	0	0	0	0
	備考	便宜部ハ式残ノ宜シニ應シ簿金拂ハヲノ又書、拂、員適本現ヲシ金本拂納シ受、出準	縦又揭ノ金ノシフ様宜託ニ預中ト備ノ	ト預同ミ金整キヲノ現テヘ式式ハケ	スシニ取預スル簿ムノ、理本定爲入時	トル金ヲ所コタ預扱金、ルハコト	得合受スノケ大ヲ場ニ爲計妨管ヲ	ハ續テ於ニ入	金爲ニ在シ書ヲ現ニ廢本	之ヘテニニ—ハスリ單式

備考　會計規則第百五十二條ノ日記簿ハ此ノ書式ニ依ル

第十五號書式

「某年度國庫日記簿」

何年何月何日

借 歲出	借 歲出外	科目	貸 歲入	貸 歲入外
圓	圓		圓	圓
		某年度各會計勘定		
0	0	一般會計	0	0
0	0	何々（特別會計名稱）	0	0
0	0	何々（〃）	0	0
		特別勘定		
	0	小額紙幣發行高		0
	0	何々		0
		現在高勘定		
	0	何々預金		0
0	0		0	0
	0			0
	0			0

第十六號書式

「某年度國庫原簿」

某年度一般會計

年月日	摘要	借 歲出	借 歲出外	貸 歲入	貸 歲入外	借或貸	殘
		圓	圓	圓	圓		圓
何何 年何		0	0	0	0	貸	0
備考	會計規則第百五十二條ノ原簿ハ此ノ書式ニ依ル						

第十七號書式

「某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)主計簿」

何々(款)　　何々(項)

年月日	摘要	省別	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	收入未濟額	豫算額ト調定濟額トノ差
			圓	圓	圓	圓	圓	圓
何何 年何								0
何		何省	0	0	0	0		
何	調定外誤納額	〃		0			0	0

第十八號書式

「某年度何省所管歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)主計簿」

何々(款)　　何々(項)

年月日	摘要	豫算額	決定額增加後豫算額	支出濟額	翌年度ヘ繰越額	豫算額殘額
		圓	圓	圓	圓	圓
何何 年何		0				0
何				0		0
何	前年度ヨリ越		0			0
何	豫備費ヨリ補充		0			0
何	翌年度ヘ越				0	0

第十九號書式

「某年度何々會計日記簿」

何年何月何日　　1

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	國庫		0	
		運轉資本		0
		運轉資本補足金		0
	何々作業費		0	
		國庫		0
	材料及素品		0	
	機械運轉用品		0	
	備品		0	
		損益		0
			0	0
		何年何月何日		
	生產品		0	
		材料及素品		0
		機械運轉用品		0
		損益		0
			0	0
		何年何月何日		
	生產品		0	
		損益		0
	契約濟價格差增			
	物品代價未收		0	
		生產品		0
	國庫		0	
		何々作業收入		0
	損益		0	
		物品代價未收		0
			0	0

2　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	材料及素品		0	
	機械運轉用品		0	
		物品代價未渡		0
	何々作業費		0	
		國庫		0
	物品代價未渡		0	
		損益		0
		何年何月何日		
	國庫		0	
		何々作業收入		0
	損益		0	
		前金受		0
	前金受		0	
		生產品		0
			0	0
		何年何月何日		
	何々作業費		0	
		國庫		0
	前金拂		0	
		損益		0
	材料及素品		0	
		前金拂		0
			0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	損益		0	
		材料及素品		0
		機械運轉用品		0
		生產品		0
	毀損變質(不用品ニ組入)			
	現金未納		0	
		損益		0
	何々			
	損益		0	
		現金未渡		0
	何々			
			0	0
		何年何月何日		
	何々作業收入		0	
		損益		0
	損益		0	
		何々作業費		0
	損益		0	
		國庫		0
	益金納付			
			0	0

備考

一作業會計規則第三十二條ノ日記簿ハ此ノ書式ニ依ル

二專賣局作業會計規則、海軍工廠資金會計規則、朝鮮鐵道用品資金會計規則及臺灣官設鐵道用品資金會計規則ニ依リ要スル日記簿ハ此ノ書式ヲ準用ス

三原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル

運轉資本、運轉資本補足金、損益、何々作業收入、何々作業費、物品代價未收、現金未納、物品代價未渡、現金未渡、前金受、前金拂、國庫、生產品、材料及素品、機械運轉用品、備品

第二十號書式

「某年度造幣局會計日記簿」

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	國庫		0	
	材料及素品		0	
	機械運轉用品		0	
	備品		0	
		運轉資本		0
	越	高		
	材料及素品		0	
	日本銀行		0	
		地金輸納人		0
	越	高		
	國庫(資金部)		0	
		資金		0
	越	高		
			0	0
		何年何月何日		
	生產品		0	
		損益		0
	損益		0	
		材料及素品		0
		機械運轉用品		0
			0	0

2　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	物品代價未收		0	
		生產品		0
	國庫		0	
		造幣局作業收入		0
	損益		0	
		物品代價未收		0
			0	0
		何年何月何日		
	日本銀行		0	
		生產品		0
	地金輸納人		0	
		日本銀行		0
	現金		0	
		造幣局作業收入		0
	國庫		0	
		現金		0
			0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	材料及素品	0	
	機械運轉用品	0	
	物品代價未渡		0
	造幣局作業費	0	
	國庫		0
	物品代價未渡	0	
	損益		0
		0	0
	何年何月何日		
	國庫	0	
	造幣局作業收入		0
	損益	0	
	前金受		0
	前金受	0	
	生産品		0
		0	0
	何年何月何日		
	造幣局作業費	0	
	國庫		0
	前金拂	0	
	損益		0
	材料及素品	0	
	前金拂		0
		0	0

何年何月何日　4

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	貨幣交換費	0	
	國庫(資金部)		0
	引揚貨幣	0	
	引揚貨幣受入		0
	作業部	0	
	引揚貨幣		0
	未精算材料	0	
	資金部		0
		0	0
	何年何月何日		
	作業部	0	
	國庫(資金部)		0
	資金繰替		
	國庫	0	
	資金部		0
	同上		
	造幣局作業費	0	
	國庫		0
	材料及素品	0	
	損益		0
	國庫(資金部)	0	
	造幣局資金收入		0
	引揚貨幣拂出	0	
	作業部		0
	追次合計	0	0

次ニ

次ニ

何年何月何日　5

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	資金部	0	
	未精算材料		0
		0	0
	何年何月何日		
	國庫	0	
	造幣局作業收入		0
	資金部	0	
	國庫		0
	繰替返戻		
	國庫(資金部)	0	
	作業部		0
	同上		
		0	0
	何年何月何日		
	損益	0	
	材料及素品		0
	機械運轉用品		0
	毀損變質(不用品ニ組入)		
	現金未納	0	
	損益		0
	何〃		
	損益	0	
	現金未渡		0
	何〃		
		0	0
	何年何月何日		
	造幣局作業收入	0	
	損益		0
	損益	0	
	造幣局作業費		0
	追次合計	0	0

6　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	損益	0	
	國庫		0
	作業益金資金ヘ組入		
	國庫(資金部)	0	
	資金		0
	同上		
	造幣局資金收入	0	
	引揚貨幣受入	0	
	資金受拂過不足		0
	資金受拂過不足	0	
	貨幣交換費		0
	引揚貨幣拂出		0
	資金受拂過不足	0	
	資金		0
	受拂過剰額資金ヘ組入		
	資金	0	
	資金受拂過不足		0
	受拂不足額資金減額		
		0	0

備考　原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル
運轉資本、損益、造幣局作業收入、造幣局作業費、物品代價未收、現金未納、物品代價未渡、現金未渡、前金受、前金拂、地金輸納人、資金部、國庫、現金、日本銀行、生産品、材料及素品、機械運轉用品、備品、資金、資金受拂過不足、引揚貨幣受入、引揚貨幣拂出、造幣局資金收入、貨幣交換費、作業部、國庫(資金部)、引揚貨幣

第二十一號書式

「某年度帝國鐵道會計日記簿」

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目	借	貸
	國庫	0	
	固定財産	0	
	特有資本		0
	借入資本		0
	越高		
	國庫	0	
	鐵道資金收入		0
	收入高		
	出納官吏	0	
	國庫		0
	繰替拂資金受入	0	0
	何年何月何日		
	貯藏物品	0	
	支出未濟		0
	用品購入代		
	鐵道建設及改良費繰替拂	0	
	鐵道用品及工作費繰替拂	0	
	鐵道作業費繰替拂	0	
	出納官吏		0
	繰替拂高		
	支出未濟	0	
	用品工作受拂過不足		0
	用品購入代支拂濟ニ付組替	0	0

何年何月何日　2

原簿丁數	原簿科目	借	貸
	收入未濟	0	
	貯藏物品		0
	賣拂用品原價		
	收入未濟	0	
	用品工作受拂過不足		0
	賣拂用品ニ對スル割掛		
	出納官吏	0	
	鐵道資金收入		0
	鐵道用品及工作收入		0
	鐵道作業收入		0
	歲入歲出外勘定		0
	收入高		
	用品工作受拂過不足	0	
	收入未濟		0
	用品賣拂代收入濟ニ付組替	0	0
	何年何月何日		
	鐵道建設及改良費	0	
	鐵道用品及工作費	0	
	鐵道作業費	0	
	國庫		0
	繰替拂ニ對シ小切手發行		
	國庫	0	
	鐵道建設及改良費繰替拂		0
	鐵道用品及工作費繰替拂		0
	鐵道作業費繰替拂		0
	同上小切手ヲ以テ鐵道資金收入鐵道用品及工作收入鐵道作業收入振戻拂込	0	0
		0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
	國庫	0	
	出納官吏		0
	現金ニテ該入金拂込（繰替拂資金戻入）	0	0
	何年何月何日		
	工場勘定	0	
	用品工作受拂過不足		0
	工作費及電氣費支拂高		
	工場勘定	0	
	貯藏物品		0
	工場ヘ物品引渡	0	0
	何年何月何日		
	貯藏物品	0	
	工場勘定		0
	工場ヨリ新製品受入		
	收入未濟	0	
	工場勘定		0
	修繕原價		
	收入未濟	0	
	用品工作受拂過不足		0
	修繕ニ對スル割掛	0	0
	何年何月何日		
	特有資本	0	
	固定財産		0
	讓渡（滅失）		
	用品工作受拂過不足	0	
	貯藏物品		0
	毀損變質（又ハ不用品ニ組入）	0	0

4　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
	鐵道作業收入	0	
	損益		0
	損益	0	
	鐵道作業費		0
	損益	0	
	國庫		0
	鐵道益金繰入		
	國庫	0	
	鐵道資金收入		0
	同上	0	0
	何年何月何日		
	鐵道資金收入	0	
	特有資本		0
	借入資本		0
	公債其他差增		0
	資本ニ編入		
	公債其他差增	0	
	特有資本		0
	同上		
	公債其他差損	0	
	借入資本		0
	差損ニ對スル債務額		
	特有資本	0	
	公債其他差損		0
	資本ヨリ控除		
	追次合計	0	0

第二十一號ノ二書式　（昭和元年一二月第六號ヲ以テ追加）

「某年度健康保險會計日記簿」

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目	借	貸
	國庫	0	
	健康保險收入		0
	一般會計ヨリ受入		0
	健康保險費	0	
	國庫		0
		0	0
	何年何月何日		
	積立金繰替拂出	0	
	國庫（積立金）		0
	積立金繰替		
	國庫	0	
	積立金繰替受入		0
	同上	0	0
	何年何月何日		
	積立金繰替受入	0	
	國庫		0
	繰替返戻		
	國庫（積立金）	0	
	積立金繰替拂出		0
	同上	0	0

何年何月何日　2

原簿丁數	原簿科目	借	貸
	國庫	0	
	國庫餘裕金繰替		0
	一時借入金		0
	國庫餘裕金繰替	0	
	一時借入金	0	
	國庫		0
		0	0
	何年何月何日		
	預金（餘裕金）	0	
	國庫		0
	國庫	0	
	預金（餘裕金）		0
		0	0
	國庫	0	
	借入金		0
		0	0
	何年何月何日		
	借入金	0	
	國庫		0
		0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
	健康保險收入	0	
	一般會計ヨリ受入	0	
	歲入歲出過不足		0
	歲入歲出過不足	0	
	健康保險費		0
	歲入歲出過不足	0	
	國庫		0
	國庫（積立金）	0	
	積立金		0
	積立金	0	
	國庫（積立金）		0
	國庫	0	
	歲入歲出過不足		0
	積立金	0	
	缺損金		0
		0	0

備考

原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル

積立金、歲入歲出過不足、健康保險收入、一般會計ヨリ受入、健康保險費、積立金繰替拂出、積立金繰替受入、國庫餘裕金繰替、國庫、國庫（積立金）、預金（餘裕金）、缺損金、一時借入金、借入金

何年何月何日　5

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	固定財産	0	
	鐵道建設及改良費		0
	鐵道用品及工作收入	0	
	用品工作受拂過不足		0
	用品工作受拂過不足	0	
	鐵道用品及工作費		0
	用品工作受拂過不足	0	
	特有資本		0
	受拂過剩額資本ニ編入		
	固定財産	0	
	特有資本		0
	收益勘定ニ於テ補充工事ノ爲支出シタル金額		
		0	0

備考

原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル

特有資本、借入資本、損益、用品工作受拂過不足、收入、鐵道作業收入、鐵道用品及工作收入、鐵道建設及改良費、鐵道作業費、鐵道用品及工作費、何々繰替未濟、歲入歲出外勘定、國庫、出納官吏、固定財産、貯藏物品、工場勘定、其他差增、公債其他差損、收入未濟、支出

第二十二號書式

「某年度簡易生命保險會計日記簿」

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	簡易生命保險收入		0
	簡易生命保險費	0	
	國庫		0
		0	0
	何年何月何日		
	積立金繰替拂出	0	
	國庫（積立金）		0
	積立金繰替		
	國庫	0	
	積立金繰替受入		0
	同上		
		0	0
	何年何月何日		
	積立金繰替受入	0	
	國庫		0
	繰替返戻		
	國庫（積立金）	0	
	積立金繰替拂出		0
	同上		
		0	0

2　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	預金（餘裕金）	0	
	國庫		0
	國庫	0	
	預金（餘裕金）		0
		0	0
	何年何月何日		
	預金（積立金）	0	
	有價證券	0	
	一般貸付	0	
	出納官吏	0	
	國庫（積立金）		0
		0	0
	何年何月何日		
	契約者貸付	0	
	一般貸付	0	
	有價證券	0	
	出納官吏		0
	出納官吏	0	
	契約者貸付		0
	一般貸付		0
	有價證券		0
		0	0
	何年何月何日		
	有價證券	0	
	有價證券		0
		0	0
	何年何月何日		
	國庫（積立金）	0	
	預金（積立金）		0
	有價證券		0
	一般貸付		0
	出納官吏		0
	缺損	0	
	有價證券		0
	一般貸付		0
	契約者貸付		0
		0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	簡易生命保險收入	0	
	歲入歲出過不足		0
	歲入歲出過不足	0	
	簡易生命保險費		0
	歲入歲出過不足	0	
	國庫		0
	國庫（積立金）	0	
	積立金		0
	積立金	0	
	國庫（積立金）		0
	國庫	0	
	歲入歲出過不足		0
	積立金	0	
	缺損		0
		0	0

備考

原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル

積立金、歲入歲出過不足、簡易生命保險收入、簡易生命保險費、積立金繰替拂出、積立金繰替受入、國庫、國庫（積立金）、出納官吏、預金（餘裕金）、預金（積立金）、有價證券、契約者貸付、一般貸付、缺損

第二十二號ノ二書式（大正一五年九月第三八號ヲ以テ追加）

「某年度郵便年金會計日記簿」

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	郵便年金收入		0
	郵便年金費	0	
	國庫		0
		0	0
	何年何月何日		
	積立金繰替拂出	0	
	國庫（積立金）		0
	積立金繰替		
	國庫	0	
	積立金繰替受入		0
	同上		
		0	0
	何年何月何日		
	積立金繰替受入	0	
	國庫		0
	繰替返戻		
	國庫（積立金）	0	
	積立金繰替拂出		0
	同上		
		0	0
	預金（餘裕金）	0	
	出納官吏	0	
	有價證券（餘裕金）	0	
	國庫		0
	國庫	0	
	預金（餘裕金）		0
	出納官吏		0
	有價證券（餘裕金）		0
		0	0

何年何月何日　2

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	預金（積立金）	0	
	有價證券（積立金）	0	
	一般貸付	0	
	出納官吏	0	
	國庫（積立金）		0
		0	0
	何年何月何日		
	契約者貸付	0	
	一般貸付	0	
	有價證券（積立金）	0	
	有價證券（餘裕金）	0	
	出納官吏		0
	出納官吏	0	
	契約者貸付		0
	一般貸付		0
	有價證券（積立金）		0
	有價證券（餘裕金）		0
		0	0
	何年何月何日		
	有價證券（積立金）	0	
	有價證券（積立金）		0
	有價證券（餘裕金）	0	
	有價證券（餘裕金）		0
		0	0
	何年何月何日		
	國庫（積立金）	0	
	預金（積立金）		0
	有價證券（積立金）		0
	一般貸付		0
	出納官吏		0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	缺損	0	
	有價證券（積立金）		0
	有價證券（餘裕金）		0
	一般貸付		0
	契約者貸付		0
		0	0
	郵便年金收入	0	
	歲入歲出過不足		0
	歲入歲出過不足	0	
	郵便年金費		0
	歲入歲出過不足	0	
	國庫		0
	歲入歲出過不足	0	
	有價證券（餘裕金）		0
	國庫（積立金）	0	
	積立金		0
	有價證券（積立金）	0	
	積立金		0
	積立金	0	
	國庫（積立金）		0
	國庫	0	
	歲入歲出過不足		0
	積立金	0	
	缺損		0
		0	0

備考
原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル
積立金、歲入歲出過不足、郵便年金收入、郵便年金費、積立金繰替拂出、積立金繰替受入、國庫、國庫（積立金）、出納官吏、預金（餘裕金）、預金（積立金）、有價證券（餘裕金）、有價證券（積立金）、契約者貸付、一般貸付、缺損

第二十二號ノ三書式（大正一五年九月第三八號ヲ以テ改正）
「某年度　大藏省預金部會計日記簿」

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	何々預金		0
	當座預金	0	
	當座預金		0
	何々預金	0	
	利益金		0
	當座預金	0	
		0	0
	何年何月何日		
	何々證券（其他運用科目）		0
	當座預金	0	
	當座預金		0
	損失金	0	
	當座預金		0
	何々證券（其他運用科目）	0	
		0	0
	何年何月何日		
	利益金	0	
	某年度預金部特別會計歲入		0
	損失金		0
	某年度預金部特別會計歲出	0	
	某年度預金部歲出	0	
	當座預金		0
	某年度預金部歲出	0	
	振出小切手支拂未濟		0
	振出小切手支拂未濟	0	
	當座預金		0
		0	0
	追次合計	0	0

2　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	何年何月何日		
	何々證券（其他運用科目）		0
	當座預金	0	
	當座預金		0
	減價償却	0	
		0	0
	何年何月何日		
	某年度預金部特別會計歲入	0	
	歲入歲出過不足		0
	某年度預金部特別會計歲出		0
	歲入歲出過不足	0	
	歲入歲出過不足	0	
	減價償却		0
	歲入歲出過不足	0	
	積立金		0
	積立金	0	
	歲入歲出過不足		0
	當座預金	0	
	當座預金		0
		0	0

備考　原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル
郵便貯金、公債金特別會計預金、國債整理基金特別會計預金、帝國鐵道特別會計預金、簡易生命保險特別會計預金、賠償金特別會計預金、米穀需給調節特別會計預金、對支文化事業特別會計預金、教育基金特別會計預金、教育改善及農村振興基金特別會計預金、貯蓄債券賣却代預金、復興貯蓄債券賣却代預金、其他預金、利益金、某年度預金部特別會計歲入、積立金、歲入歲出過不足、國債證券、外國國債證券、地方債證券特殊銀行會社社債券、四分利付支那債券元利補償證書、貸付金、內地指定預金、在外指定預金、損失金、減價償却、某年度預金部特別會計歲出、當座預金

第二十三號書式(昭和二年月第四號ヲ以テ改正)

「某年度米穀需給調節會計日記簿」

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	國庫		0	
		米穀需給調節收入		0
	損益		0	
		借入金		0
			0	0
		何年何月何日		
	米穀		0	
		證券發行未濟		0
	證券發行未濟		0	
		證券發行高		0
			0	0
		何年何月何日		
	米穀		0	
	土地		0	
	建物		0	
	機械及器具		0	
	工作物		0	
	備品		0	
		支出未濟		0
	米穀需給調節費		0	
		國庫		0
	支出未濟		0	
		損益		0
			0	0

2　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	米穀需給調節費		0	
		國庫		0
	證券發行高		0	
	借入金		0	
		損益		0
			0	0
		何年何月何日		
	出納官吏		0	
		米穀需給調節收入		0
	損益		0	
		前金受		0
	國庫		0	
		出納官吏		0
	前金受		0	
		米穀		0
			0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	出納官吏		0	
		歲入歲出外勘定		0
	國庫(歲入歲出外)		0	
		出納官吏		0
	歲入歲出外勘定		0	
		國庫(歲入歲出外)		0
	國庫		0	
		米穀需給調節收入		0
	損益		0	
		米穀		0
			0	0
		何年何月何日		
	收入未濟		0	
		米穀		0
	國庫		0	
		米穀需給調節收入		0
	損益		0	
		收入未濟		0
			0	0

4　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目		借	貸
			圓	圓
	預金		0	
		國庫		0
			0	0
		何年何月何日		
	米穀		0	
		損益		0
			0	0
		何年何月何日		
	米穀需給調節收入		0	
		損益		0
	損益		0	
		米穀需給調節費		0
			0	0

(昭和二年三月第四號ヲ以テ改正)

何年何月何日　5

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	證券發行未濟	0	
	證券發行高	0	
	借入金	0	
	前金受	0	
	支出未濟	0	
	歳入歳出外勘定	0	
	損益	0	
	米穀		0
	土地		0
	建物		0
	未成工事		0
	機械及器具		0
	收入未濟		0
	國庫		0
	出納官吏		0
	國庫(歳入歳出外)		0
	損益		0
		0	0

備考

原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル

損益、米穀需給調節收入、借入金、米穀需給調節費、證券發行未濟、證券發行高、收入未濟、支出未濟、前金受、歳入歳出外勘定、國庫、國庫(歳入歳出外)、現金、出納官吏、米穀、土地、建物、未成工事、機械及器具

第二十三號ノ二(昭和二年七月第二〇號ヲ以テ追加)

「某年度製鐵所會計日記簿」(資本勘定)

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	固定財産	0	
	固有資本		0
	借入資本		0
	資本受入		
	用品勘定交付資金	0	
	作業勘定交付資金	0	
	國庫		0
	他勘定ヘ資金交付		
	國庫	0	
	用品勘定交付資金		0
	作業勘定交付資金		0
	他勘定ヨリ資金返還		
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
		0	0

2　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	損益	0	
	支出未濟		0
	物品購入代		
	器具備品	0	
	支出未濟		0
	器具備品購入代		
	交付材料	0	
	損益		0
	請負者ヘ工事材料交付		
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	物品購入代支拂濟ニ付組替		
		0	0
	何年何月何日		
	國庫	0	
	何々收入(款)		0
	公債募集金受入		
	損益	0	
	公債較差	0	
	借入資本		0
	借入資本ニ組入		
	追次合計	0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	國庫	0	
	何々收入(款)		0
	借入金受入		
	損益	0	
	借入資本		0
	借入資本ノ增		
		0	0
	何年何月何日		
	固定財産	0	
	損益		0
	固定財産完成		
	固定財産	0	
	未成工事		0
	損益		0
	同上		
	固定財産	0	
	支出未濟		0
	固定財産購入代		
	固定財産	0	
	交付材料		0
	支出未濟		0
	請負者ヨリ引渡ヲ受ケタル固定財産受入		
	追次合計	0	0

4　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	固定財産	0	
	公債較差	0	
	借入資本		0
	交付公債ニ依ル固定財産受入		
	何々費（款）	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	固定財産購入代支拂濟ニ付組替		
		0	0
	何年何月何日		
	何々費（款）	0	
	國庫		0
	公債又ハ借入金償還		
	借入資本	0	
	損益		0
	借入資本ノ減		
		0	0

何年何月何日　　5

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	一時借入金		0
	一時借入金受入		
	國庫	0	
	國庫餘裕金繰替		0
	國庫餘裕金繰替		
	一時借入金	0	
	國庫		0
	一時借入金返還		
	國庫餘裕金繰替	0	
	國庫		0
	國庫餘裕金繰替返還		
		0	0
	何年何月何日		
	國庫	0	
	何々收入（款）		0
	收入濟		
	損益	0	
	前年度以前收入未濟		0
	前年度以前收入未濟收入濟ニ付組替		
	前年度以前收入未濟		
	固定財産未濟	0	
	前金受		0
	前年度以前收入未濟中固定財産引渡未濟ニ對シ代金收入濟ニ付組替		
	追次合計	0	0

6　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	損益	0	
	固定財産減價償却金受入未濟		0
	固定財産減價償却金受入未濟收入濟ニ付組替		
	前金受	0	
	固定財産		0
	固定財産賣拂		
		0	0
	何年何月何日		
	何々費（款）	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	支出未濟支拂濟ニ付組替		
		0	0

何年何月何日　　7

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	何々收入（款）		0
	收入濟		
	損益	0	
	前金受		0
	固定財産賣拂代收入濟ニ付組替		
	前金受	0	
	固定財産		0
	固定財産賣拂		
	損益	0	
	固定財産		0
	固定財産原價ト賣拂價格トノ差		
		0	0
	何年何月何日		
	預金	0	
	國庫		0
	餘裕金預入		
	國庫	0	
	預金		0
	預金拂戻		
		0	0

8　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
	前金拂	0	
	損益		0
	前金拂組替		
	損益	0	
	前金拂		0
	損益ニ組替		
	損益	0	
	公債較差		0
	公債較差ノ減		
	損益	0	
	器具備品		0
	器具備品ノ減失毀損		
	損益	0	
	固定財産		0
	固定財産ノ減失毀損又ハ減價		
		0	0

何年何月何日　9

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	未成工事	0	
	損益		0
	固定財産未完成		
	前金拂	0	
	損益		0
	未經過費用組替		
		0	0
	何年何月何日		
	收入未濟	0	
	損益		0
	收入未濟		
	收入未濟	0	
	收入未濟固定財産未渡		0
	收入未濟中固定財産引渡未濟		
	固定財産減價償却金受入未濟	0	
	損益		0
	固定財産減價償却金受入未濟		
	損益	0	
	支出未濟		0
	支出未濟		
		0	0

10　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	何々收入(款)		0
	他勘定ヨリ益金受入		
	何々收入(款)	0	
	損益		0
	損益ニ組替		
	損益	0	
	何々費(款)		0
	同上		
	損益	0	
	固有資本		0
	製鐵所益金固有資本ニ組入		
		0	0

備考

原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル
固有資本、借入資本、一時借入金、國庫餘裕金繰替、損益、
何々收入(款)、何々費(款)、用品勘定交付資金、作業勘定
交付資金、收入未濟、前年度以前收入未濟、固定財産減
價償却金受入未濟、支出未濟、前金受、前金拂、收入未
濟、固定財産未渡、前年度以前收入未濟固定財産未
渡、交付材料、公債較差、預金、國庫、固定財産、未成工
事、器具備品

「某年度製鐵所會計日記簿」(用品勘定)

何年何月何日　1

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	受入資金		0
	資金受入		
	受入資金	0	
	國庫		0
	資金返還		
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
		0	0
	何年何月何日		
	用品	0	
	支出未濟		0
	用品購入代		
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	用品購入代支拂濟ニ付組替		
		0	0

2　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	何々費（款）	0	
	國庫		0
	支出濟		
	前金拂	0	
	損益		0
	用品購入代支拂濟ニ付組替		
	用品	0	
	前金拂		0
	前金拂ニ對シ用品受入		
		0	0
	何年何月何日		
	國庫	0	
	何々收入（款）		0
	收入濟		
	收入未濟	0	
	用品		0
	他勘定ヘ引渡用品原價		
	收入未濟	0	
	損益		0
	引渡用品ニ對スル割掛		
	國庫	0	
	何々收入（款）		0
	收入濟		
	損益	0	
	收入未濟		0
	用品供給代收入濟ニ付組替		
		0	0

何年何月何日　　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	何々收入（款）		0
	收入濟		
	損益	0	
	前金受		0
	用品賣拂代收入濟ニ付組替		
	前金受	0	
	用品		0
	賣拂用品原價		
	前金受	0	
	損益		0
	用品賣拂價格下原價下ノ差		
	用品	0	
	用品		0
	損益		0
	製作濟用品受入		
		0	0

4　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	交付材料	0	
	用品		0
	請負者ヘ用品製作材料交付		
	器具備品	0	
	用品		0
	器具備品ニ組替		
	用品	0	
	交付材料		0
	支出未濟		0
	請負者ヨリ製作濟用品受入		
	何々費（款）	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	用品製作費支拂濟ニ付組替		
		0	0
	何年何月何日		
	國庫	0	
	何々收入（款）		0
	收入濟		
	損益	0	
	前年度以前收入未濟		0
	前年度以前收入未濟收入濟ニ付組替		
	追次合計	0	0

何年何月何日　　5

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	前年度以前收入未濟物品未渡	0	
	前金受		0
	前年度以前收入未濟中物品引渡未濟ニ對シ代金收入濟ニ付組替		
	何々費（款）	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	支出未濟支拂濟ニ付組替		
	支拂期日未到支出未濟	0	
	損益		0
	支拂期日未到支出未濟支拂濟ニ付組替		
	固定財產減價償却金繰入未濟	0	
	損益		0
	固定財產減價償却金繰入未濟繰入濟ニ付組替		
		0	0

6　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	用品	0	
	支拂期日未到支出未濟		0
	用品購入代		
	用品仕掛品	0	
	用品		0
	損益		0
	用品仕掛品受入		
		0	0
	何年何月何日		
	損益	0	
	器具備品		0
	器具備品滅失毀損		
	損益	0	
	用品		0
	用品滅失毀損又ハ滅價		
	損益	0	
	前金拂		0
	損益ニ組替		
		0	0

7　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前金拂	0	
	損益		0
	未經過費用組替		
	收入未濟	0	
	損益		0
	收入未濟		
	損益	0	
	支出未濟		0
	支出未濟		
	損益	0	
	固定財產減價償却金繰入未濟		0
	固定財產減價償却金繰入未濟		
	收入未濟	0	
	收入未濟物品未渡		0
	收入未濟中物品引渡未濟		
		0	0
	何年何月何日		
	何々收入(款)	0	
	損益		0
	損益ニ組替		
	損益	0	
	何々費(款)		0
	同上		
	追次合計	0	0

8　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	損益	0	
	國庫		0
	益金繰入		
		0	0

備考
原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル
受入資金、損益、何々收入(款)、何々費(款)、收入未濟、前年度以前收入未濟、支出未濟、支拂期日未到支出未濟、固定財產減價償却金繰入未濟、前金拂、收入未濟物品未渡、前年度以前收入未濟物品未渡、交付材料、國庫、用品、用品仕掛品、器具備品

「某年度製鐵所會計日記簿」(作業勘定)

1　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	受入資金		0
	資金受入		
	受入資金	0	
	國庫		0
	資金返還		
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
		0	0
	何年何月何日		
	損益	0	
	支出未濟		0
	物品購入代		
	器具備品	0	
	支出未濟		0
	器具備品購入代		
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	物品購入代支拂濟ニ付組替		
		0	0

2　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	生産品	0	
	損益		0
	生産品受入		
	生産品	0	
	生産品		0
	仕掛品		0
	損益		0
	同上		
	國庫	0	
	何々收入(款)		0
	收入濟		
	收入未濟	0	
	生産品		0
	賣拂生産品ノ原價		
	收入未濟	0	
	損益		0
	生産品賣拂價格ト原價トノ差		
	國庫	0	
	何々收入(款)		0
	收入濟		
	損益	0	
	收入未濟		0
	生産品賣拂代收入濟ニ付組替		
		0	0

何年何月何日　3

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	國庫	0	
	何々收入(款)		0
	收入濟		
	損益	0	
	前金受		0
	生産品賣拂代收入濟ニ付組替		
	前金受	0	
	生産品		0
	賣拂生産品原價		
	前金受	0	
	損益		0
	生産品賣拂價格ト原價トノ差		
		0	0
	何年何月何日		
	注文者提供材料	0	
	注文者提供材料受		0
	注文者ヨリ生産品材料受入		
	生産品	0	
	注文者提供材料		0
	損益		0
	生産品受入		
	注文者提供材料受	0	
	生産品		0
	引渡生産品原價		
	追次合計	0	0

4　　何年何月何日

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
		0	0
	何年何月何日		
	國庫	0	
	何々收入(款)		0
	收入濟		
	損益	0	
	前年度以前收入未濟		0
	前年度以前收入未濟收入濟ニ付組替		
	前年度以前收入未濟物品未渡	0	
	前金受		0
	前年度以前收入未濟中物品引渡未濟ニ對シ代金收入濟ニ付組替		
	損益	0	
	納期未到收入未濟		0
	納期未到收入未濟收入濟ニ付組替		
		0	0

何年何月何日　5

原簿丁數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
	支出未濟	0	
	損益		0
	支出未濟支拂濟ニ付組替		
	固定財産減價償却金繰入未濟	0	
	損益		0
	固定財産減價償却金繰入未濟繰入濟ニ付組替		
		0	0
	何年何月何日		
	交付材料	0	
	生産品		0
	加工ノ爲請負者ヘ材料交付		
	生産品	0	
	交付材料		0
	支出未濟		0
	請負者ヨリ加工濟生産品受入		
	何々費(款)	0	
	國庫		0
	支出濟		
	追次合計	0	0

何年何月何日　6

原丁簿數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	前葉合計	0	0
	支出未濟	0	
	損益		0
	加工費支拂濟ニ付組替	0	0
	何年何月何日		
	納期未到收入未濟	0	
	生產品		0
	賣拂生產品ノ原價		
	納期未到收入未濟	0	
	損益		0
	生產品賣拂價格ト原價トノ差		
	損益	0	
	器具備品		0
	器具備品滅失毀損		
	損益	0	
	生產品		0
	生產品滅失毀損又ハ減價		
	損益	0	
	前金拂		0
	損益ニ組替	0	0

何年何月何日　7

原丁簿數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	仕掛品	0	
	損益		0
	仕掛品受入		
	生產品	0	
	損益		0
	契約濟價格差增		
	前金拂	0	
	損益		0
	未經過費用組替		
	收入未濟	0	
	損益		0
	收入未濟		
	收入未濟	0	
	收入未濟物品未渡		0
	收入未濟中物品引渡未濟		
	損益	0	
	支出未濟		0
	支出未濟		
	損益	0	
	固定財產減價償却金繰入未濟		0
	固定財產減價償却金繰入未濟	0	0

何年何月何日　8

原丁簿數	原簿科目	借	貸
		圓	圓
	何々收入(款)	0	
	損益		0
	損益ニ組替		
	損益	0	
	何々費(款)		0
	同上		
	損益	0	
	國庫		0
	益金繰入		
		0	0

備考
原簿ニ於ケル科目ノ配置ハ下記ニ依ル　受入資金、損益、何々收入(款)、何々費(款)、收入濟、支出未濟、年度以前收入未濟、納期未到收入未濟、前金拂、以前收入未濟、前金受、未定財產減價償却金繰入未濟、前年度注文者提供材料、收入未濟物品未濟、前年度未渡、交付材料、國庫、生產品、仕掛品、注文者提供材料、器具備品

第二十四號書式

「某年度何々會計原簿」

何々

年月日	摘要	日記丁數	借	貸	借或貸	殘
			圓	圓		圓
何年何月	何々		0			
〃	何々			0	借	0
備考特別	會計規則ニ依リ要スル原簿ハ此ノ書式ニ依ル					

第二十五號書式

「某年度何々會計補助簿」

何々（原簿科目）　何々（細科目）

年月日	摘要	憑證番號	借	貸	借或貸	殘
			圓	圓		圓
何年何々	何々		0		借	0
何〃	何々			0	〃	0

備考　特依本トス

一　依則ニ規定シタル會計ニ關スル各種ノ補助簿ハ大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ設ケ補助簿ノ殘額ハ原簿ノ細目ニ詳記スルモノトス

二　本適用ノ補助簿ハ毎口座ニ要スル細目ヲ設ケサルモノニ限リ之ヲ設ケサルコトヲ得

三　補助簿ノ外原簿ノ詳細ヲ明ニスルヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ設ケ又ハ原簿ノ記載ニ代ヘ適宜各廳ニ於テ之ニ準スヘキ帳簿ヲ設ケシムルコトヲ得

第二十六號書式

「某年度何々會計支拂元受高差引簿」

年月日	摘要	支拂元受高	支出濟額	殘額
		圓	圓	圓
何年何	前年度ヨリ越	0		0
何〃	歲入	0		
〃	〃		0	
〃	定額戻入		0	
〃	更正減額何々	0		0
〃	翌年度へ越		0	
何〃	何々		0	0

第二十七號書式

某年度何々會計受拂勘定表

受拂	種目	金額
		圓
受入	歲入ノ收入濟額	0
	收入未濟額	
	據置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高	0
	何々	0
	何々	0
	合計	0
拂出	歲出ノ支出濟額	0
	支出未濟額	
	據置運轉資本額	0
	何々	0
	何々	0
	合計	0

備考　受入ノ拂出（拂出ノ受入）ニ超過スルコト本表ノ如クナルヲ以テ何圓ノ益金（損失）ヲ生シタリ

第二十八號書式

某年度帝國鐵道會計貸借對照表

借方 種目	金額	貸方 種目	金額
	圓		圓
現金	0	特有資本	0
收入未濟	0	借入資本	0
固定財產	0	支出未濟	0
貯藏物品	0	歲入歲出外勘定	0
工場勘定	0	何々	0
何々	0		
合計	0	合計	0

第三十一號書式

固定財産	種目	某年度帝國鐵道會計固定財産價格增減表				
	年度首價格	○圓				
	增	○圓				
	減	○圓				
	年度末價格	○圓				
	增減事由					

種目	借有入資本	特有資本	備考
年度首	○ ○圓		
增	○ ○圓		
減	○ ○圓		
年度末	○ ○圓		
增減事由			
合計			

第三十號書式

種目	某年度帝國鐵道會計資本增減表				
年度首					
增					
減					
年度末					
增減事由					

第二十九號書式

種目	某年度帝國鐵道會計損益計算表				
損失金額	鐵道作業費	○ ○圓			
	何々				
	計				
利益金額	鐵道作業收入	○ ○圓			
	何々				
	計				
差引	何々				

第三十二號書式

何年三月三十一日何々會計固定財産明細目錄	種目	公債證書	有價證券	貸付金	現金	何々	何々	何々	合計	備考
	前年度末	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	
	增	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	
	減	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	
	增減事由	何々								

第三十三號書式

天正五年九月廢三八號ヲ以テ改正

某年度何々會計固定資本種類增減表	種目	土地	建道	機械	器具	何々	合計	備考
	年度首價格	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	
	增	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	
	減	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	
	年度末價格	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	○圓	
	增減事由							

第三十三號書式

天正五年九月廢三八號ヲ以テ改正

○會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件

●大藏省令第四十三號　大正十一年五月三十日

第一條　會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額其ノ他ノ數量ニシテ「一」、「二」、「三」、「十」、「廿」、「卅」ノ數字ハ「壹」、「貳」、「參」、「拾」、「貳拾」、「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

第二條　會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ノ記載事項ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル諸書類帳簿ノ記載事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲サムトスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス但シ金錢又ハ物品ノ受授ニ關スル諸證書ノ數字ハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得ス數字以外ノ事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ作製者之ニ認印スルコトヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年大藏省令第二十一號（計算出納ニ關スル諸證書ニ記載スル金員ノ用字ヲ定ムルノ件）ハ之ヲ廢止ス

○歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續

●大藏省令第三十八號　大正十一年四月五日

第一條　歲入徵收官ハ出納官吏、郵便局又ハ日本銀行ニ於テ現金收納後納稅告知書、納入告知書、拂込通知書、納付書又ハ送付書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ當該年度所屬歲入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ其ノ歲入金ニシテ郵便局ノ取扱ニ係リ其ノ誤謬ヲ發見シタルトキ既ニ日本銀行ニ振替拂込ヲ了シタル後ナルトキハ歲入徵收官ハ直ニ日本銀行當該店ニ對シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　歲入徵收官出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ヨリ誤謬訂正濟ノ報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ニ依リ其ノ訂正シタル月ニ於テ徵收簿ヲ訂正シ其ノ事由ヲ領收濟ノ報告書又ハ通知書ニ記載スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正ヲ爲シタル月ノ徵收報告書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第四條　甲廳歲入徵收官誤テ乙廳所管歲入金ヲ徵收シタル場合ニ於テハ甲乙兩廳歲入徵收官連署ノ上關係出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ對シ之カ更正ヲ請求スヘシ

前三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　歳入徴收官當該年度出納閉鎖前歳入年度誤謬ノ訂正ヲ了セサル場合又ハ出納閉鎖後歳入年度ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ誤謬ノ儘据置整理シ其ノ事由及金額ヲ記載シ歳入事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

明治二十四年大藏省令第十一號（金庫ニテ現金領收後納額告知書現金拂込書及納付書記載年度ノ誤謬發見ノトキ訂正手續ノ件）ハ之ヲ廢止ス

○入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件

●勅令第三百四十號　明治四十三年九月七日

改正　大正九年第五八一號

入札又ハ契約ニ關シ保證金ヲ徴スヘキ規定ナキ場合ニ於テモ當該官吏特ニ其ノ必要アリト認メタルトキハ現金又ハ國債ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得

落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年十二月二十八日勅令第五百八十一號）

第二節　特別會計

第一款　通則

○作業會計法

●法律第十七號　明治二十三年三月十八日

改正　明治三〇年第八號、三二年第一二號、三〇號、三九年第一一號、四四年第三五號、大正四年第五號、八年第八號、一〇年第八號、一五年第四六號

第一條　左ノ作業所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第一　印刷局

第二　海軍火藥廠

第三　海軍燃料廠　（大正一五年三月第四六號ヲ以テ改正）

第四　專賣局

第二條　各作業所ニ於テ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地建物軌道其他築造道路船舶機械永遠保存品其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トナシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

印刷局据置運轉資本ハ百萬圓トス

（第三項大正一五年三月第四六號ヲ以テ削除）

海軍火藥廠据置運轉資本ハ二百萬圓トシ漸次一般會計ヨリ繰入ス

海軍燃料廠据置運轉資本ハ二百萬圓トシ大正九年度末現在ノ海軍採炭所据置運轉資本ヲ以テ之ニ充テ其ノ不足額ハ漸次一般會計ヨリ繰入ス

專賣局据置運轉資本ハ千萬圓トス

第三條　各作業所特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第四條　固定資本ノ維持修理及補充ハ作業所特別會計ノ歳入ヲ以テ支辨スヘシ

第五條　作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條　政府ハ每年各作業所特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條　各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關渉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

附　則（大正十年三月三十日法律第八號）

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正九年度海軍採炭所特別會計歳入歳出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノハ海軍燃料廠特別會計ニ繰越スヘシ

○作業會計規則

明治三十三年第三三號　改正　二六年第二二四號、三〇年第一二六號、第二三〇號、三二年第二〇九號、三三年第一二八號、第三四九號、三五年第一三四號、第二〇二號、三八年第一六八號、三九年第二七號、四〇年第八九號、大正二年第四二號、五年第七四號、八年第八二號、一〇年第六八號

●勅令第三十四號　大正十一年三月二十七日

改正　大正一二年第一六三號、一五年第三五一號

第一章　歲入歲出

第一條　左ノ諸收入ヲ以テ作業所ノ歲入トス

一　作業上ノ收入

二　附屬雜收入

第二條　左ノ諸費ヲ以テ作業所ノ歲出トス

一　事務員及技術員ノ俸給、諸給及旅費

二　事務所費

三　職工人夫ニ支給スル諸費

四　固定資本ノ維持費修理費及補充費

五　材料素品購入費

六　動力費

七　作業場用備品費、固定資本ニ屬セサル器具費及消耗品費

八　生產品販賣諸費

第二章　豫算決算

第三條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ各省豫定經費要求書ト共ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ科目ヲ分チ成ルヘク歲入ノ性質及歲出ノ用途ヲ明示スヘシ

第五條　所管大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格增減表ヲ調製シ歲入歲出ノ豫定計算書ニ之ヲ添附スヘシ

第六條　歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三章　收入支出

第七條　歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣各作業事務長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ但シ作業部局長ヲシテ歲出豫算ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第八條　豫備費ノ支出ハ會計規則第十九條、第二十條及第二十四條ノ規定ニ依ル

第九條　作業所ハ据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高、据置運轉資本補足金受入高及當該年度ノ收入濟歲入額ヲ以テ支拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條　每年度ニ屬スル歲出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第十一條　每年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ當該年度三月三十一日限トス

第七章　雜則

第三十四條　本令ニ於テ作業所トハ印刷局、海軍火藥廠、海軍燃料廠、陸軍造兵廠及千住製絨所ヲ謂フ（大正一五年一二月第三五一號ヲ以テ改正）

第三十五條　本令ニ於テ作業事務長トハ印刷局長、海軍火藥廠長、海軍燃料廠長、陸軍造兵廠長官及千住製絨所長ヲ謂フ（大正一五年一二月第三五一號ヲ以テ改正）

第三十六條　本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件

●勅令第百十八號　明治三十年四月二十八日

特別會計ノ豫算中ニ設ケタル第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ豫算ヲ所管スル主務大臣ニ於テ會計規則（第十八條）ノ勅令ニ基キ支出ヲナシ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作リ大藏大臣ニ通知シ大藏大臣ハ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第二款　外務省所管

○對支文化事業特別會計法

●法律第三十六號　大正十二年三月三十一日

改正　大正一五年第二九號

第一條　對支文化事業助長ノ爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條　左ニ揭クル證券ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

一　明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券

二　山東懸案解決ニ關スル條約第六條及第二十五條竝山東懸案細目協定第十九條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中製鹽業者ニ交付スルモノヲ除キタルモノ

三　山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條竝山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中賠償金特別會計ニ歸屬セシメラルヘキモノヲ除キタルモノ

第三條　山東懸案解決ニ關スル條約第二十二條ノ規定ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金中賠償金特別會計ニ繰入レラルヘキモノヲ除キタル殘額ハ之ヲ本會計ニ繰入ルヘ

シ

第四條　本會計ニ於テハ左ニ揭クル諸收入ヲ以テ其ノ歲入トス

一　所屬證券ノ償還元利金
二　所屬資金ノ運用利殖金
三　寄附金
四　附屬雜收入

第五條　本會計ニ於テハ左ニ揭クル事業ニ關スル諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

一　支那國ニ於テ行フヘキ教育、學藝、衞生、救恤其ノ他文化ノ助長ニ關スル事業
二　帝國ニ在留スル支那國人民ニ對シテ行フヘキ前號ニ揭クル事業ト同種ノ事業
三　帝國ニ於テ行フヘキ支那國ニ關スル學術研究ノ事業

第六條　寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第七條　本會計ノ歲出額ハ寄附金ニ依ルモノヲ除クノ外每年度三百萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條　本會計ノ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

第九條　本會計ノ資金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十一條　本會計ノ每年度歲出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附　則

本法ハ大正十二年度ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年度一般會計ニ於テ明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券ノ元利償還金收入トシテ受入レタル金額ニ相當スルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第二條第二號及第三號ニ規定スル國庫證券ニシテ本法施行前支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

第三款　內務省所管

○健康保險特別會計法

●法律第二十六號　大正十五年三月二十九日

第一條　健康保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條　本會計ニ於テハ保險料、一般會計ヨリ繰入ルル金額、積立金ヨリ生スル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其

ノ歲入トシ保險給付費、保健施設費、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費、營繕費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條　前條ノ一般會計ヨリ繰入ルル金額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一トス但シ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第五條　本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ保險料ヲ以テ保險給付費及保健施設費ヲ支辨スル能ハサル場合ニ借入ルルモノヲ除クノ外最高五百萬圓トス

第六條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

第七條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲シ又ハ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金又ハ繰替金ハ當該年度內ニ之ヲ返還スヘシ

第八條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第九條　本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○健康保險特別會計規則

●勅令第四號　昭和元年十二月二十九日

第一條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細目錄ヲ添附スベシ

第二條　歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣社會局長官ニ命ジテ之ヲ施行セシムベシ但シ他ノ官吏ニ命ジテ其ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得

第三條　本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歲入額及一時借入金ヲ以テ支拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第四條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生ジタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ積立金ニ屬スル現金ヲ

前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍不足アルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ對シ一時借入金ニ代ヘ國庫餘裕金ノ繰替使用ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度內ニ之ヲ返還スベシ

第五條　保險料收入ノ年度所屬ハ其ノ保險料ヲ負擔スベキ義務ノ發生シタル日ノ屬スル年度ニ依ル

第六條　每年度出納ノ完結迄ニ收入濟又ハ支出濟ト爲ラザルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歲入又ハ歲出トス

第七條　健康保險特別會計法第三條第一項ノ規定ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルル金額算定ノ基礎タル保險給付ニ要スル費用ノ額ノ計算ニ付テハ健康保險法施行令第九十一條ノ規定ヲ準用ス

第八條　健康保險特別會計法第三條第一項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ付テハ健康保險法施行令第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第九條　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十條　社會局長官ハ徵收報告書ニ依リ每月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十一條　支出官ハ每月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ社會局長官ニ送付スベシ

第十二條　社會局長官ハ支出濟額報告書ニ依リ每月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十三條　每年度ノ歲入ノ收入濟額ヨリ歲出ノ支出濟額及翌年度繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ之ヲ積立金ニ組入ルベシ

第十四條　歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第十五條　社會局ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ健康保險ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スベシ

第十六條　社會局ハ歲入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スベシ

第十七條　支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ

第十八條　社會局ハ歲出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歲出簿ニハ歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スベシ

第十九條　本令ニ規定セザルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　大藏省所管

○造幣局特別會計法

●法律第九號　大正四年六月二十一日

第一條　造幣局ノ事業ヲ經營スル爲固定資本、据置運轉資本及資金ヲ置キ作業上ノ收入、附屬雜收入及資金ニ屬スル收入ヲ以テ歲入ト爲シ作業ノ費用及資金ニ屬スル支出ヲ以テ歲出ト爲シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　造幣局ニ於テ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地、建物、築造、機械、重要ナル器具及標本ヲ以テ固定資本トシ從來ノ据置運轉資本ヲ以テ据置運轉資本トス

資金ハ大正四年度末現在ノ貨幣整理資金特別會計所屬ノ資金ヲ以テ之ニ充テ舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換及處分ニ關スル用途ニ使用ス

第三條　固定資本ノ維持、修理及補充ハ作業上ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　本會計ニ於ケル作業上ノ歲出額ハ其ノ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ許サス

第五條　資金ニ屬スル收入支出ハ別途ノ歲入歲出トシテ之ヲ整理スヘシ

第六條　作業上ノ純益ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第七條　資金ノ收入支出ノ決算上過剩ヲ生シタルトキハ之ヲ該資金ニ編入スヘシ

第八條　固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ之ヲ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第九條　政府ハ每年本特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十條　本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正五年度ヨリ之ヲ施行ス

○造幣局特別會計規則

●勅令第七十五號　大正五年三月三十一日
改正　大正一一年第三六號、一五年第二六四號

第一條　左ノ諸收入ヲ以テ作業上ノ歲入トス

第一　作業上ノ收入
第二　附屬雜收入

第二條　左ノ諸費ヲ以テ作業上ノ歲出トス

第一　事務員技術員ノ俸給諸給旅費
第二　事務所費
第三　職工人夫ニ給スル諸費
第四　作業用器具機械及標本ノ維持修理及補充費
第五　材料素品購入代
第六　動力費
第七　作業場用備品消耗品費
第八　建物及築造ノ維持修理及補充費
第九　（削除）

第三條　左ノ諸收入ヲ以テ資金ニ屬スル歲入トス

第一　地金賣拂代
第二　附屬雜收入

第四條　左ノ諸費ヲ以テ資金ニ屬スル歲出トス

第一　舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換金竝舊貨幣ノ交換ニ關スル諸費（六正二五七月第二六四號ヲ以テ改正）
第二　舊貨幣及流通不便貨幣ノ處分ニ關スル諸費

第五條　造幣局ハ據置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度作業上ノ收入濟歲入額ヲ以テ支拂元受高トシ作業上ノ歲出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條　所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ補助貨鑄造ノ材

局長官ニ送付スヘシ

第十五條ノ二　專賣局長官ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十六條　資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第十七條　資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

一　土地ハ近隣地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格ノ平均ニ依ル但シ新ニ購入又ハ交換シタルトキハ購入價格又ハ交換價格ニ依ル

二　建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格ノ平均ニ依ル

三　煙草、鹽、樟腦、樟腦油及煙草越幾斯ハ賠償、補償若ハ購入價格又ハ生產費ニ依ル但シ其ノ沒收等ニ係ルモノハ各其ノ比準價格ニ依ル

四　材料素品及機械運轉用品ハ購入價格又ハ生產費ニ依ル

第十八條　土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ毎五年ニ之ヲ改定スヘシ

第十九條　建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其ノ期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其ノ修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第二十條　前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第二十一條　每年度ノ終ニ現在スル煙草、鹽、樟腦、樟腦油又ハ煙草越幾斯ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少シタルトキハ現時ノ賠償、補償若ハ購入價格又ハ生產費ニ比準シテ之ヲ改定スヘシ

第二十一條ノ二　每年度ノ終リニ現在スル材料素品及機械ノ運轉用品ニシテ市價ノ低落シタルトキハ現時ノ市價ニ依リ其ノ價格ヲ改定スヘシ

前項ノ物品ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少シタルトキハ其ノ割合ニ應シテ價格ヲ改定スヘシ

第二十一條ノ三　材料素品、機械ノ運轉用品及其ノ他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失トシ不用品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第二十二條　歲入ノ收入濟額、收入未濟額、賣拂代價翌年度納付許可額、据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高、總葉煙草ノ價格、總製造煙草ノ價格、總鹽ノ價格、總樟腦及樟腦油ノ價格、總煙草越幾斯ノ價格、總材料素品ノ價格、總機械運轉用品ノ價格、總備品ノ價格、大藏省證券發行繰入金受入高、借入金受入高ヲ以テ受入トシ歲出ノ支出濟額、支出未濟額、前年度益金納付額、据置運轉資本額、賣拂代價

收入濟物品ノ價格、賣拂代價收入未濟物品ノ價格、賣拂代價翌年度納付許可物品ノ價格、消費シタル葉煙草ノ價格、消費シタル樟腦及樟腦油ノ價格、消費シタル材料素品ノ價格、消費シタル機械運轉用品ノ價格、損失ニ歸シタル物品ノ價格、大藏省證券發行繰入金額、借入金額、大藏省證券發行繰入金償還額、借入金償還額ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其ノ事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ但シ賣拂代價翌年度納付許可額ニ相當スル金額ハ翌年度ノ一般ノ歳入ニ納付スルコトヲ得

第二十三條　（削除）

第二十四條　專賣局ハ日記簿、原簿、補助簿ヲ備ヘ其ノ事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第二十五條　（削除）

第二十六條　專賣局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第二十七條　專賣局ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第二十八條　此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治三十三年度ヨリ施行ス

○專賣局據置運轉資本補足ニ關スル法律

●法律第十七號　明治三十八年二月十六日

改正　明治三九年第二七號、四一年第二號、四四年第八號、大正九年第二四號、一〇年第三二號、一五年第二八號、第四六號

第一條　專賣局ノ據置運轉資本ニ不足ヲ生シタルトキハ大藏大臣ハ借入金ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行シテ一時之ヲ補足スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ一億千萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス（大正一五年三月第四六號ヲ以テ改正）

前項ノ借入金及融通證券ハ遲クトモ翌年度ニ於テ之ヲ償還スヘシ

第二條　大藏大臣ハ前條第一項ノ借入金又ハ融通證券ノ發行ニ代ヘ當該會計年度內ニ限リ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

第三條　（削除）

附　則

（大正十年四月一日法律第三十二號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三條ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年三月十三日勅令第三十二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

○國債整理基金特別會計法

●法律第六號　明治三十九年三月二日

改正　大正四年第一四號、八年第一四號、九年第三八號、一三年第八號、昭和二年第四號

第一條　國債整理基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

國債整理基金ハ國債ノ償還發行ニ關スル費途ニ使用スルモノトス

第二條　國債整理基金ニ充ツヘキ資金ハ每年度一般會計又ハ特別會計ヨリ之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ

前項繰入額ノ中國債ノ元金償還ニ充ツヘキ金額ハ前年度首ニ於ケル國債總額ノ萬分ノ百十六以上トシ三千萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ大藏省證券、借入金、臨時國庫證券及米穀證券ハ之ヲ國債ト看做サス

第二條ノ二　國債ノ元金償還ニ充ツル爲前條ノ繰入額ノ外每年度其ノ前年度ニ於テ一般會計ノ歳計上新ニ生シタル剩餘金ノ四分ノ一ヲ下ラサル金額ヲ一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ（昭和二年三月第四號ヲ以テ追加）

前項ノ剩餘金ノ計算ニ付テハ之ヲ生シタル年度ヨリ翌年度ニ繰越シタル歳出豫算ノ財源ニ充ツヘキ額ヲ算入セサルモノトス（昭和二年三月第四號ヲ以テ追加）

第三條　國債借換ニ依ル募集金其ノ他ノ收入金ハ直接ニ之ヲ國債整理基金特別會計ニ編入スヘシ

第四條　國債整理基金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得（昭和二年三月第四號ヲ以テ改正）

前項ノ運用ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第五條　政府ハ國債ノ整理又ハ償還ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ起債スルコトヲ得

第六條　政府ハ計算上利益アリト認ムルトキハ額面以上ニテモ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第七條　國債整理基金ノ運用ヨリ生スル損益ハ本特別會計ノ所屬トシテ整理スルモノトス

第八條　國債整理基金ニシテ每年度內ニ使用セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

國債整理基金特別會計ノ每年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次繰越使用スルコトヲ得

第九條　政府ハ每年國債整理基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

附　則

第十條　本法ハ明治三十九年度ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　本法施行前一般會計ニ收入シタル借換國債ノ募集金ニシテ本法施行ノ日ニ於ケル現在額ハ之ヲ本特別會計ニ繰入ルヘシ

明治三十八年度一般會計ニ於テ前項借換國債ノ募集金ヲ以テスル國債償還ノ歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ本

特別會計ニ繰越スヘシ

第十二條　償金特別會計法ハ明治三十八年度限リ之ヲ廢止ス

償金特別會計ニ屬スル現金、有價證券及他ノ會計トノ計算ハ國債整理基金特別會計ニ歸屬スルモノトス

附　則（大正九年八月五日法律第三十八號）

大正五年法律第三十四號（外國債ノ整理償還ノ爲內國債ヲ發行スルコトニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス

本法施行前國債整理基金特別會計法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○公債金特別會計法

●法律第十五號　大正八年三月二十五日

改正　大正九年第九號

第一條　各種ノ經費ノ支辨ニ充ツヘキ公債金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條　公債金ヲ使用セムトスルトキハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ屬スル會計ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第三條　公債金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第四條　本會計ハ公債ノ發行ニ依ル收入金、運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ第二條及第六條ノ規定ニ依ル繰入金ヲ以テ其ノ歲出トス

第五條　公債金ニシテ每年度內ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

本會計ノ每年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第六條　公債金ハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費每ニ區分整理シ其ノ經費ヲ要セサルニ至リタル後剩餘アルトキハ之ヲ其ノ經費ノ屬シタル會計ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第七條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條　本法ハ大正五年法律第四號ニ依リ發行スル公債ノ收入金ニ關シテハ之ヲ適用セス

附　則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

事業公債及鐵道公債特別會計法（明治三十二年二月八日法律第十三號）、朝鮮事業公債金特別會計法（明治四十四年三月二十三日法律第十九號）ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際前項ノ各特別會計ニ屬スル公債金ハ之ヲ本會計ノ歲入ニ繰入ルヘシ

○賠償金特別會計法

●法律第二十五號　大正九年八月三日

改正　大正一二年第三八號

第一條　獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領スル賠償金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條　本會計ノ資金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第三條　本會計ハ賠償金及其ノ利子、本會計所屬物件ノ賣拂代金及貸付料、運用利殖金並附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ法令ノ定ムル所ニ依リ支出スル交付金、事務取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第四條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第五條　本會計ノ資金ニシテ每年度內ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

本會計ノ每年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第六條　獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領スル有價證券其ノ他ノ物件ハ本會計ノ所屬トス

本會計ノ收入支出及本會計所屬物件ノ保管出納ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條竝山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券ハ本會計ニ歸屬セシメ同條約第二十二條ノ規定ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金ハ本會計ニ繰入ルヘシ

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬セシムル國庫證券ノ額面金額及本會計ニ繰入ルル補償金ノ額ハ通シテ獨逸國トノ平和條約附屬議定書第二號ノ規定ニ依リ獨逸國ノ貸方ニ記入スヘキ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十二年四月二日法律第三十八號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條竝山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタル國庫證券ハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

○賠償金特別會計規則

●勅令第二百五十四號　大正九年八月十三日

第一條　本會計ノ收入支出及本會計所屬物件ノ保管出納ハ會計規則、物品會計規則、【明治二十六年勅令第七十號及官有財產管理規則】ニ依ル

第二條　本會計所屬ノ物件ヲ賣拂又ハ貸付スル場合ニ於テ所管大臣公告シテ競爭入札ニ付スルヲ不利ト認ムルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國有財產整理資金特別會計法

●法律第六號　大正十一年三月二十八日

第一條　國有財產整理資金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條　國有財產整理資金ハ國有財產ノ整理處分ニ因ル收入及附屬雜收入ヲ以テ之ニ充ツ但シ其ノ收入ニシテ他ノ特別會計ノ歲入ニ屬スルモノ及國有林野又ハ北海道國有未開地ノ處分ニ因ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　國有財產整理資金ハ國有財產ノ整理ニ關シ必要ナル事務費、營繕費其ノ他ノ諸費ニ之ヲ使用ス

第四條　國有財產整理資金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ

第五條　國有財產整理資金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第六條　一般ノ歲計上必要アル場合ニ於テハ豫算ノ定ムル所ニ依リ國有財產整理資金ヲ第三條ニ規定スル費途以外ノ營繕費ニ使用スルコトヲ得

第七條　政府ハ每年國有財產整理資金ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條　國有財產整理資金ニシテ每年度內ニ使用セサルモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

第九條　國有財產整理資金ノ每年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附　則

本法ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

○國有財產整理資金特別會計法ノ特例ニ關スル法律

●法律第十五號　昭和二年三月三十日

復興局廳舍新營費又ハ帝都復興事業費ヲ以テ建築又ハ購入シタル國有財產ニシテ不用ニ歸シタルモノノ賣拂代金ハ帝都復興ニ要スル經費ニ充用スル爲國有財產整理資金特別會計法第二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一般ノ歲入ニ組入ルルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ一般ノ歲入ニ組入ルルコトヲ得ル金額ハ千九百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○教育改善及農村振興基金特別會計法

●法律第十四號　大正十四年三月三十日

改正　大正一五年第二七號

第一條　教育改善及農村振興基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條　造幣局資金ノ內一億四千四百萬圓ハ之ヲ本基金ニ繰入ルヘシ

第三條　本基金ハ教育ノ改善及農村ノ振興ニ必要ナル費途ニ之ヲ使用ス

第四條　第二條ノ規定ニ依リ繰入レタル金額ハ本基金ノ元資金トシ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第五條　本基金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利殖金ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條　本基金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第七條　政府ハ每年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條　本基金ノ每年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附　則（大正十年一三月二十七日勅令第四十三號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

會計規則第五十條、第五十三條又ハ第七十八條ニ規定スル期限ニ付テハ大正十年度分ニ限リ四月三十日ヲ五月十五日、五月三十一日ヲ六月十五日トシ同令第百七十條ニ規定スル期限ハ之ヲ六月十五日トス

大正十年度所屬歳入歳出金ヲ日本銀行ニ於テ出納スルハ大正十一年六月十五日限トス

大正十年度所屬ノ歳入歳出金ノ六月分徵收總報告書及支出總報告書ハ參照書類又ハ支出濟額報告書ト共ニ所管大臣ヲ經由シテ大正十一年六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

○朝鮮鐵道用品資金會計法

●法律第十八號　大正十四年三月三十日

第一條　鐵道用品ヲ購入貯藏及製作修理シ朝鮮鐵道ノ運輸營業及建設事業ノ需用ニ應スル爲朝鮮鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　朝鮮鐵道用品資金ハ大正十四年四月一日ニ於テ朝鮮總督府ノ保管ニ歸スル元朝鮮鐵道用品資金ノ額ニ相當スル鐵道用品ノ貯蓄材料ヲ以テ之ニ充テ尙朝鮮總督府特別會計ヨリ漸次繰入レテ三百萬圓トス

第三條　本會計ハ鐵道用品ノ賣拂代及修理代竝附屬雜收入ヲ以テ歳入トシ鐵道用品ノ購入代、製作費、改製費及修理費竝附屬諸費ヲ以テ歳出トス

第四條　本會計ノ決算上生シタル過剩金ハ之ヲ同年度朝鮮總督府特別會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第五條　政府ハ每年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　本會計ノ經營ニ妨ナキ限リ一般ノ需用ニ應シ機械其ノ他ノ物品ノ製作修理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本會計ニ屬スル用品ヲ以テ其ノ材料ニ充ツルコトヲ得

附　則

本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮鐵道用品資金會計規則

●勅令第四十八號　大正十四年三月三十一日

改正　昭和二年第五八號

第一條　本會計ノ歳入歳出豫定計算書ニハ前前年度ノ受拂勘定表ヲ添附スヘシ

第二條　本會計ハ資金ニ屬スル現金ノ持越高竝當該年度ノ

資金繰入高及收入濟歲入額ヲ以テ支拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條　貯藏物品中購入品ハ購入費ヲ以テ、新製品、改造品又ハ修理品ハ材料價格及工作費ヲ以テ其ノ原價トス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ見積價格ヲ以テ原價ト爲スコトヲ得

第四條　貯藏物品腐朽、毀損、變質其ノ他ノ事由ニ因リ價格減少シタルトキハ每年度ノ終ニ於テ其ノ原價ヲ改定スヘシ

第五條　貯藏物品ノ原價ニ對シ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ取扱諸費及損減歩合ヲ割掛ケタルモノヲ以テ物品ノ賣價トス

第六條　貯藏物品ノ損減歩合ハ腐朽又ハ不用ニ歸シタルニ因リ生シタル既往ノ損減高及亡失、毀損、變質、減量等ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第七條　每年度內ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度內ニ收入濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第八條　每年度ニ屬スル歲出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

（昭和二年四月第五八號ヲ以テ但書追加）

第九條　每年度內ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度內ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時效完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル每ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條　受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

一　歲入ノ收入濟額

二　歲入ノ收入未濟額

三　資金ニ屬スル現金ノ持越高

四　資金繰入高

五　總貯藏物品ノ價格

六　代償支出濟未收物品ノ價格

第十一條　受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

一　歲出ノ支出濟額

二　歲出ノ支出未濟額

三　資金額

四　前受金

五　代償收入濟物品ノ價格

六　代償收入未濟既出物品ノ價格

七　損失ニ歸シタル物品ノ價格

八　損失金

第十二條　帳簿ニ關スル規則ハ作業會計規則第六章ノ例ニ依ル

第十三條　本令ニ規定セサルモノニ付テハ朝鮮總督府特別會計規則ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府特別會計法

●法律第二號　明治三十年二月二十六日

第一條　臺灣總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歲入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條　前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第三條　本法ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○臺灣總督府特別會計規則

●勅令第二十七號　明治三十年三月十一日

改正　明治三〇年第三二七號、三五年第二〇一號、大正一一年第四五號

第一條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日マテニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　所管大臣ハ臺灣總督ヲ以テ支出官トシ臺灣總督府特別會計ニ屬スル歲出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシム

臺灣總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ臺灣總督府特別會計ニ屬スル歲出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第三條　臺灣總督ハ每年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官每ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計檢查院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更訂シタルトキ亦同シ

第四條　臺灣總督ハ年度內一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ支拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第五條　臺灣總督ハ一般會計規則第十八條ノ勅令ニ基キ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額理由ヲ附ス所ノ計算書ヲ作リ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條　大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第六條ノ二　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ臺灣總督ニ送付スヘシ

第六條ノ三　臺灣總督ハ徵收官ノ報告書ニ依リ每月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第六條ノ四　支出官ハ每月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ臺灣總督ニ送付スヘシ

第六條ノ五　臺灣總督ハ支出濟額報告書ニ依リ每月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シ

テ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條　臺灣總督ハ土地ノ情況ニ依リ一般會計規則第九十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八條　歲入歲出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日マテニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條　臺灣總督府ハ歲入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第十條　臺灣總督府ハ歲出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第十一條　本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、第九十二條、第九十七條、第九十八條、第百四條、第百二十五條、第百二十六條、第百二十九條、第百三十四條、第百三十五條第二項、第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十四條及第百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルハ臺灣總督トス

附　則　（大正十一年三月二十七日勅令第四十五號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

會計規則第五十條、第五十三條又ハ第七十八條ニ規定スル期限ニ付テハ大正十年度分ニ限リ四月三十日ヲ五月十五日、五月三十一日ヲ六月十五日トシ同令第百七十條ニ規定スル期限ハ之ヲ六月十五日トス

大正十年度所屬歲入歲出金ヲ日本銀行ニ於テ出納スルハ大正十一年六月十五日限トス

大正十年度所屬ノ歲入歲出金ノ六月分徵收總報告書及支出總報告書ハ參照書類又ハ支出濟額報告書ト共ニ所管大臣ヲ經由シテ大正十一年六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

○臺灣官設鐵道用品資金會計法

●法律第十三號　明治三十五年三月八日

改正　明治四〇年第四號、昭和二年第五號

第一條　鐵道用品ヲ購入貯藏シ臺灣官設鐵道ノ運輸營業竝建設事業ノ需用ニ應スル爲臺灣官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　臺灣官設鐵道用品資金ハ本法施行ノ年度始現在ノ臺灣總督府鐵道部ニ於ケル貯蓄材料ヲ以テ之ニ充テ尙必要ニ應シ臺灣總督府特別會計ヨリ漸次繰入シテ百萬圓トス（昭和二年三月第五號ヲ以テ改正）

第三條　臺灣官設鐵道用品資金會計ニ屬スル用品ヲ使用スルトキハ臺灣官設鐵道所屬ノ經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂竝概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四條　臺灣官設鐵道用品資金ヲ以テ購入貯藏シタル鐵道用品ノ製作、改製及修理ノ費用ハ該資金ヲ以テ之ヲ支辨

製鐵所ニ於テ運轉資金ニ充ツル爲必要アルトキハ最高六千萬圓ヲ限度トシ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條　左ニ揭クル國債ハ本會計ノ負擔トス

一　製鐵所ノ創設及擴張ニ必要ナル經費ヲ支辨スル爲從來發行シタル公債及之カ借換ノ爲從來發行シタル公債

二　前條ノ規定ニ依ル公債又ハ借入金

三　前二號ニ規定スル國債ノ償還金、利子、割引料竝發行及償還ニ關スル經費ノ支出ニ必要ナル金額ハ每年度之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ

第四條　本會計ハ之ヲ資本勘定、用品勘定及作業勘定ニ區分ス

第五條　資本勘定ハ作業益金繰入金、固定財產減價償却繰入金、公債募集金、借入金、固定財產ノ賣拂代金其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ固定財產ノ擴張費改良費補充費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費、國債償還金其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第六條　用品勘定ハ用品收入、工作收入其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ用品費、工作費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費減價償却金其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第七條　作業勘定ハ作業上ノ諸收入、固定財產ノ貸付料、預金利子其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ作業上ノ諸費用、總係費、本勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ維持修理費減價償却金、國債ノ利子割引料其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第八條　需要ノ增加ニ基ク生產又ハ販賣ノ增加ニ因リテ生シタル豫算ノ不足ヲ補フ爲用品勘定及作業勘定ノ歲出ニ豫備費ヲ設クヘシ

第九條　用品勘定又ハ作業勘定ニ於テ使用スル固定財產ノ減價償却金ハ之ヲ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第十條　用品勘定又ハ作業勘定ニ於テ決算上生シタル利益又ハ損失ハ之ヲ資本勘定ニ移シ整理スヘシ

第十一條　資本勘定ニ於テ決算上生シタル利益ハ之ヲ製鐵所益金トシ資本ニ組入ルヘシ

資本勘定ニ於テ決算上損失ヲ生シタルトキハ之ヲ製鐵所損金トシ資本ヲ減額スヘシ

第十二條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第十三條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ最高千萬圓ヲ限度トシ一時借入ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得

一時借入金及融通證券ニ依ル資金ハ當該年度內ニ之ヲ返還スヘシ

第十四條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第十五條　本會計ノ收入支出及損益計算ニ關スル規程ハ勅

令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十六條　本法ハ大正十六年度ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　作業會計法第一條第一號乃至第六號ヲ左ノ如ク改メ同法第二條第三項ヲ削ル

第一　印刷局

第二　海軍火藥廠

第三　海軍燃料廠

第四　專賣局

第十八條　明治三十八年法律第十七號第一條第一項中「及製鐵所」、「專賣局ニ在リテハ」及「製鐵所ニ在リテハ九千八百萬圓」ヲ削ル

第十九條　本法ニ依リ本會計ニ於テ借入ヲ爲シ又ハ一時借入ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ當分ノ內當該年度內ニ限リ國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

第二十條　本法施行前ニ於ケル製鐵所特別會計（作業會計法ニ依ルモノ）ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ニ繰越スヘシ

第二十一條　一般會計ノ歲出豫算ニ於ケル製鐵所擴張費ハ大正十六年度以降本會計ノ所屬トス

一般會計ノ歲出豫算ニ於ケル製鐵所擴張費及製鐵所設備補足費ニシテ大正十五年度ヨリ翌年度ニ繰越ヲ要スルモノハ之ヲ本會計ニ移シ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲シタル場合ニ於テハ一般會計ハ其ノ繰越額ニ相當スル金額ヲ本會計ニ繰入ルヘシ

○製鐵所特別會計規則

●勅令第三百五十一號　大正十五年十二月十四日

第一章　豫算決算

第一條　本會計ニ於ケル歲入歲出豫算ハ之ヲ資本、用品及作業ノ三勘定ニ分チ各勘定中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

第二條　所管大臣ハ每年度歲入歲出ノ豫定計算書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

前項ノ豫定計算書ニハ當該年度豫定損益計算表竝前々年度損益計算表、同貸借對照表、同財產目錄、同固定財產價格增減表及前々年度以前既往五箇年間資本增減表ヲ添附スヘシ

第三條　會計規則第十九條、第二十條及第二十四條ノ規定ハ製鐵所特別會計法第八條ノ豫備費ノ支出ニ付之ヲ準用ス

第四條　所管大臣ハ每年度歲入歲出ノ決定計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二章　收入支出

第五條　歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣

製鐵所長官ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ但シ製鐵所ノ部局長ヲシテ其ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條　本會計ニ於テハ本會計ニ屬スル前年度ヨリノ現金ノ持越高、當該年度ノ收入濟歲入額竝製鐵所特別會計法第十三條ニ規定スル一時借入金及融通證券ニ依ル資金ノ現在額ヲ支拂充受高ト シ歲出ヲ支出スルハ此ノ支拂充受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條　每年度ニ屬スル歲入金歲出金ノ出納ヲ爲スハ當該年度三月三十一日限トス但シ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲支出スル場合ハ翌年度四月三十日、用品勘定又ハ作業勘定ノ益金ヲ資本勘定ニ繰入ルル場合ハ翌年度五月三十一日迄之カ出納ヲ爲スコトヲ得

第八條　每年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ當該年度三月三十一日限トス

第九條　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ其ノ納入告知書ニ指定シタル納期末日ノ屬スル年度ノ歲入トス

第十條　本會計ニ於テ每年度內ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度三月三十一日迄ニ支出濟トナラサル歲出ニシテ時效完成ニ至ラサルモノハ支出未濟トシテ逃次翌年度ニ繰越スヘシ但シ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ製鐵所長官ニ送付スヘシ

第十二條　製鐵所長官ハ徵收報告書ニ依リ每月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十三條　支出官ハ每月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ製鐵所長官ニ送付スヘシ

第十四條　製鐵所長官ハ支出濟額報告書ニ依リ每月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三章　資本及財產

第十五條　本會計ノ資本ヲ分チテ固有資本及借入資本ノ二種トス

本會計ノ負擔ニ屬スル公債又ハ借入金ニ相當スル金額ヲ借入資本トシ其ノ他ノモノヲ固有資本トス

第十六條　製鐵所益金ハ之ヲ固有資本ニ組入レ製鐵所損金ハ之ヲ固有資本ヨリ減額スヘシ

第十七條　財產ハ價格ヲ附シテ之ヲ計算スヘシ

第十八條　本會計ニ於テハ土地、建物、工作物、船舶、機械、重要ナル器具備品竝鑛業權及工業所有權ヲ以テ固定財產トス

第四章　計算

第十九條　財產ヲ受入レタル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リテ之カ價格ヲ定ムヘシ

一　土地ハ購入費、埋立費又ハ交換當時ニ於ケル評定價格

二　建物、工作物、船舶、機械、器具、備品、鑛業權又ハ工業所有權ハ建造費、製作費又ハ購入費

三　用品ハ購入費、採掘費又ハ製作費

四　生產品ハ生產費

五　前各號ニ依リ價格ヲ定ムル能ハサルトキハ三人以上ノ評價人ヲ定メ前各號ニ準シ之ヲ評定セシメタル價格ノ平均額

據付費、運搬費、地上物件移轉費、地均費其ノ他之ニ準スヘキ經費ヲ要シタルトキハ之ヲ前項ノ價格ニ加算スヘシ

每年度末ニ於ケル未成工事又ハ仕掛品ノ價格ハ之ニ要シタル經費ヲ以テ當該物件ノ價格トス

第二十條　固定財產ノ價格ハ受入ノ翌年度ヨリ每年度末ニ於テ左ノ各號ニ規定スル價格ニ之ヲ改定スヘシ但シ土石採取ヲ目的トセサル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　鑛業權ニ付テハ總有效採取量及採掘ノ難易ヲ斟酌シテ鑛區ヲ區分シ各區分ニ付其ノ價格減耗割合ヲ定メ當該年度採取量ノ總有效採取量ニ對スル割合及當該年度採掘場所ノ價格減耗割合ニ應シテ價格ヲ遞減シタル殘額

二　土石採取ヲ目的トスル土地ニ付テハ殘骸價格ヲ定メ前號ニ準シテ價格ヲ遞減シタル殘額

三　工業所有權ニ付テハ存續年限ニ應シテ價格ヲ遞減シタル殘額

四　其ノ他ノ固定財產ニ付テハ耐用年限及殘骸價格ヲ定メ之ニ應シテ價格ヲ遞減シタル殘額

第二十一條　固定財產ニ擴張、改良又ハ補充ノ爲工事ヲ施シタル場合ニ於テハ其ノ費額及除却シタル部分ノ價格ヲ斟酌シテ其ノ價格ヲ改定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ耐用年限及殘骸價格ヲ改定スヘシ

災害復舊ノ爲固定財產ニ修理ヲ施シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　前二條ニ規定スル耐用年限ハ當該固定財產ノ目的トスル用法ニ從ヒ通常必要ナル維持修理ヲ施スモノトシテ其ノ年限ヲ決定シ其ノ受入又ハ前條ノ價格改定ノ翌年度ヨリ起算スルモノトス

第二十三條　用品及生產品ノ價格ハ每年度末ニ於テ賣買契約濟ノモノニ付テハ其ノ賣渡代價、其ノ他ノモノニ付テハ其ノ市價カ第十九條ノ規定ニ依リテ定マリタル價格以下ニ低落シタル場合ニ限リ市價ニ依リ之ヲ改定スヘシ

第二十四條　財產毀損變質其ノ他ノ原因ニ因リ減損シタル場合ニ於テハ其ノ割合ニ應シ其ノ價格ヲ改定スヘシ

第二十五條　用品勘定ヨリ他勘定ヘノ用品ノ引渡價格ハ第十九條、第二十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ定マリタル價格ニ取扱諸費及損減步合ヲ豫定シ之ヲ割掛タルモノトス

第二十六條　用品勘定又ハ作業勘定ニ於テ使用スル固定財

產ノ減價償却金ハ第二十條ノ規定ニ依リ當該年度ニ於テ減少スル價格ニ相當スル金額トス但シ固定財產補充ノ爲工事ヲ施シタル場合ニ於テ當該固定財產ノ價格ノ增加額カ工事ノ爲要シタル經費ニ達セサルトキハ其ノ差額ヲ減價償却金ニ加算スヘシ

第二十七條　資本勘定ノ利益及損失ニ屬スルモノ左ノ如シ

利益ニ屬スルモノ

一　歲入收入濟（他勘定ヨリノ益金繰入金ヲ除ク）

二　借入資本減少

三　固定財產及物品受入

四　他勘定計算

五　未決濟計算

六　雜益

七　他勘定ヨリ利益繰入

損失ニ屬スルモノ

一　歲出支出濟

二　借入資本增加

三　他勘定計算

四　未決濟計算

五　固定財產ノ減

六　雜損

七　他勘定ヨリ損失繰入

第二十八條　用品勘定又ハ作業勘定ノ利益及損失ニ屬スルモノ左ノ如シ

利益ニ屬スルモノ

一　歲入收入濟

二　物品受入

三　他勘定計算

四　未決濟計算

五　雜益

損失ニ屬スルモノ

一　歲出支出濟

二　物品拂出

三　他勘定計算

四　未決濟計算

五　雜損

第二十九條　第二條第二項ノ規定ニ依リ豫定計算書ニ添附スヘキ書類ノ樣式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五章　帳簿

第三十條　製鐵所ハ勘定每ニ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ其ノ事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第三十一條　製鐵所ハ勘定每ニ歲入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第三十二條　支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第三十三條　製鐵所ハ勘定每ニ歲出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ

登記スヘシ

製鐵所ハ支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第六章　雜則

第三十四條　本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第三十五條　本令ハ大正十六年度ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條　作業會計規則第三十四條中「製鐵所長官、」ヲ削ル

第三十七條　大正十六年度及大正十七年度歲入歲出ノ豫定計算書ニハ當該年度　豫定損益計算表及製鐵所特別會計（作業會計法ニ依ルモノ）ノ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格增減表ヲ添附スヘシ

第三十八條　本令施行前ニ於ケル製鐵所特別會計（作業會計法ニ依ルモノ）ニ屬スル財產ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬スル財產ハ從前ノ規定ニ依ル大正十五年度末ノ價格ヲ以テ其ノ受入價格トス但シ必要アルトキハ第十九條ノ規定ニ準シ之カ受入價格ヲ定ムルコトヲ得

第一項ニ規定スル財產カ第二十條ノ規定ニ依リ每年價格ヲ遞減スヘキモノナルトキハ其ノ耐用年限ハ大正十六年度ヨリ之ヲ起算シ價格ノ改定ハ大正十六年度以降之ヲ爲スヘシ

第三十九條　一般會計歲出豫算ニ於ケル製鐵所擴張費及製鐵所設備補足費支辨ニ屬スル物件ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬スル物件ノ受入價格ニ付テハ第十九條第三項ノ規定ヲ準用ス

第十款　遞信省所管

○簡易生命保險特別會計法

●法律第四十三號　大正五年七月十日

（改正　大正一〇年第四一號）

第一條　簡易生命保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條　本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生スル收入、每年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルル金額及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ保險金、還付金、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條　本會計ニ於ケル歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第三條ノ二　本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得

第四條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第三條　本會計ニ於ケル歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第四條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入シ又ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公債ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

第五條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年八月十日勅令第二百八十號ヲ以テ大正十五年十月一日ヨリ施行）

○郵便年金特別會計規則

●勅令第二百八十二號　大正十五年八月十日

第一條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細目錄ヲ添附スヘシ

第二條　歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣簡易保險局長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ但シ他ノ官吏ニ命シテ其ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第三條　郵便年金特別會計法第四條ノ規定ニ依リ公債ヲ以テ餘裕金ヲ保有セントスルトキハ地方債ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ其ノ種類及金額ヲ定ムヘシ

公債ヲ離權セントスルトキハ其ノ都度所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四條　本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歲入額ヲ以テ支拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度內ニ之ヲ返還スヘシ

第六條　每年度出納ノ完結迄ニ收入濟又ハ支出濟ト爲ラサルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歲入又ハ歲出トス

第七條　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ簡易保險局長ニ送付スヘシ

第八條　簡易保險局長ハ徵收報告書ニ依リ每月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條　支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ簡易保險局長ニ送付スヘシ

第十條　簡易保險局長ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十一條　歳入徴收官又ハ支出官一人ナル場合ニ於テハ徴收報告書又ハ支出濟額報告書ヲ以テ徴收總報告書又ハ支出總報告書ニ充ツルコトヲ得

第十二條　每年度ニ於ケル歳入ノ收入濟額ヨリ歳出ノ支出濟額ヲ控除シタル過剩額ハ之ヲ積立金ニ組入ルヘシ

前項歳入ノ收入濟額カ歳出ノ支出濟額ニ對シ不足アルトキハ之ヲ積立金ヨリ補足スヘシ

第十三條　歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十四條　簡易保險局ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ郵便年金ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第十五條　簡易保險局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第十六條　支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第十七條　簡易保險局ハ歳出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第十八條　本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ郵便年金特別會計法施行ノ日（大正十五年十月一日）ヨリ之ヲ施行ス

第十一款　鐵道省所管

○帝國鐵道會計法

●法律第六號　明治四十二年三月二十二日

改正　明治四四年第一六號、大正四年第六號、一〇年第一三號

第一條　帝國鐵道ノ事業ヲ經營スル爲從來ノ帝國鐵道資本及帝國鐵道用品資金竝將來投資スル金額ヲ以テ資本ト爲シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充テ特別會計ヲ設置ス

第二條　帝國鐵道資本補足ニ必要ナル金額ハ鐵道益金ヲ以テ之ニ充ツ但シ鐵道益金不足ノ場合ニ於テハ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債及借入金ノ總額ハ帝國鐵道ノ建設費、改良費及用品資金補足ノ豫算定額以內トス

第二條ノ二　（削除）

第三條　左ニ揭クル國債ハ本會計ノ負擔トス

一　帝國鐵道ノ事業ヲ經營スルニ必要ナル經費ヲ支辨スル爲從來發行シタル公債

二　第二條第一項ノ規定ニ依ル公債又ハ借入金

三　鐵道又ハ軌道ノ買收又ハ補償ノ爲發行シタル公債又ハ政府ノ負擔ニ歸シタル債務

四　本會計ノ負擔ニ屬スル國債ノ整理又ハ償還ノ爲起債シタル國債

前項ニ揭クル國債ノ償還金、利子、割引料竝發行及償還ニ關スル經費ノ支出ニ必要ナル金額ハ每年度之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ

第四條　本會計ハ之ヲ資本勘定、用品勘定及收益勘定ニ區分ス

第五條　資本勘定ハ鐵道益金繰入額、公債募集金及借入金竝所屬財產ノ賣拂代金其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ建設費、改良費、國債償還金、用品資金補足其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第六條　用品勘定ハ從來ノ用品資金及將來補足スル金額ヲ

以テ其ノ資金トシ用品收入、工作收入其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ用品費、工作費其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

用品勘定ノ決算上生シタル過剩金ハ之ヲ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第七條　收益勘定ハ鐵道營業上ノ諸收入資本所屬物件ノ貸付料及預金利子其ノ他附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ鐵道營業上ノ諸費用資本所屬物件ノ維持修理及補充費竝國債ノ利子、割引料其ノ他附屬諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

鐵道及軌道ニ關スル監督上ノ諸費用及地方鐵道補助金ハ本會計ノ負擔トシ收益勘定ノ歲出トス

第八條　輸送數量ノ增加其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リ生シタル豫算ノ不足ヲ補フ爲收益勘定歲出ニ豫備費ヲ設クヘシ

第九條　收益勘定ニ於テ歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ益金トシ資本勘定ニ繰入ルヘシ

第十條　政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第十一條　資本勘定ニ屬スル資金ニシテ年度內ニ使用セサルモノハ之ヲ遞次翌年度ニ繰越スヘシ

資定勘定ニ屬スル每年度豫算殘額ハ事業ノ完成ニ至ル迄遞次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第十一條ノ二（削除）

第十一條ノ三（削除）

第十二條　本會計ニ於テ仕拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得

本會計ノ各勘定ニ於テハ相互間資金ノ繰替ヲ爲スコトヲ得

一時借入金融通證券ニ依ル資金及繰替金ハ當該年度內ニ之ヲ返還スヘシ

第十三條　本會計ニ於テ仕拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第十四條　（削除）

第十五條　本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　本法ニ依リ本會計ニ於テ借入金又ハ一時借入金ヲ要スル場合ニ一般會計各特別會計ハ其ノ資金ニ餘裕アルトキハ之ニ對シ貸付ヲ爲スコトヲ得

附則

第十七條　本法ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國鐵道會計法及帝國鐵道用品資金會計法ハ之ヲ廢止ス【但シ明治四十一年度分及韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス】

第十八條　鐵道敷設法北海道鐵道敷設法及事業公債條例ノ規定ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ之ヲ廢止ス

第十九條　本法施行前ニ於ケル帝國鐵道特別會計及帝國鐵道用品資金特別會計ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ

ルモノハ收入未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第十四條　用品勘定所屬歲出ニシテ每年度內ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ每年度出納ノ完結迄ニ支出濟ト爲ラサルモノハ支出未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ支出ヲ爲シタル年度ノ歲出ニ組入ルヘシ

第十五條　資本勘定及收益勘定所屬ノ歲入歲出ニシテ每年度出納ノ完結迄ニ收入濟又ハ支出濟ト爲ラサルモノハ現ニ其ノ收入又ハ支出ヲ爲シタル年度ノ歲入又ハ歲出トス

第四章　計算

第十六條　本會計ノ資本ヲ分テテ特有資本及借入資本ノ二種トス

本會計ノ負擔ニ屬スル國債額ニ相當スル金額ヲ借入資本トシ其ノ他ノモノヲ特有資本トス

第十七條　資本勘定ニ於ケル資金ノ收入、收益勘定ニ於テ補充工事ノ爲支出シタル金額及讓渡又ハ寄附ヲ受ケタル財產ノ見積價格ハ翌年度五月三十一日ニ於テ前條ノ區別ニ從ヒ之ヲ特有資本又ハ借入資本ニ編入スヘシ

前項ノ規定ニ依リ借入資本ニ編入スヘキ額ハ債務額ニ依ル此ノ場合ニ於テ實收額ト債務額トニ差額アルトキハ其ノ差增額ハ之ヲ特有資本ニ加ヘ差減額ハ之ヲ同資本ヨリ減スヘシ

用品勘定ノ受拂上生シタル過剩額ハ之ヲ特有資本ニ加ヘ其ノ不足額ハ之ヲ特有資本ヨリ減スヘシ

第十八條　左ニ揭クルモノヲ以テ固定財產ノ價格トス

一　鐵道ノ建設、改良及補充工事ノ爲支出シタル金額

二　鐵道又ハ軌道ノ買收又ハ補償ノ爲支出シタル金額

三　讓渡又ハ寄附ヲ受ケタル財產ノ見積價格

第十九條　固定財產ニシテ讓渡又ハ滅失シタルモノアルトキハ其ノ價格ヲ削除シ之ヲ特有資本ヨリ減スヘシ

第二十條　貯藏物品ハ購入費、新製品改造品又ハ修理品ハ材料價格及工作費ヲ以テ其ノ原價トス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ見積價格ヲ以テ原價ト爲スコトヲ得

第二十一條　前條ノ原價ニ對シ所管大臣ノ定ムル所ニ依リ取扱諸費及損減歩合ヲ割掛ケタルモノヲ以テ物品ノ賣價トス但シ所管大臣ノ定ムル所ニ依リ貯藏物品ヲ使用シタル事業ノ經費ニ對シ每年一回又ハ數回其ノ取扱諸費及損減歩合ヲ割掛ケ貯藏物品ノ原價ヲ以テ其ノ賣價ト爲スコトヲ得

第二十二條　貯藏物品毀損變質其ノ他ノ事由ニ因リ價格ヲ減損シタルトキハ其ノ價格ヲ改定スヘシ

貯藏物品不用ニ歸シタルトキハ其ノ價格ヲ削除シテ之ヲ不用物品ニ組入ルヘシ

第二十三條　本會計ニ屬スル貸借對照表及損益計算表ノ種目ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五章　決算

第二十四條　所管大臣ハ每年度歲入歲出決定計算書ヲ調製

シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第六章　帳簿

第二十五條　鐵道省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ資本勘定、用品勘定及收益勘定ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第二十六條　支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第二十七條　鐵道省ハ歲出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第七章　雜則

第二十八條　本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四章　物品會計

○物品會計規則

●勅令第八十四號　明治二十二年六月十二日

改正　明治二四年第七七號、三三年第二八號、大正一一年第四八號

第一條　此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動產ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計檢查院ヘ通知スヘシ

第二條　物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條　物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條　物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條　總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條　物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條　物品會計官吏ハ其ノ故意怠情ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條　各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條　物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條　物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗費拂亡失毀損生產ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルヽヲ出トシ買入生產及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十條ノ二　各省大臣ハ檢查ノ官吏ヲ命シ四年以內ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ檢查セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ廳費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ檢查ノ方法ヲ設クヘシ

第十一條　常時出納ヲナサヽル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ每年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢查ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條　在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ每年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢查ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調查セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條　第十條ノ二、第十一條第十二條ノ調書ニハ檢查官吏及檢查ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條　（削除）

第十五條　物品會計官吏ハ會計檢查院ノ檢查判決ヲ受クル爲メ物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計檢查院ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條　前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計檢查院ニ於テ檢查判決ヲナスヘシ

第十七條　（削除）

第十八條　常時出納ヲナサヽル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計檢查院ニ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二　會計檢查院法第十六條ニ依リ委託檢查ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條　會計規則第七十五條、第百二十五條、第百二十六條、第百三十二條乃至第百三十五條及第百四十四條ハ物品會計官吏ニ準用ス

第二十條　物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ樣式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計檢查院ヘ通知スヘシ

第二十一條　官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條　此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

○物品會計規則第一條第二項ニ依ル各省大臣ノ指定物品

▲差押物品保管方ノ件（明治三十四年九月三十日大臣達第一四〇五號甲）　稅關、稅務監理局、專賣局

犯則處分又ハ國稅滯納處分ノ爲メ差押物品ニシテ其廳ニ於テ保管スルモノハ物品會計規則ヲ準用スルコトヲ指定ス但明治三十四年十月二十日ヨリ施行ス

▲政府保管物品指定ノ件（明治三十四年三月四日陸達第一〇號、改正大正六年陸達第一五號）

政府ノ保管ニ屬スル左記ノ物品ハ明治三十四年度ヨリ陸軍物品會計規程第十六條ニ據リ取扱フヘシ

一　衞戍病院ニ於テ保管スル入院患者ノ物品
二　軍法會議ニ於テ證據物件トシテ押收セル物品
三　陸軍監獄ニ於テ領置セル在監人ノ物品
四　俘虜死亡者若ハ敵國戰死者ノ遺留品等取扱ノ件（明治三十七年七月二十九日滿發第三二號、三〇號、改正明治三十八年第四七〇七號）

政府ノ保管ニ屬スル左記ノ物品ハ陸軍物品會計規程第十六條ニ據リ取扱フヘシ

一　俘虜情報局又ハ俘虜收容所ニ於テ領置セル俘虜死亡者ノ遺留品
二　俘虜情報局ニ於テ領置セル敵國戰死者ノ遺留品
三　俘虜收容所ニ於テ俘虜ヨリ領置セル物品
四　俘虜ニ對スル寄贈及俘虜ノ發送ニ係ル物品

▲遞信省物品出納規程（抄錄）（明治四十三年七月公達第六一三號）

第三條　左ニ記載シタル物品ハ物品會計規則第一條第二項ニ依リ之ヲ指定ス

一　郵便ニ關スル法令ニ依リ保管スル物品
二　電氣事業ノ監督ニ關スル法令ニ依リ試驗檢定ノ爲提供ヲ受ケタル物品
三　船燈信號器及救命具取締ニ關スル法令ニ依リ試驗檢定ノ爲提供ヲ受ケタル物品
四　入札保證金又ハ契約保證金代用トシテ提供ヲ受ケタル國債證券
五　特設電話ニ關スル料金トシテ假納中ニ係ル郵便切手
六　遞信博物館陳列品トシテ寄託ヲ受ケタル物品

▲關東廳物品出納規程（抄錄）（大正三年三月十六日關東都督府訓令第一號）

第四條　物品會計規則第一條第二項ニ依リ左ノ物品ヲ指定ス

一　拾得品
二　囚人、刑事被告人、行旅病者其ノ他ノ所持品
三　前各號ノ外法令ノ規定ニ依リ保管スル物品

○陸軍兵備品會計規則

●勅令第二十二號　明治二十四年三月十二日

改正　明治三四年第九勅

第一條　陸軍兵備品ハ分テ出師準備品連常兵備品ノ二類トス

第二條　出師準備品トハ左ニ揭クル諸品ヲ云フ

一　兵器彈藥及各兵器具竝材料

二　祕密圖書

三　馬匹及戰時之ニ要スル器具

四　戰用糧秣及炊爨具

五　戰用被服及裁縫具

六　戰用衞生材料

七　戰用獸醫材料

八　戰用天幕

第二十一條　雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財產ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條　前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間內ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條　第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間內ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財產ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條　政府ハ國有財產ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フ

ヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條　政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財產增減總計算書及每五年三月三十一日現在ノ國有財產現在額總計算書ヲ調製シ會計檢查院ノ檢查ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財產增減總計算書ニハ各省ノ國有財產增減報告書ヲ、國有財產現在額總計算書ニハ各省ノ國有財產現在額報告書ヲ添附スヘシ

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年三月二十九日勅令第六十一號ヲ以テ十一年四月一日ヨリ施行）

第二十八條　第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ內公共用財產ニ付之ヲ適用セス

第二十九條　第二十六條ノ規定ニ依ル國有財產增減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財產現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條　北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條　國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國

有林野ノ增減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條　從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

○國有財産法施行令

●勅令第十五號　大正十一年一月二十八日

改正　昭和二年第四二號

第一章　總則

第一條　左ニ揭クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

一　船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠

二　不動産又ハ前號ニ揭クル動産ノ從物

三　事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四　地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利

五　株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條　各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第二條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、製鐵所特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

（昭和二年三月第四二號ヲ以テ改正）

第三條　各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ

二　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三　雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四　營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條　各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條　前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及

第二十七條　國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條　國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條　寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章　臺帳

第三十條　國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條　國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一　種目

二　所在又ハ所屬

三　數量

四　價格

五　得喪變更ノ年月日及事由

六　其ノ他必要ナル事項

第三十二條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額

二　立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格

三　建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格

四　權利ニ付テハ第一條第四號ニ揭クルモノハ見込價格、第五號ニ揭クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條　土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用

セス

第三十四條　作業會計若ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ又ハ製鐵所特別會計ノ固定財産ノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格又ハ財産價格ニ依ルヘシ（昭和二年三月第四二號ヲ以テ改正）

第六章　計算書及報告書

第三十五條　各省大臣ハ會計檢査院ニ證明ノ爲國有財産ノ增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條　各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産增減報告書ニ基キ國有財産增減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産增減報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第三十七條　各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七章　雜　則

第三十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條　第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ樣式及送付期限ニ付テハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條　前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條　本令ニ定ムル帳簿及書類ノ樣式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附　則

第四十二條　本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ增減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達　皇城周圍內外ノ濠壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第百四十六號達（養水溜池井溝等借地料賦課區分ノ件）

明治八年第百九十八號達（官用地ノ內鐵道用地存城地開拓使用地ハ該省使限リ處分セシムルノ件）

明治九年第四十六號達（皇城周圍內外ノ濠壘等修繕改築ノ節ハ陸軍省ヘ協議伺出テシムルノ件）

明治十三年第六號達（公立中小學校及公立專門學校地所無代價下渡制限ノ件）

明治十三年七月八日達　皇城周圍內外ノ濠壘外岸接近ノ

官有地ヘ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達（公立農學校商業學校職工學校設置ノ地所無代價下渡ノ件）

明治十六年第四十五號達（公立農學校實驗用田圃ニ供スル官有地無借地料使用差許ノ件）

官有地特別處分規則（明治二十三年七月二十二日勅令第百三十五號）

官有財産管理規則（明治二十三年十一月二十五日勅令第二百七十五號）

官有地取扱規則（明治二十三年十一月二十五日勅令第二百七十六號）

明治二十四年勅令第十五號（帝國議會供用ノ官有財産ニ關スル件）

明治二十七年勅令第九十二號（軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル物件ノ貸付賣渡ニ關スル件）

明治三十六年勅令第九十六號（官有財産管理規則及官有地特別處分規則準用ニ關スル件）

明治三十九年勅令第二百二十號（神社寺院佛堂合併跡地ノ讓與ニ關スル件）

明治四十一年勅令第百十九號（河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノタメ不用ニ歸スル土地ノ處分ニ關スル件）

明治四十二年勅令第七十號（陸軍營繕費補充資金特別會計ノ爲ニスル陸軍ニ於ケル土地ノ貸付ニ關スル件）

大正六年勅令第二百二十四號（輕便鐵道材料及附屬物件ノ

譲與ニ關スル件）

第四十四條　本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條　本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條　各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條　前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

○國有財産法施行規則

●大藏省令第十四號　大正十一年二月八日

改正　大正一二年第六一號、昭和二年第五院

第一條　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舍、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射撃場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接續スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　國有財産ノ臺帳ハ第一號樣式ニ據ル但シ帝國鐵道會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ竝ニ製鐵所特別會計ノ固定財産ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得（昭和二年三月第五號ヲ以テ改正）

國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條　臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ揭クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ內之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號樣式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條　國有財産現在額報告書及國有財産增減報告書ハ第二號及第三號樣式ニ據ル

附　則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（國有財産臺帳）

帳臺産財有國

何會計所屬

何財産

管理廳名

備考

一本臺帳ハ一般會計及各特別會計所屬別ニ公用財産、營林財産及雜種財産每ニ別冊トシ尙公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上祕密ヲ要スルモノ、雜種財産中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各別冊ト爲スモノトス

二各臺帳ニ登錄スヘキ國有財産ノ區分及種目ハ別表ノ定ムル所ニ依ルモノトス但シ工作物及器具機械ニ付テハ必要ニ應シ適宜其ノ種目ノ追補ヲ爲スコトヲ妨ケス

三各臺帳ハ土地ノ種目別一區域ヲ基準トシテ口座ヲ分チ當該土地ノ定著物ハ勿論其ノ上ニ存スル官廳其ノ他ニ從屬スル動産及權利ヲモ其ノ口座ニ整理スルモノトス但シ土地ヲ基準トスル口座ニ整理シ難キモノニ付テハ別ニ口座ヲ設クルコトヲ要ス

四各臺帳ニハ卷頭ニ索引ヲ附シ卷末ニ總括ヲ附スルモノトス但シ索引及總括ハ便宜各別冊ト爲スコトヲ妨ケス

五各臺帳ノ口座ハ公用財産ニ在リテハ土地ノ種目ニ冠シタル名稱（例ヘハ何廳、何工場、何練兵場等ノ如シ）ヲ附シ所屬官廳順ニ、營林財産又ハ雜種財産ニ在リテハ名稱ヲ附セス道府縣郡市（市ニ區アルモノニ付テハ市及區）區町村順ニ、其ノ土地ヲ基準トセサル口座ハ末尾トシ保管ノ官廳順ニ編綴スルモノトス

六各口座ハ土地（地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シ土地ノ次トス）立木竹、建物、工作物及器具機械（事業所以外ニ在リテハ單ニ工作物トス）、船舶、鑛業權（砂鑛權ハ鑛業權ニ準ス）、株式及持分ノ順序ニ依リ整理スルモノトス

七各樣式ノ標題ハ公用財産ニ在リテハ口座名、營林財産及雜種財産ニ在リテハ所在地（市區町村）名又ハ保管ノ官廳名ニ依ルモノトス但シ所在地名ニ依ルモノハ便宜之ヲ省略スルコトヲ妨ケス

八沿革欄ニハ臺帳登錄ニ至ル迄ノ沿革ヲ詳細ニ記入スルモノトス

九年月日欄ニハ得喪變更其ノ他登錄ヲ要スル事由ノ發生シタル年月日ヲ記入スルモノトス

十公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財産中寺院若ハ佛堂ノ用ニ供シ又ハ公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノニ付テハ土地ノ價格及土地ノ定著物ニ關スル記入ヲ要セサルモノトス

十一數量ノ單位ハ別表ノ定ムル所ニ依リ單位未滿ノモノ及特ニ單位未滿ヲ存スルノ必要アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十二一口座全部消滅シタル場合ニ於テハ之ヲ除斥シ別ニ編綴保存スルモノトス